

第 部 教員の総合的業績評価について

第1部

教員の総合的業績評価について

第1章 教員の教育 管理運営 社会貢献業績調査について

目 的

大学の点検評価は、大学が国内外において社会が求める教育・研究機関として十分責任を果たしているか否か点検評価し、不十分な点に改善を加え、不断に改革することを目的とするとともに、点検評価結果の公表により、大学構成員として教員が行っている活動が社会に公表され、アカウンタビリティを果たすことを目的としている。この場合、大学が機関として社会における役割を果たしているかどうかを問うのであるが、その機関の機能は構成員個々の活動や業績と不可分のものである。

大学の果たすべき役割は高度な教育と研究の維持・発展であり、個々の教員について教育活動と研究活動の双方にわたり、その貢献を適切に評価する必要がある。また、組織が効率的な管理運営がなされていなければ個別の教育、研究による成果も期待できないし、複雑に高度化した現代社会において、大学や専門家としての教員には社会へのさまざまな役割が期待されており、これらの社会的貢献としての活動も大学及び教員の業績の一部として評価される必要がある。

このような目的で北海道大学及びその構成教員の自己点検評価が実施されており、本学における大学改革の資料として、利用されている。

平成15年度調査について

本調査は、平成11年度から実施しており、平成12年度からは調査結果を個人データとして公表することを前提に実施している。

なお、本学が点検評価を開始した平成4年度から平成10年度までの、教員の教育、管理運営、社会貢献業績評価に関する検討経緯については、平成13年度年次報告書で詳細に報告されていることから、ここでの説明を省略する。

平成15年度は、北海道大学に在籍する教員2,054名について調査を実施したところ、全体の89.1%にあたる1,831名の回答を得た。平成12年度から14年度は、個人データを冊子体として公表したが、今年度はホームページ及びCD-ROMで公表する。

本調査にかかる意見について

平成15年度の「教育，管理運営，社会貢献業績調査票」の末尾に設けられた「『本調査』」にかかる意見（以下では「意見」とする）の記入欄には，多くの意見が寄せられた。そのすべてに回答することは不可能であるが，そのうち主だったものについて，現時点での教員業績評価専門委員会の判断を述べることにする。

この点は昨年度も述べたことであるが，本調査の意義そのものに対する否定的見解の表明が少なくない。この調査は，国立学校設置法等の規定に基づき，国立大学として社会への説明責任を果たすことを主な目的とし，あわせて教育改善や大学評価・学位授与機構による評価のための基礎資料などとしても役立つようとするものである。また，本報告書の一覧が，教員の総合的業績評価に資することを期待するものであるが，本一覧の内容のみで教員個人の「教育，管理運営，社会貢献業績」のすべてを把握できるという前提には立っていない。「意見」でも指摘されているが，入試問題作成など本調査では公表できない重要な業績が存在しているし，時間数に還元できない教育業績もあることは言うまでもない。そうした意味において，本一覧は全学レベルでの統一的な調査によって把握・公表できる範囲の資料である。

また，本調査の意義そのものに対する否定的見解は「教育，管理運営，社会貢献業績」に対する評価の難しさの表れとも言えよう。本専門委員会においても，平成13年度実施の調査から各教官の「教育，管理運営，社会貢献」に対する考え方や実績を記述できる欄（ポートフォリオ）を設け，各教官の活動がより明確になるよう，また各教官の教育，管理運営，社会貢献に取り組む姿勢をアピールできるよう工夫してきたところである。

調査票記入方法の簡素化，省力化についての要望も数多く寄せられている。平成11年度の調査開始以来，調査項目や記入欄などの改良を重ねてきており，調査方法が固まった段階でホームページなどを利用する方法に移行するというのがこれまでの方針である。今年度は，調査項目等に多少の変更を行ったが，形式はほぼ固まったと言える段階に達している。また，今年度すでに公表方法を冊子体からCD-ROMに変更したことであり，早急に「研究活動一覧」と一体化した形でのホームページによる公表や入力などの作業の簡素化を図り，さらには，他の調査資料や事務部作成資料とのデータ共有による重複作業の解消なども検討すべき課題である。

これまでの総括と今後の課題

大学が真に果たすべき役割に向けて大学を改革するために，大学についての点検評価とともに，大学を構成する個々の教員の活動の点検評価も必要であり，また，個々の教員の業績の点検評価にあたり，教育，研究，管理運営および社会貢献の活動にわたって，総合的に評価する必要があることは，目的の欄に記したとおりである。

これまで本学では，点検評価委員会が毎年，全教員を対象に，研究業績および教育・管理運営・社会貢献を調査し，公表してきた。このような調査データを教員の総合的業績評価にどのように反映させるか，という根本的な問題に関しては全学的な検討課題として残したまま，当委員会は調査方法および公表方法の改善に努めてきた。しかし，同時に，評価に結びつかない

調査に膨大な労力を払うことへの疑問が呈されてきたのも事実である。このことは、教員の業績が多様であるばかりでなく、その評価は、どういう観点から評価するかという立場によって異なるということの反映でもある。例えば、学外の委員会や審議会への貢献も、観点によってはプラスと見る場合もあれば、マイナスと見る場合もあろう。また、研究面を重視する部局もあれば、教育貢献を重視する部局もあろう。その一方で、全学的な基準を設定すべきであるという議論もあり、これまでの「教育，管理運営，社会貢献業績」の点検評価は、調査と公表の段階でとどまるのもやむを得なかった。むしろ、自己点検とアカウントビリティに関して、相当の役割を担ってきたと言うべきであろう。

平成16年度以降については、新たに「評価室」を設置し、責任ある体制で本学の評価を機動的に実施し、各研究科等において実施される評価の支援を行うことが想定されている。当委員会がこれまで行ってきた調査と公表の手法および蓄積されたデータを基に、総合的業績評価に関する基本方針について、評価室において早急に検討を開始することが望まれる。

また、新たな体制では、評価に必要なデータの集積についても、事務局に企画部経営分析室を設け一元的に担当することが想定されている。これまで本調査で取り扱ってきた項目は、評価の基礎資料として集積されるべきものであり、データの収集は引き続き行われることになる。収集と公表に関しては、前節で述べたような簡素化と省力化を進めることが必須であり、将来的には、今後予想される広汎・多岐にわたる評価・調査に迅速に対応し得る総合的なシステムの構築が望まれる。

平成15年7月

教 員 各 位

点検評価委員会教員業績評価専門委員会

委員長（薬学研究科長）野村靖幸

教員の「教育，管理運営，社会貢献業績」の調査について（依頼）

点検評価委員会では「教員個々の評価は，教育，研究，管理運営及び社会貢献の業績を総合的に行う必要がある」との考えから，平成10年度から「教員の総合的業績評価の在り方」を課題の一つとして取り上げ「教員業績評価専門委員会」を設置して検討してまいりました。

今日の大学に課された役割が高度の教育と研究水準の維持にあることを考えると，教員についても，教育活動と研究活動の双方にわたり，その貢献を適切に評価する必要があります。また，組織の効率的な管理運営がなければ，個別の教育・研究における成果も期待できません。一方，複雑高度化した現代社会において，高度専門的な教育機関としての大学や専門家としての教員には，学生を対象とする教育活動や学界中心の研究活動の他に，さまざまな役割が期待されており，これらの社会貢献活動も，大学及び教員の業績の一部として評価される必要があると考えられます。

これらのことから，本専門委員会では，昨年に引き続き，本学の専任教員（調査時点で本学に在籍し，かつ平成14年4月から平成15年3月の間に本学に在籍していた教授，助教授，講師及び助手）を対象に「教育，管理運営，社会貢献業績」に係る業績調査を実施いたします。

趣旨をご理解いただき，ご協力方よろしく申し上げます。

つきましては，記入要領及び本年刊行した「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」を参考の上「平成15年度 教育，管理運営，社会貢献業績調査票」に必要事項を記入し，調査票のみを所属部局の〆切日までに事務担当掛へ提出するようお願いいたします。

記入要領及び調査票の様式（PDF形式，一太郎形式，Word（Macintosh版・Windows版）形式）については，本学ホームページの「点検・評価（<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/tenken/chosa-index.htm>）」に掲載しておりますので，ダウンロードして利用できます。ただし，提出にあたってはプリントアウトして提出願います。

なお，記入項目の一部を簡略化しましたので，調査票の様式も昨年度とは若干違っておりますので，ご留意願います。

また，調査結果は，今年度から印刷物による公表に替えて，本学ウェブサイトにより個人ごとの一覧として公表させていただきますが，本調査結果が各教官の活動の客観的評価並びに自己啓発に有用な資料となるよう，今後も更に検討していきたいと考えております。

おって，不明の点は下記に照会願います。

調査に関する照会

教員業績評価専門委員会委員長 薬学研究科長 野村靖幸（TEL 3246）

” 委員 低温科学研究所長 本堂武夫（TEL 5466）

事務担当

総務部企画室点検・評価担当 玉木又は笹原（TEL 3600）

「平成15年度 教育, 管理運営, 社会貢献業績調査票」記入要領

平成14年4月から平成15年3月までの間の業績を記入してください

記入欄に付されている【 】数字は, データの集計・分析を電算処理するために利用するものです。該当項目がないときは, 0 と記入してください。

所属部局, 職名, 研究分野, 氏名, 年齢

所属部局, 職名及び年齢は平成15年4月1日現在で記入願います(【1】, 【2】)。

所属部局名については, 最初に部局名とその専攻等名を記入してください。併せて下記の部局コード番号表を参考にしてコード番号も記入してください。

研究分野については, 研究者総覧に倣って3つ以内を記入してください。

特記事項については, 当該年度(平成14年4月から平成15年3月)において, 長期出張・研修, 休職等があった場合, その事項と期間を記入してください。

部局コード番号

部 局 名	番号	部 局 名	番号	部 局 名	番号
文学研究科・文学部	01	獣医学研究科・獣医学部	11	機器分析センター	23
教育学研究科・教育学部	02	水産科学研究科・水産学部	12	留学生センター	26
法学研究科・法学部	03	言語文化部	13	量子集積エレクトロニクス研究センター	27
経済学研究科・経済学部	04	地球環境科学研究科	14	エネルギー先端工学研究センター	28
理学研究科・理学部	05	国際広報メディア研究科	15	高等教育機能開発総合センター	29
医学研究科・医学部	06	低温科学研究所	16	先端科学技術共同研究センター	30
医学部附属病院	37	電子科学研究所	17	総合博物館	32
歯学研究科・歯学部	07	遺伝子病制御研究所	18	北方生物圏フィールド科学センター	36
歯学部附属病院	38	触媒化学研究センター	19	保健管理センター	33
薬学研究科・薬学部	08	スラブ研究センター	20	体育指導センター	34
工学研究科・工学部	09	情報基盤センター	39	医療技術短期大学部	35
農学研究科・農学部	10	アイソトープ総合センター	22		

研究科・学部の附属施設に所属する教官は, 研究科・学部のコード番号を記入してください。

教育の業績

1 教育の経験

1) 北海道大学における専任教員としての在籍年数

平成15年3月末日までの年数を記入してください。

1年未満の期間は月数を記入してください。例: 0年6月

2) 北海道大学以外の高等教育機関(高等専門学校以上。以下同じ)における教育経験年数

3) 1) ~ 2) に該当しない場合で, 高等教育機関における非常勤講師の教育経験年数

2 学部教育の実績

1) 担当授業科目

担当授業科目について以下の項目を記入してください。担当授業科目とは、授業科目表に記載され、単位が認定される講義、演習、文献講読、論文指導（全学教育科目の「論文指導」など）、実験、実習、その他をいいます。助手の教員の担当する実験・実習も含みます。なお、学内非常勤担当科目も、ここに記入してください。

科目名（実働単位数）

科目名はカリキュラム上の分類で記入してください。

実働単位数は次の方法で計算して記入してください。

計算方法

授業の担当形態は、単独、分担、チーム担当など様々です。ここでは授業に参加し、学生に接している時間を記入してください。授業の準備に要した時間、休講時間及び代講してもらった時間は算入しません。

授業時間は、便宜上、授業科目の種類にかかわらず、90分授業15回を2単位として計算します。

15回又は、その年度の授業全体に参加したときは2単位とします。

他は「参加授業(90分授業)回数×2÷15」で計算します。

小数点第2位を切上げで記入してください。

例えば1回参加は「 $1 \times 2 \div 15 = 0.14$ 」で「0.2単位」と記入します。

科目区分

全学教育、専門教育のいずれかに○印を付けてください。

教職課程科目、H U S T E Pの担当の場合は、全学教育に○印を付けてください。

担当教員

担当教員数を記入してください。

クラスサイズ

成績を評価する学生総数を記入してください。

授業形式

授業形式を下記から選択し、記号を記入してください。

A：講義、B：演習・ゼミ、C：実験・実習・技術演習・実技調査指導、

D：小グループ(チュートリアル)、E：その他(H U S T E Pなど)

授業内容キーワード

内容に関するキーワードを、必要であれば記入してください。

総科目数を記入してください(【3】)。

2) 担当授業科目の内訳、総実働単位数

担当授業科目の内訳を実働単位数で記入してください。

複数教員担当の場合も実際の参加時間で計測し、研究・診療の見学への対応は、実際の学生に対面した時間で計算します。計算方法は、1)のと同じです。

総実働単位数を記入してください。(【4】)

3) 卒業論文指導

所属する学部により異なりますが、学生に対する卒業論文指導について、年間指導人数(【5】)を記入してください。

なお、大学院の論文指導は別に扱います。

4) セミナー等

カリキュラム上の授業科目になっていないセミナー等について記入してください(【6】)。

3 大学院教育の実績

1) 担当授業科目

担当授業科目について、学部と同じ要領で、以下の各項目を記入してください。

なお、学内非常勤担当科目も、ここに記入してください。

科目名(実働単位数)

科目名はカリキュラム上の分類で記入してください。

実働単位数は次の方法で計算して記入してください。

計算方法

授業の担当形態は、単独、分担、チーム担当など様々です。ここでは授業に参加し、学生に接している時間を記入してください。授業の準備に要した時間、休講時間及び代講してもらった時間は算入しません。

授業時間は、便宜上、授業科目の種類にかかわらず、90分授業15回を2単位として計算します。

15回又は、その年度の授業全体に参加したときは2単位とします。

他は「参加授業(90分授業)回数×2÷15」で計算します。

小数点第2位を切上げて記入してください。

例えば1回参加は「 $1 \times 2 \div 15 = 0.14$ 」で「0.2単位」と記入します。

課程

修士又は博士のいずれかに 印を付けてください。いずれにも該当するときは、両方に 印を付けてください。

担当教員

担当教員数を記入してください。

クラスサイズ

成績を評価する学生総数を記入してください。

授業形式

授業形式を下記から選択し、記号を記入してください。

A: 講義, B: 演習・ゼミ, C: 実験・実習・技術演習・実技調査指導, D: その他
授業内容キーワード

内容に関するキーワードを、必要であれば記入してください。

総科目数及び総実働単位数を記入してください(【7】、【8】)。

2) 担当大学院学生数

大学院の指導は、各大学院生の研究テーマと関連して直接指導した者のみについて、

研究指導学生数及び学位取得人数を記入してください(【9】～【12】)。研究指導学生数とは、在籍している研究指導学生の総数をいい、学位取得の有無を問いません。

また、特別研究学生とは、他大学の大学院に在籍している学生で、本学の大学院又は研究所等において研究指導を受けようとする学生のことです。

(人)には留学生数を、内数で記入してください。

3) 論文博士取得のための研究指導

論文博士取得のため直接指導した卒業生、社会人、他大学学生等の総数を記入してください(【13】、【14】)。

(人)には留学生数を、内数で記入してください。

4) 論文審査の数

主査又は副査として論文審査を行った数を記入してください(【15】～【22】)。

(人)には留学生数を、内数で記入してください。

4 学部学生・大学院学生指導

正規授業の範囲外の学生指導(クラス担任、留学生の指導、就職のための指導、授業外の補講・個人学習等、病院臨床実習の指導等、安全指導等、教育実習・工場見学・社会見学・調査への引率、修学・生活・クラブ活動への指導等)について記入してください。また、総件数を記入してください(【23】)。

5 附属病院における研修医等の指導の実績

附属病院における研修医等の指導の実績を記入してください(【24】、【25】)。

6 学外非常勤講師等の実績(実働単位数)

北海道大学以外の高等教育機関における学部教育・大学院教育の実績を記入してください(【26】)。

実績は、学部教育・大学院教育と同様の方法で計算した実働単位数で記入してください。

なお、学内非常勤講師については、「2 学部教育の実績」及び「3 大学院教育の実績」の欄に記入してください。

7 教育改善に係る業績

1) 授業用教科書等(教科書の翻訳、教材を含む)の執筆・作成

講義・演習等で使用するために執筆した教科書、翻訳書等を記入してください。文献については、本学の『研究活動一覧』の書式(著者名、書名(雑誌名)、総ページ数(頁(最初-最後))、発行所、発行場所、発行年等)で記入してください。複数の場合は各々記入してください。

教材については、電子メディア、プリント、OHP、テープ、地図、模型等で一般的に使用できるものを、タイトルを付して記入してください(【27】)。

2) 教育改善に関する著書、論文、啓蒙文等

教育改善に関して執筆した著書、論文、啓蒙文等を記入してください(【28】)。新聞等への執筆もここに記入してください。

3) F Dの企画・運営等

教育活動に関する「講演・発表」、「研修会（F D）の担当」、「研究」、「研究補助金の取得」、「受賞」等

講演、発表等については、論題、会の名称、主催、開催日、開催地、対象者、参加者規模（人数）等を記入してください。

研修会（F D）の担当については、対象となる大学・学部名、対象者、参加人数、内容、企画実施（主催に参加した場合）等を記入してください。

研究については、題名、参加人数等を記入してください。

研究補助金の取得については、題名、金額等を記入してください。

受賞については、受賞名を記入してください。

その他F Dの企画・運営等に関わったことがありましたら、記入してください(【29】)。

4) F Dへの受講参加

教育改善に関する様々な集会（F Dを目的とした研修会、講演会、研究会、セミナー、シンポジウム、ワークショップ、新任教員研修会、専門分野の教育学会、例えば工学教育学会、医学教育学会、語学教育学会等）への参加について、会名及び主催等を記入してください(【30】)。

8 その他の教育に係る業績

該当するもの（レポートの評価及び添削、教材作成などの補助業務、教授法の工夫等）がありましたら、記入してください(【31】)。

管理運営の業績

ここでは、北海道大学における管理運営への貢献を記入してください。

1 部局長等

学部長、研究科長、研究所長、センター長、施設長、言語文化部長、附属病院長、評議員等の職にあった場合は、職名及び任期を記入してください。

なお、任期については、平成14年4月から平成16年3月までが任期の場合は、「平成14年4月～16年3月」と記入してください。

2 全学的委員会、専門委員会、ワーキンググループ等

全学的委員会等の総件数、名称及び役職（委員、委員長、小委員長、ワーキンググループ座長等）を記入してください(【32】)。

ただし、公表できないものは記入しないでください。

総件数には、名称を公表できないものも含めてください。

3 所属部局等における管理運営の実績

研究科、学部、研究所、研究センター等における委員会等（専攻長、講座責任者等を含みます）の総件数、名称及び役職（委員、委員長、小委員長、ワーキンググループ座長、世話人、責任者等）を記入してください(【33】)。

4 その他の管理運営の業績

その他で負担が顕著なものがありましたら、記入してください(【34】)。

社会貢献の業績

1 審議会，委員会等の実績

専門分野に関連して兼職している審議会，委員会等の総件数，名称，役職（委員，会長，部会長，委員長，小委員長等）及び年間開催回数を記入してください(【35】)。

ただし，公表できないものは記入しないでください。

総件数には，名称を公表できないものも含めてください。

2 国家試験委員等の実績

各種の国家試験等の出題委員，採点委員等に就任したことがあれば，総件数及び名称を記入してください(【36】)。

ただし，公表できないものは記入しないでください。

総件数には，名称を公表できないものも含めてください。

3 上記以外の公的社会活動の実績

上記以外に，国際機関，国，地方公共団体，学術団体及びその他の公的団体からの委嘱を受け，本学の下承を得てなされた活動で，専門分野に関連して積極的に社会貢献したと思われるものがありましたら，総件数，名称及び活動の内容を記入してください(【37】)。

4 学会，学術団体等への貢献

1) 学会，学術団体等

学会，学術団体等（学術会議を含む。以下同じ）の理事長，会長，部会長，理事，監事，運営委員，企画委員等に就任したことがあれば，総件数，名称及び役職を記入してください(【38】)。

2) 学会，学術団体等に対するその他の貢献

学会，学術団体等において，特別の企画・運営（国際シンポジウムの開催，学会の特別検討委員会の委員，改革委員会座長等），機関紙・雑誌の編集，論文の査読及びその他の重要な職務に携わったことがあれば総件数，名称及び内容を記入してください(【39】)。

5 診療等による貢献

社会に対して高度先端医療を担う本学の附属病院・保健管理センターにおける診療等について記入してください(【40】)。特定の患者に対する症例検討会以外の研究会に要した時間は算入しないでください。医師養成の卒後教育のための時間は，教育業績の欄に記入してください。

6 社会人学習等への貢献

「公開講座・講演会等」，「大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成」，「高校生を対象

とした学部体験入学等への参画」等

高校生・一般社会人等を対象とする公開講座，講演会等の講師を担当したことがありましたら，主催者，対象者，参加人数，講座等名，講義題名を記入してください。

大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成にあたり，企画・編集等で積極的に貢献したことがありましたら記入してください。

大学，学部，学科又は学会等の主催する高校生対象の学部体験入学等の企画，準備，引率，講演，模擬授業等で積極的に貢献したことがありましたら記入してください。

その他該当するものがありましたら，記入してください（【41】）。

7 専門分野に関連して作成した作品

文芸作品，芸術作品，建築作品，化石モデル等，該当するものがありましたら記入してください（【42】）。

8 以上の他に，専門分野に関連した社会貢献の事項

該当するものがありましたら記入してください（【43】）。また，外部の団体（企業，民間団体を含む）からの要請による研究会，講演会等への参画で，貢献が顕著なものもここに記入してください。

教育，管理運営，社会貢献業績について

教育，管理運営，社会貢献について，考え方や実績についての説明があれば記入してください。

なお，当欄に記入いただいた事項は，他の調査項目の回答と同様に公表されます。

「平成15年度 教育，管理運営，社会貢献業績調査票」

(平成14年4月～平成15年3月の業績)

所属部局： _____ 【1】
 (部局名を記入して，記入要領のコード表によりコード番号を右欄に記入願います。)

職 名： 1 教授 , 2 助教授 , 3 講師 , 4 助手 (該当する番号を右欄に記入願います。) 【2】

研究分野： _____

(ふりがな) _____

氏 名： _____

年 齢： _____ 歳

特記事項： _____
 (期間：平成 年 月～ 年 月)

教育の業績

1 教育の経験

1) 在籍年数 _____ 年 _____ 月
 (助手 _____ 年 _____ 月，講師 _____ 年 _____ 月，助教授 _____ 年 _____ 月，教授 _____ 年 _____ 月)

2) 北海道大学以外の高等教育機関での教育経験年数 _____ 年 _____ 月

3) 1)～2)に該当しない場合で，高等教育機関での非常勤講師の経験年数 _____ 年 _____ 月

2 学部教育の実績

1) 担当授業科目(教職課程科目，H U S T E Pの担当もここに記入してください。なお，科目区分は全学教育としてください。)

科 目 名	実 働 単位数	科目区分 該当欄に 印を付けて 下さい。	担 当 教 員	クラス サイズ	授業 形式	授業内容キーワード
		全学教育	人	人		
		専門教育				
		全学教育	人	人		
		専門教育				
		全学教育	人	人		
		専門教育				
		全学教育	人	人		
		専門教育				
		全学教育	人	人		
		専門教育				
		全学教育	人	人		
		専門教育				

【3】 総科目数 _____

2) 担当授業科目の内訳，総実働単位数

講義	単位	演習	単位	実験・実習	単位	その他	単位
----	----	----	----	-------	----	-----	----

【4】総実働単位数

3) 卒業論文指導

年間指導人数	【5】	人
--------	-----	---

4) セミナー等

対象 該当欄に印を付けて下さい。		1 学部学生のみ		2 大学院学生と合同
年間	【6】			単位相当

3 大学院教育の実績

1) 担当授業科目

科目名	実働単位数	課程 該当欄に 印を付けて 下さい。	担当 教員	クラス サイズ	授業 形式	授業内容キーワード
		修士	人	人		
		博士				
		修士	人	人		
		博士				
		修士	人	人		
		博士				
		修士	人	人		
		博士				
		修士	人	人		
		博士				
		修士	人	人		
		博士				
		修士	人	人		
		博士				

【7】総科目数

【8】総実働単位数

2) 担当大学院学生数

修士課程	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
博士課程	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
研究生	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
特別研究学生	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
合計人数	【9】	人，【10】(人)	【11】	人，【12】(人)

(人)には留学生数を，それぞれ内数で記入してください。

3) 論文博士取得のための研究指導 【13】 _____人 【14】(_____人)
 (_____人)には留学生数を、内数で記入してください。

4) 論文審査の数

主査	修士課程【15】 _____人, 【16】(_____人)	博士課程【17】 _____人, 【18】(_____人)
副査	修士課程【19】 _____人, 【20】(_____人)	博士課程【21】 _____人, 【22】(_____人)

(_____人)には留学生数を、それぞれ内数で記入してください。

4 学部学生・大学院学生指導(クラス担任, 留学生の指導, 就職のための指導, 授業外の補講・個人学習等, 病院臨床実習の指導等, 安全指導等, 教育実習・工場見学・社会見学・調査への引率, 修学・生活・クラブ活動への指導等を記入願います。)

項 目	内 容
	内容:

【23】総件数 _____ 件

5 附属病院における研修医等の指導の実績

指導研修医等の人数 【24】 _____人	年間指導時間 【25】 _____時間	内容
--------------------------	------------------------	----

6 学外非常勤講師等の実績(実働単位数)

講義	単位	演習	単位	実験・実習	単位	その他	単位
----	----	----	----	-------	----	-----	----

【26】総実働単位数 _____

7 教育改善に係る業績

1) 授業用教科書等（教科書の翻訳，教材を含む）の執筆・作成

--

【27】総件数 _____ 件

2) 教育改善に関する著書，論文，啓蒙文等

--

【28】総件数 _____ 件

3) F Dの企画，運営等

教育活動に関する「講演・発表」，「研修会（F D）の担当」，「研究」，「研究補助金の取得」，「受賞」等

--

【29】総件数 _____ 件

4) FDへの受講参加

--

【30】総件数 _____ 件

8 その他の教育に係る業績

--

【31】総件数 _____ 件

管理運営の業績

1 部局長等

職 名	任 期
	平成 年 月 ~ 年 月
	平成 年 月 ~ 年 月

2 全学的委員会，専門委員会，ワーキンググループ等

1) 総件数

【32】 _____ 件

2) 主なもの3つ以内

委 員 会 等 の 名 称	役 職

公表できない委員会等の名称は記入しないでください。

3 所属部局等における管理運営の実績

1) 総件数

【33】 _____ 件

2) 主なもの3つ以内

委 員 会 等 の 名 称	役 職

4 その他の管理運営の業績

--

【34】 総件数 _____ 件

社会貢献の業績

1 審議会，委員会等の実績

1) 総件数

【35】 _____ 件

2) 主なもの3つ以内

審議会，委員会等の名称	役職	年間開催回数
		回
		回
		回

公表できない審議会，委員会等の名称は記入しないでください。

2 国家試験委員等の実績

1) 総件数

【36】 _____ 件

2) 主なもの3つ以内

委員等の名称

公表できない委員等の名称は記入しないでください。

3 上記以外の公的社会活動の実績

1) 総件数

【37】 _____ 件

2) 主なもの3つ以内

団体，機関等の名称	活動の内容

4 学会，学術団体等への貢献

1) 学会，学術団体等

総件数

【38】 _____ 件

主なもの3つ以内

団 体 等 の 名 称	役 職

2) 学会，学術団体等に対するその他の貢献

総件数

【39】 _____ 件

主なもの3つ以内

団 体 等 の 名 称	貢 献 の 内 容

5 診療等による貢献

機 関 名	診 療 科	週平均時間	年間時間
		時間	時間
		時間	時間

【40】 年間総時間数 _____

6 社会人学習等への貢献

「公開講座・講演会等」、「大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成」、「高校生を対象とした学部体験入学等への参画」等

--

【41】総件数 件

7 専門分野に関連して作成した作品

--

【42】総件数 件

8 以上の他に、専門分野に関連した社会貢献の事項

--

【43】総件数 件

教育，管理運営，社会貢献業績について，あなたの考え方や実績についての説明があれば記入してください。なお，当欄に記入いただいた事項は，他の調査項目の回答と同様に公表されます。

1．教育について

--

2．管理運営について

--

3．社会貢献について

--

「本調査」に係る意見

本調査について、内容にかかわらず様式その他、ご意見があれば下欄に記入願います。
次年度以降の参考にさせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

北海道大学点検評価委員会

第2章 学生による「授業アンケート」について

平成15年度（平成14年度後期および平成15年度前期）

はじめに

この授業アンケートは、各学部ならびに大学全体の授業内容を改善するための組織的取り組みの一環である。アンケート結果は各教員にフィードバックされ、個々の教員の授業改善に役立てることが求められるが、さらに組織として授業を改善するための指針も提供する。それは、時代や社会が、大学の各教員個人が優れた授業を展開することに留まらず、学部や大学全体が、組織として教育能力を向上させる、ということを要求しているからである。

平成4年に設置された北海道大学の点検評価委員会は、「学生による授業評価」を平成5年に試行、平成6年には全教員の授業を対象に本格的に実施した。平成7年には、学生の授業評価に対する教員の反応をアンケート調査した。その結果、学生による授業評価は授業改善に有効であり、2から3年に1度は実施すべきであると結論づけられた。

同時に、点検評価委員会では、発足当初から、教員の教育業績評価の必要性や教育に関する教員研修の必要性が議論されてきた。教育業績評価は、平成8年にそのフォーマットが提案され、平成10年に委員会で再検討された後、平成11年から毎年実施することとなった。一方、学生側からの評価は、平成11年度前期の授業について学生による授業評価として「授業アンケート」を実施し、その詳細な解析結果が年次報告書に掲載された。平成12年度には、平成11年度後前期と12年度前期の「授業アンケート」結果を比較して、授業が改善されたか否かを解析した。このアンケートの結果は各教員にフィードバックされ、各教員が獲得した評点で、全学や所属学部での位置づけ・順位がわかるようにした。さらに、アンケート結果は公表する方向で検討され、各教員の所属部局長に送付された。部局によっては、これをさらに解析し、教育改善の指針を得たところもあった。また、自らの授業に客観性をもたせるために、自分の授業を学生の立場に立って評価する教員の自己評価も行い、学生の反応と比較できるようにした。

一昨年度からは、1年分のデータを解析できる状況となり、北海道大学の授業の総体について論ずることができるようになった。今年度も、1年分（平成14年度後期と平成15年度前期）のデータ解析を行うことにする。

今年度のデータ解析の方針は以下の通りである。

- 1) 学部別に、講義・演習、必修・選択を区別し、集計する。また、それぞれの授業数、比率も比較する。
- 2) 「アンケート結果の解析」については、各設問について逐一解析し、グラフや表も掲載した上で、本年度の特徴等についてコメントする。
- 3) 「自由意見の解析」については、学生から見た「優れた授業」を分析することとし、授業の内容や工夫等について積極的に肯定している意見が多い授業を選び出し、その意見を紹介する。

各授業は、以下のように分類し、解析した。

- ・授業形態：講義，演習
- ・科目区分：全学教育，専門教育
- ・必修，選択の別
- ・受講登録学生数（クラスサイズ），アンケート提出率（授業出席率）

設問について

アンケートの設問は、前回と同様に以下のように設定した。

- A 「シラバスとその内容」
- B 「教員の授業法」
- C 「学生参加」
- D 「難易度」
- E 「学生の満足度・達成度」
- F 「出席・態度」
- G 「自由意見」

アンケートの設問は、教育の基本にしたがって、次のように構造化されている。

各教員はその教育機関において必要とされる授業科目を担当する。その必要性には根拠があり、その目標達成のために授業が設計される。目標は学生中心に表現される。授業は、その目標にしたがって、事前に周到に設計され、そのシナリオに沿って実行される必要がある（A）。授業は、教師がいかに行うかにかかっている（B）。授業は学生の参加をうながし、これに対応していく必要がある（C）。内容は、授業の受け手である学生が理解できなければ意味がない（D）。授業の成果は、受け手である学生の満足度、達成度で計ることができる（E）。学生の出席の頻度は、授業の質によっても変化し、また、学生の意欲によっても異なる（F）。個別の授業に対する設問以外の意見、および教育環境・授業環境に対する意見は、自由意見にあらわれる（G）。

アンケートにおいては、これらの授業の基本的な事項について、どのように設計され、実施され、その効果はどうであったかを、授業の受け手である学生が評価する。学生からは、試験や成績評価についての設問もほしいという要望もあるが、アンケートの回収率をあげ、学生の総体的な意見がでるように、期末試験以前の授業で実施することにしたため、試験や成績評価についての設問は置いていない。

また、学生が自由な意見も書けるように無記名とした。責任ある意見を書いてもらうためには記名にすべきであるという教員の意見もあるが、試験や成績評価を控えている時期に記名させることはフェアでなからうし、そうなれば学生と教員の間に信頼関係のないことを前提にしたアンケートになってしまうからである。

各項目での設問は、経年変化を解析するために、以下のように従来と全く同様とした。

- A 「シラバスとその内容」

シラバスと授業

- ・シラバスは、授業の目標，内容，評価方法を明快に示していた。
- ・授業は体系的に行われていた。

B 「教員の授業法」

B 1 教員と授業

- ・ 教官の熱意が伝わってきた。
- ・ 教官の話し方は聞き取りやすかった。
- ・ 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。

B 2 メディア（教育媒体）

- ・ 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的だった。

B 3 「負担」

作業量・負担

- ・ 授業の進行速度は適切であった。
- ・ 授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。

C 「学生参加」

学生との相互反応

- ・ 教官は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。
- ・ 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。

D 「難易度」

- ・ 授業内容の難易度は適切であった。

E 「学生の満足度・達成度」

- ・ 授業により知的に刺激された。
- ・ 授業の履修目標を達成できた。
- ・ 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。
- ・ 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。

F 「出席・態度」

- ・ この授業の自分の出席率は（ ）程度であった。
- ・ 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。

G 「自由意見」

以上の設問に対する「授業アンケート」は別紙のように作成し、各学部を実施を依頼した。アンケートは平成14年度後期および平成15年度前期授業の授業中に行い、そのアンケート用紙は、直接総務部企画室へ送付するという方法で回収した。この授業アンケートは各教員が担当科目のうち適当な1科目を選択して実施した。

平成15年6月

教授・助教授・講師 殿

点検評価委員会教員業績評価専門委員会
委員長 野村 靖 幸

学部学生による授業アンケート調査について（依頼）

本学では、平成4年度から実施している全学の点検評価において、平成11年度からは教官の総合的業績評価に資するために、各教官の教育に関わるデータの調査、及び学生による授業アンケート調査を実施しております。これらのアンケートは本学の教育の改善を目的としております。

学生による授業アンケートは、授業の受け手である学生の意見を授業改善にフィードバックするためのものです。ご協力方よろしくお願い申し上げます。

「授業アンケート」の実施について

1) 担当の授業（講義・演習）のなるべく終わりの時期、できれば最後の授業で実施してください。

2) 少なくとも1年間に一つの授業について調査願います。

今回は前期の授業について調査します。複数の授業を担当されている場合は、一つの授業について自分で選択してください。特に希望される場合には、講義と演習の二つの授業についても調査できます。

3) 一つの授業を複数教官が担当している場合は、原則として代表教官が授業全体についてアンケートを実施してください。

なお、都合により代表教官が実施できず、他の担当教官が代理で実施する場合も、アンケート提出票等には代表教官の氏名を記入してください。

4) 別添の『「授業アンケート調査」の実施要綱』に基づき、実施してください。

5) アンケート用紙は50部送付しておりますが、不足する場合には、各部局の教務担当掛に申し出てください（両面コピーでも結構です。）

6) 回収した「学生が記入したアンケート用紙」は、「アンケート提出票（教官用）」、「アンケート分析結果返信用封筒（所属部局・氏名を記入）」とともに「総務部企画室（点検・評価担当）行」の封筒に密封し、7月末日までに学内便で総務部企画室へお送りください。

7) アンケート分析結果は、後日、各教官にフィードバックされますので、趣旨に沿う授業を選んで調査願います。

なお、全体的分析結果は、平成15年度点検評価委員会年次報告書にとりまとめる予定です。

その他

不明の点等は下記に照会願います。

アンケート内容等 国際広報メディア研究科長 筑和 正格（内線5098）

事務担当 総務部企画室 玉木又は笹原（内線3600）

「授業アンケート調査」の実施要綱

この実施要綱は、アンケート調査の対象者である当該授業の受講者に、このアンケートの趣旨を理解し、協力してもらうためのものです。事情の許す限り、なるべく要綱に従ってアンケートを実施して下さい。

1. 当該授業のなるべく終わりの時期、できれば最後の授業で実施してください。
2. 事前にこの実施要綱を良く読み、「アンケート提出票(教官用)」、「アンケート分析結果返信用封筒」および回収用の袋(企画室点検・評価担当の青封筒)に必要な事項を記入して下さい。ただし、アンケート提出票の「提出枚数」欄はアンケート回収後記入いただくこととなります。
3. アンケートの実施に際しては、記入のために最低10分間の時間を確保して下さい。
4. アンケート用紙を配布したら、回収用の袋を全員に示して、以下のような説明を行って下さい。
 - 1) これから、本学の点検評価委員会による授業アンケート調査を実施いたします。
このアンケート調査は本学の授業を改善するために毎年行われているもので、それぞれの教官は自分の担当する授業の少なくとも一つを選択して実施することになっています。本年は、この授業において実施することにいたしましたので、ご協力を願います。
 - 2) ここで行われたアンケート調査の結果は、点検評価委員会が集計し、その結果を担当の教官とその教官が所属する学部・研究科・研究所・センターなどの部局に送り、次年度の授業の改善のために利用されます。将来この科目を履修する学生諸君のためになるものですので、与えられた時間を十分に使って、公正で客観的な評価を行って下さい。また、裏面の自由記述欄には、できるだけ授業の改善に役に立つようなコメントを書いて下さい。
 - 3) なお、回収したアンケート用紙は、公正な取扱いを行うために、この場で受講生あるいは受講生の代表の目の前で封をしますので、立ち会い人に指名された方はご協力をお願いします。

授業によっては、各回の授業に複数の教官が参加するチーム担当授業、あるいは複数の教官で担当する統合講義、総合講義形式の授業となっている場合があります。このような場合には、原則として代表教官が授業全体について学生の意見を求めます。このような授業でアンケート調査をする場合には、上記1)～3)とともに学生にその旨説明してください。(なお、都合により代表教官が実施できず、他の担当教官が代理で実施する場合も、アンケート提出票等には代表教官の氏名を記入してください。)

5. アンケートの取り方には、指定された時間中は学生に部屋にとどまってもらって最後に一斉に集める方法と、記入が終わった順に退席を許す方法があります。前者の場合、全員の前で封をします。後者の場合、封の立ち会い人2名程度を指名して、その前で封をします。上の3)は、そのいずれかを採用するかによって内容が違ってきます。

アンケート提出票（教官用）

北海道大学点検評価委員会

コード番号

所属部局 _____

--	--

（部局名を記載し、下表のコード表によりコード番号を記載してください。）

職 名 1教授，2助教授，3講師（該当する番号に 印を付けてください。）

氏 名 _____（ふりがな _____）

授業の形態 1講義，2演習（該当する番号に 印を付けてください。）

科目区分 1全学教育科目，2専門科目（該当する番号に 印を付けてください。）

必修・選択 1必修，2選択（該当する番号に 印を付けてください。）

科目名 _____

受講登録学生数 _____ 人（不明の場合は概数でも結構です。）

アンケート提出枚数 _____ 枚

部局コード番号

部 局 名	番号	部 局 名	番号
文学研究科・文学部	01	電子科学研究所	17
教育学研究科・教育学部	02	遺伝子病制御研究所	18
法学研究科・法学部	03	触媒化学研究センター	19
経済学研究科・経済学部	04	スラブ研究センター	20
理学研究科・理学部	05	情報基盤センター	36
医学研究科・医学部	06	アイソトープ総合センター	22
歯学研究科・歯学部	07	機器分析センター	23
薬学研究科・薬学部	08	留学生センター	26
工学研究科・工学部	09	量子集積エレクトロニクス研究センター	27
農学研究科・農学部	10	エネルギー先端工学研究センター	28
獣医学研究科・獣医学部	11	高等教育機能開発総合センター	29
水産科学研究科・水産学部	12	先端科学技術共同研究センター	30
言語文化部	13	総合博物館	32
地球環境科学研究科	14	北方生物圏フィールド科学センター	35
国際広報メディア研究科	15	保健管理センター	33
低温科学研究所	16	体育指導センター	34

研究科・学部の附属施設に所属する教官は、研究科・学部のコード番号を記載してください。

「授業アンケート」

北海道大学点検評価委員会

このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされます。

アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。

設問は全てで17問あります。裏面には自由意見欄がありますので、この授業に対する自由な意見を述べてください。アンケート記入後は、授業担当教官に提出願います。

この授業（講義・演習）について、以下の各設問に対してどう考えますか。

それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号又は記号に を付けてください。

5 4 3 2 1の評点は、「強く思う・思う・どちらともいえない・そうは思わない・強くそう思わない」の順とします。ただし、設問の12と16については、各設問に（ ）書きで付記している評点基準とします。

- | | |
|---|-----------|
| 1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。 | 5 4 3 2 1 |
| 2 授業は体系的に行われていた。 | 5 4 3 2 1 |
| 3 教官の熱意が伝わってきた。 | 5 4 3 2 1 |
| 4 教官の話し方は聞き取りやすかった。 | 5 4 3 2 1 |
| 5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。 | 5 4 3 2 1 |
| 6 授業により知的に刺激された。 | 5 4 3 2 1 |
| 7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 8 教官は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。 | 5 4 3 2 1 |
| 9 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 5 4 3 2 1 |
| 10 授業の進行速度は適切であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 11 授業で要求される作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 12 授業内容の難易度は適切であった。
(「極めて難しい、難しい、適切、やさしい、極めてやさしい」の順) | A B C D E |
| 13 授業の履修目標を達成できた。 | 5 4 3 2 1 |
| 14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。 | 5 4 3 2 1 |
| 15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。 | 5 4 3 2 1 |
| 16 この授業の自分の出席率は()%程度であった。
(ほぼ「100,80,60,40,20%」の順) | A B C D E |
| 17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。 | 5 4 3 2 1 |

裏面に自由意見欄を設けていますので、この授業に対する意見を自由に書いてください。

(裏面に続く)

ご協力ありがとうございました。

自由意見欄：この授業に対する意見を自由に書いてください。

調査対象の解析

アンケートに応じた授業は、全学で、平成14年後期・15年前期で合計975科目となり、講師以上の教員の67.8%（平成15年5月教授，助教授，講師数1,439名に対し）が対応した。昨年1年間の合計1,002科目，教員1,424名中70.4%，一昨年1年間の合計984科目，教員1,397名中70.4%とほぼ同率であった。

全学教育科目の比率

本アンケートで全学教育科目を対象授業としたものは270科目あり，その中で各学部及び言語文化部がそれぞれどの程度の比率を示しているかをみると，つぎのようになる。

文28(10.4%) 教 2(0.7%) 法 8(3.0%) 経 7(2.6%) 理77(28.5%) 医 1(0.4%) 歯 2(0.7%) 薬 2(0.7%) 工16(5.9%) 農 2(0.7%) 獣医 0(0%) 水産 0(0%) 言語58(21.5%)

全学教育科目をアンケート対象授業とした教員は文学部 理学部 言語文化部で特に多い。これは全学教育科目の責任部局であることが反映されているものと判断できる。

講義と演習の比率

講義と演習の比率は以下のとおりである。

	全学	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	専門	言語
講義	87.8	62.7	73.7	76.7	84.2	89.2	93.5	88.2	100.0	89.3	98.9	78.6	100.0	88.2	94.8
演習	12.2	37.3	26.3	23.3	15.8	10.8	6.5	11.8	0.0	10.7	1.1	21.4	0.0	11.8	5.2

理学部・医学部・歯学部・薬学部・工学部・農学部・水産学部では，大多数が講義である。一方，文系学部，獣医学部は演習の割合が相対的に多い。少なくともアンケート対象となった授業を見る限り，昨年度と比較して目立つのは，教育学部で講義の比率が減少していることと，経済学部で講義の割合が大きく増加していることである。

必修と選択の比率

必修と選択の比率は以下のとおりである。

	全学	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	専門	言語
必修	45.9	11.9	26.3	0.0	15.8	14.9	93.5	100.0	32.0	53.7	40.4	92.9	58.6	41.1	91.4
選択	54.1	88.1	73.7	100.0	84.2	85.1	6.5	0.0	68.0	46.3	59.6	7.1	41.4	58.9	8.6

全体に文系学部での選択の割合が大きい。実際に実施された授業では，学部ごとに選択，必修の割合が昨年度と大きく変わっているとは思われないが，アンケート対象として選ばれた割合には目立った変化がみられる。例えば，教育学部では，必修科目がアンケートの対象となった比率が増加している一方，法学部，経済学部，薬学部などでは，選択科目が対象となった割合が増加している。

本年度のアンケートでは，上記のような特徴があった。後のアンケート結果を見る際には，これらの特徴が反映していることも十分に考えられることを念頭に置くべくであろう。

アンケート結果と解析

ここでは各設問の内容およびアンケートの集計結果について述べる。評点は、よい方から順に5, 4, 3, 2, 1, となり, 3は普通である。集計結果は, 平成11年前期, 平成12年前期, 平成12年後期と13年前期, 平成13年度前期と14年度前期とを比較した。得られた集計結果について主に13年度後期・14年度前期の結果と対比して目立った違いなどを述べる。

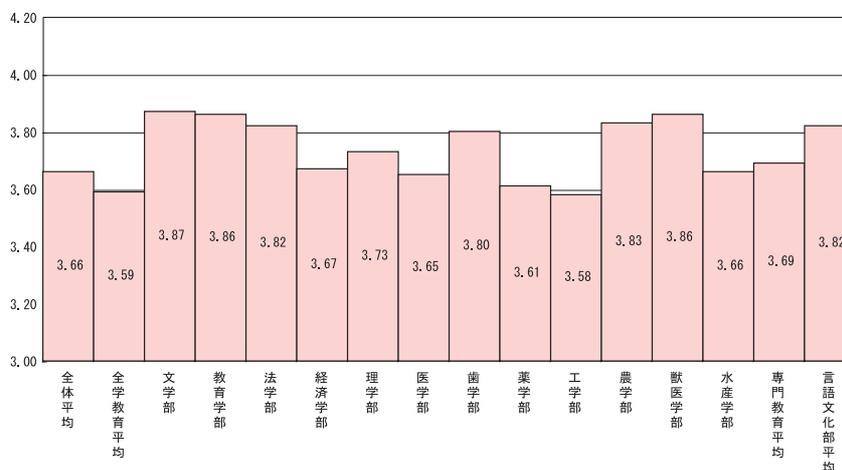
授業評価の総合評価

最初に設問1から15までの総合評価をみることにする。設問1から15までの評価指数の平均値であらわした。

総合評価に関して, 難易度については, 極めて難しい・極めてやさしいを1, 難しい・やさしいを3, 適切を5として計算した。

その結果, 総合点は, 以下のようになった。

	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体平均	3.41	3.53	3.67	3.68	3.66
全学教育	3.41	3.48	3.62	3.64	3.59
専門教育	3.41	3.56	3.68	3.70	3.69
言語文化部	3.66	3.67	3.89	3.88	3.82



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.60	3.49	3.62	3.67	3.40	3.47	3.31	3.45	3.27	3.35	3.45	3.35
平成12年前期	3.83	3.78	3.64	3.67	3.45	3.51	3.67	3.49	3.50	3.71	3.76	3.50
平成12年後期・13年前期	3.90	3.93	3.75	3.70	3.60	3.69	3.79	3.65	3.54	3.83	3.86	3.73
平成13年後期・14年前期	3.91	3.85	3.95	3.77	3.73	3.64	3.81	3.60	3.56	3.81	4.00	3.68
平成14年後期・15年前期	3.87	3.86	3.82	3.67	3.73	3.65	3.80	3.61	3.58	3.83	3.86	3.66

総合点は, 本アンケートを開始して初めて後退した。全体で見ると, 数字の上での減少はごくわずかであり, この3年間ほとんど変化がないと見ることもできるが, 全学教育の減少と

高い水準は維持しているが言語文化部の数値の減少が明瞭で、この両方の数字は明らかに2年前以前に後退している。その後退分を専門教育の小さな減少でカバーしていると見るべきであろう。この変化を、学部別に見ると、昨年度の上位3学部がいずれも目立って数値が減少しているのに対し、比較的数値の低かった学部はいずれも現状かやや上昇傾向にあることが見て取れる。従って、全体的には学部間の差が小さくなっている。

このような数値の変化の解釈には、学生のアンケート慣れによる対応の慢性化や教官のアンケート結果に対する考え方の変化などが考えられ、一概に数値だけで意味づけするのは問題がある。しかし、ここに出てきた数字の変化は、明らかに有意のものとして見ることが出来る。解釈はともかくとして、授業のあり方を考える重要資料となると思われる。各項目毎の数字もこれまででは、一般的には改善という見方でまとめられたが、今年度の変化は、項目毎に全体変化よりさらに顕著に増減が認められる。したがって、項目毎にも、昨年度との比較で注目すべき変化についてコメントをつけ加えておくことにする。

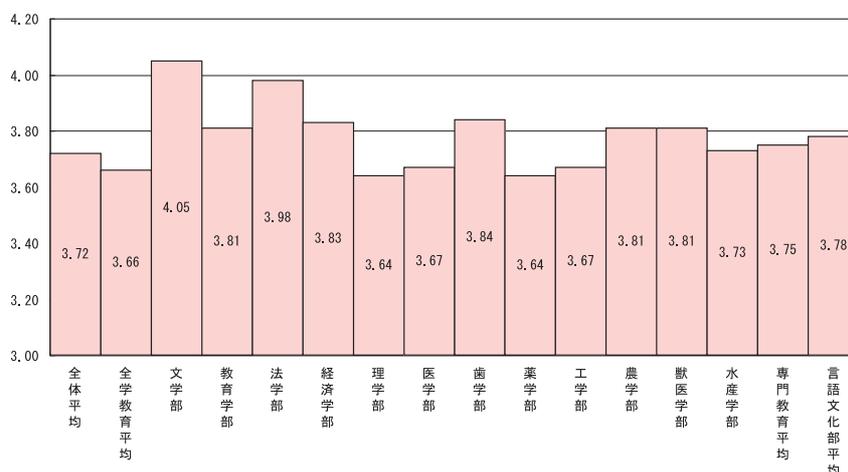
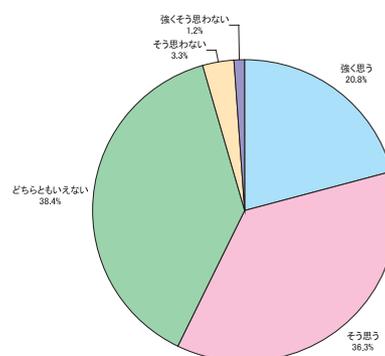
A 「シラバスとその内容」

シラバスと授業

- ・シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。

シラバスは授業の総体を表現する。各科目は各部局での必要性により存在し、必要理由は、目標として表現され、その目標到達のための授業内容、評価方法ははじめから設計されていなければならない。そしてこのことが学生につたわり、学生はこれを活用して学習できなければならない。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	46.0%	49.9%	55.1%	56.7%	57.2%	7.8%	6.0%	4.3%	4.3%	4.5%
全学教育	48.2%	48.9%	53.7%	56.1%	54.7%	3.0%	8.2%	6.7%	6.0%	6.7%
専門	43.9%	49.5%	55.7%	56.9%	58.2%	4.2%	4.7%	3.3%	3.5%	3.5%
言語	57.2%	57.6%	61.2%	62.3%	60.6%	6.6%	4.9%	3.9%	3.8%	4.3%



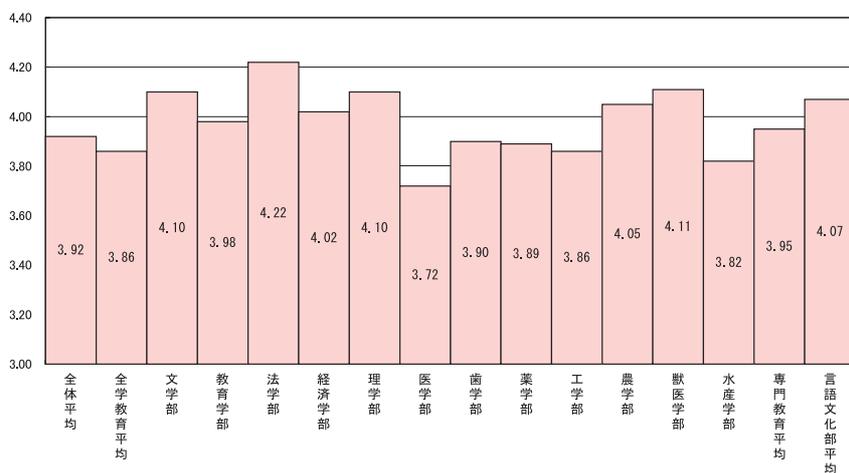
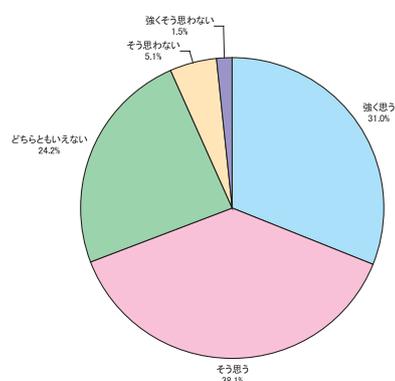
学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.69	3.46	3.82	3.78	3.34	3.50	3.50	3.48	3.37	3.31	3.25	3.27
平成12年前期	3.86	3.62	3.76	3.80	3.49	3.61	3.68	3.58	3.53	3.66	3.50	3.65
平成12年後期・13年前期	4.01	3.91	3.84	3.94	3.61	3.71	3.78	3.60	3.58	3.74	3.60	3.79
平成13年後期・14年前期	4.10	3.87	4.03	3.84	3.68	3.55	3.89	3.66	3.62	3.75	3.87	3.78
平成14年後期・15年前期	4.05	3.81	3.98	3.83	3.64	3.67	3.84	3.64	3.67	3.81	3.81	3.73

全体平均は0.01上昇している。しかし、詳しく見ると全学教育がやや減少し、専門教育の上昇がこれを上回った結果と見る事が出来る。学部別では、医学部、工学部、農学部が数値を上げているが、従来より数値の高い文系学部をはじめ多くの学部が数値を下げている。

- ・授業は体系的に行われていた。
- ・授業は整理された内容が必要である。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全 体	63.0%	65.4%	69.6%	69.5%	69.1%	9.3%	8.1%	6.2%	6.6%	6.7%
全学教育	61.6%	62.3%	66.3%	67.4%	66.8%	3.0%	9.8%	7.6%	7.6%	8.1%
専 門	62.2%	67.2%	70.6%	70.4%	70.1%	2.2%	7.2%	5.7%	6.1%	6.1%
言 語	70.1%	72.6%	77.3%	78.7%	76.1%	1.8%	6.6%	3.6%	3.6%	4.2%

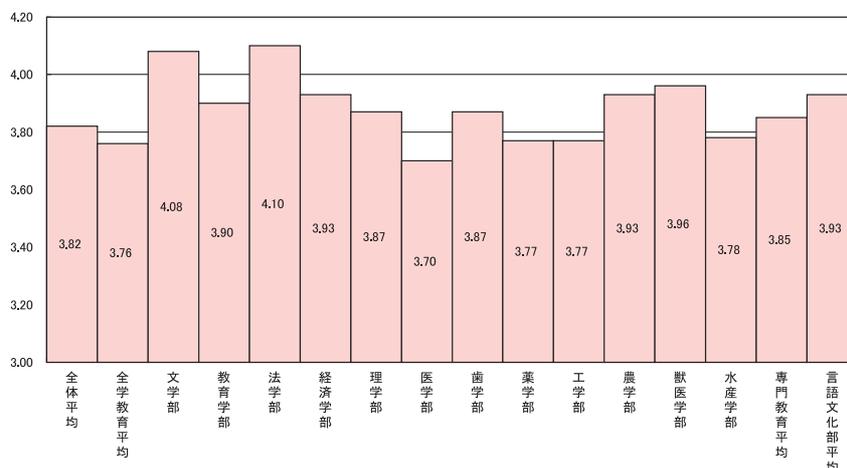


学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.94	3.73	4.05	3.97	3.79	3.59	3.54	3.81	3.63	3.61	3.88	3.59
平成12年前期	4.12	4.07	4.08	4.06	3.81	3.69	3.87	3.78	3.78	4.04	3.96	3.78
平成12年後期・13年前期	4.20	4.18	4.05	4.11	3.96	3.76	3.88	3.95	3.82	4.07	4.07	3.96
平成13年後期・14年前期	4.13	4.10	4.30	4.09	4.03	3.59	4.04	3.97	3.84	4.03	4.26	3.92
平成14年後期・15年前期	4.10	3.98	4.22	4.02	4.10	3.72	3.90	3.89	3.86	4.05	4.11	3.82

この項目は全体平均，全学教育平均，専門教育平均に昨年度と比べ大きな変化はないが，学部毎の数値には大きな動きがあり，文系学部の落ち込みを，理，医，農の上昇が支えている。

・ A項目全体の平均



学部別評点

平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.81	3.59	3.93	3.88	3.57	3.55	3.52	3.65	3.50	3.46	3.57	3.43
平成12年前期	3.99	3.85	3.92	3.93	3.65	3.65	3.78	3.68	3.65	3.85	3.73	3.72
平成12年後期・13年前期	4.11	4.04	3.95	4.02	3.79	3.73	3.83	3.78	3.70	3.91	3.84	3.88
平成13年後期・14年前期	4.12	3.99	4.16	3.97	3.86	3.57	3.96	3.81	3.73	3.89	4.06	3.85
平成14年後期・15年前期	4.08	3.90	4.10	3.93	3.87	3.70	3.87	3.77	3.77	3.93	3.96	3.78

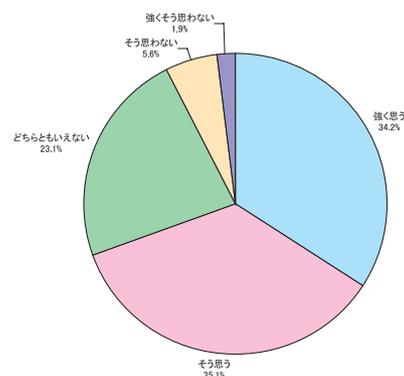
A項目を合わせてみても，全体には変化が小さいが，医学部の上昇が目だつ。学部間の差は縮小する傾向がみられる。

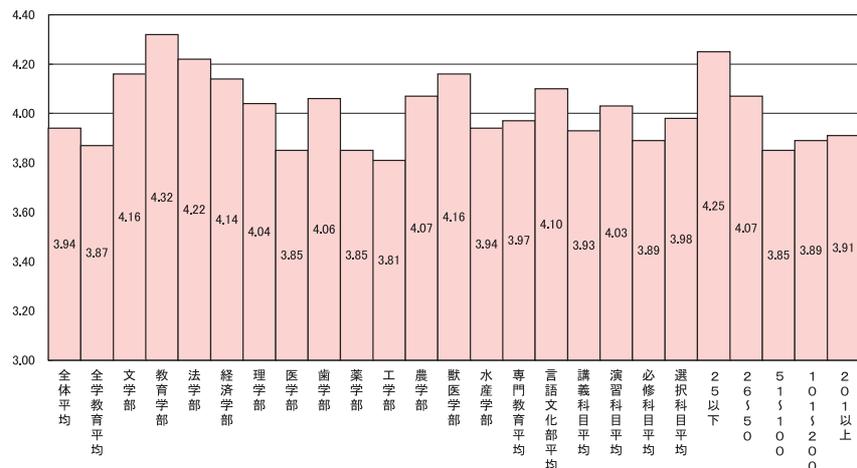
B 「教員の授業法」

B 1 教員と授業

・ 教官の熱意が伝わってきた。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全 体	64.2%	67.3%	71.6%	71.3%	69.3%	10.0%	8.8%	6.3%	6.8%	7.6%
全学教育	63.0%	65.2%	68.7%	70.2%	67.2%	10.9%	10.8%	8.4%	8.0%	9.6%
専 門	64.8%	68.5%	72.4%	71.7%	70.2%	2.6%	7.6%	5.5%	6.3%	6.7%
言 語	76.2%	73.4%	82.4%	81.2%	76.0%	1.4%	7.0%	3.5%	3.6%	5.2%
講 義	63.3%	66.4%	70.4%	70.9%	69.1%	2.9%	9.1%	6.6%	6.8%	7.6%
演 習	75.9%	77.8%	81.7%	76.3%	72.1%	1.7%	5.6%	4.4%	6.5%	7.9%
必 修		65.0%	69.4%	68.6%	66.7%		9.7%	7.4%	8.2%	8.7%
選 択		70.5%	72.8%	74.1%	71.4%		7.6%	5.6%	5.3%	6.6%





学部別評点平均

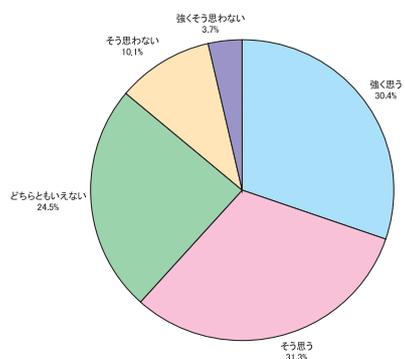
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	4.00	3.99	4.22	4.11	3.81	3.73	3.53	3.89	3.63	3.70	3.84	3.66
平成12年前期	4.33	4.34	4.11	3.99	3.87	3.69	3.91	3.88	3.83	4.08	3.96	3.80
平成12年後期・13年前期	4.33	4.35	4.23	4.08	3.90	3.87	3.93	4.00	3.87	4.12	4.06	4.03
平成13年後期・14年前期	4.30	4.35	4.37	4.13	4.04	3.79	4.08	3.97	3.83	4.08	4.25	3.98
平成14年後期・15年前期	4.16	4.32	4.22	4.14	4.04	3.85	4.06	3.85	3.81	4.07	4.16	3.94

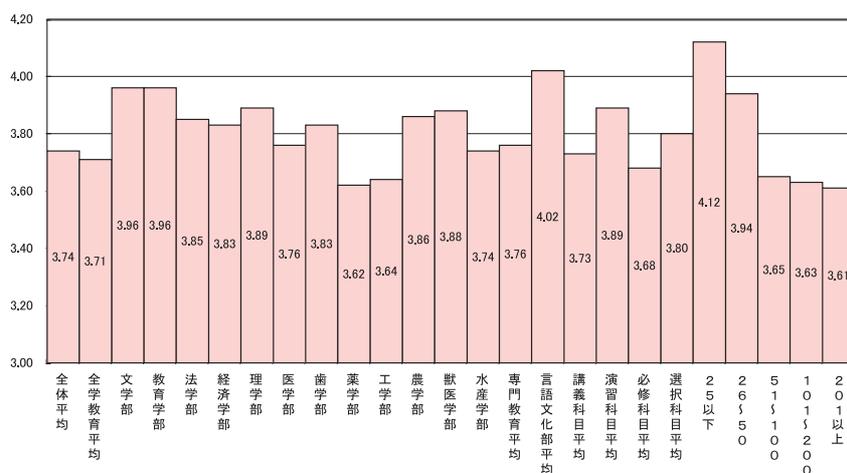
全体的には、熱意の伝わる授業が多いことが見てとれるが、全体平均は昨年に比べ0.04減少している。気になるのは、全学教育平均の0.09の減少である。さらに言語文化部の減少も大きい。一方で、専門教育の落ち込みは0.02である。昨年度に続き評価が低下・停滞している点は気になる。また、クラスサイズではサイズの大きい授業での数値の減少が目立つ。

・教官の話し方は聞き取りやすかった。

授業法の中では、教員のパフォーマンスとして最も基本的要素である。授業媒体の主体は、言語であり、言語を通じて教員から学生へのコミュニケーションが可能である。学生の意見でも教員の話し方、聞き取りやすさは授業、とくに講義形式の授業の基本的な事項であることがわかる。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	56.9%	60.2%	64.5%	63.6%	61.7%	17.8%	14.9%	12.1%	12.7%	13.9%
全学教育	56.9%	59.1%	62.4%	63.0%	60.6%	18.0%	17.3%	14.6%	13.9%	15.6%
専門	57.6%	60.9%	70.5%	63.9%	62.2%	2.6%	13.4%	5.7%	12.1%	13.1%
言語	72.4%	67.1%	76.2%	77.0%	73.2%	1.4%	13.6%	8.1%	6.9%	8.8%
講義	55.6%	65.9%	63.1%	63.0%	61.3%	2.9%	15.5%	12.8%	12.9%	14.1%
演習	72.3%	70.5%	77.2%	71.6%	66.5%	1.7%	9.4%	6.5%	8.8%	10.9%
必修		64.9%	62.8%	61.3%	58.8%		16.9%	12.8%	14.2%	15.1%
選択		70.4%	65.3%	66.1%	64.0%		12.5%	11.9%	11.0%	12.8%





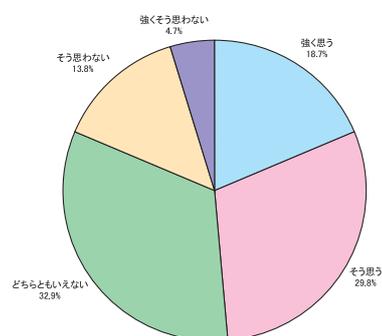
学部別評点平均

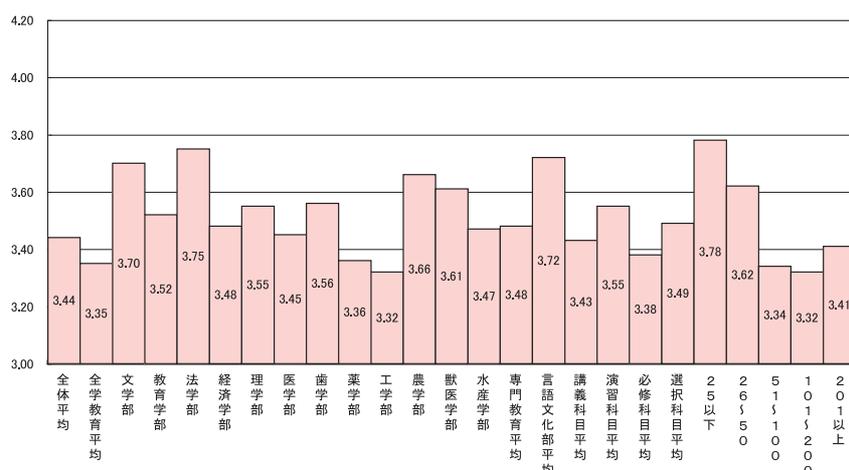
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.87	3.63	3.97	3.96	3.54	3.60	3.30	3.59	3.49	3.46	3.30	3.49
平成12年前期	4.19	3.83	3.74	3.89	3.51	3.61	3.78	3.69	3.69	3.88	3.69	3.66
平成12年後期・13年前期	4.17	3.96	3.94	3.94	3.71	3.81	3.79	3.76	3.70	3.97	3.87	3.83
平成13年後期・14年前期	4.13	3.87	4.08	3.95	3.87	3.70	3.78	3.70	3.65	3.89	4.04	3.81
平成14年後期・15年前期	3.96	3.96	3.85	3.83	3.89	3.76	3.83	3.62	3.64	3.86	3.88	3.74

この項目の評価の減少も目だつ。平成12年前期のレベルに戻った学部も見られる。前年に続く減少傾向で気になる点である。ここでも、全学教育の落ち込みがより大きい。クラスサイズでも、51人以上のクラスの評価が一斉に下がっているのは、26～50人のサイズのクラスの評価が上昇しているのと対照的である。

- ・授業は、難解な概念，理論があっても，わかりやすかった。
わかりやすく伝えることは授業で最も重要なことである。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	41.4%	46.2%	49.0%	50.7%	48.5%	24.1%	20.0%	17.8%	16.8%	18.5%
全学教育	41.1%	43.2%	45.3%	48.5%	45.7%	26.6%	23.7%	22.3%	19.5%	22.2%
専門	41.7%	37.9%	50.9%	51.7%	49.7%	22.5%	13.7%	15.6%	15.7%	17.0%
言語	58.0%	57.2%	62.2%	63.9%	59.9%	12.7%	12.1%	9.0%	7.9%	10.1%
講義	40.2%	35.1%	48.1%	50.1%	48.2%	24.8%	20.7%	18.3%	17.1%	18.7%
演習	55.4%	45.1%	60.3%	58.7%	52.9%	16.5%	13.1%	11.8%	13.5%	15.9%
必修		44.0%	49.0%	48.4%	46.1%		21.3%	17.4%	18.4%	19.8%
選択		49.1%	49.1%	53.2%	50.5%		18.2%	18.2%	15.1%	17.5%



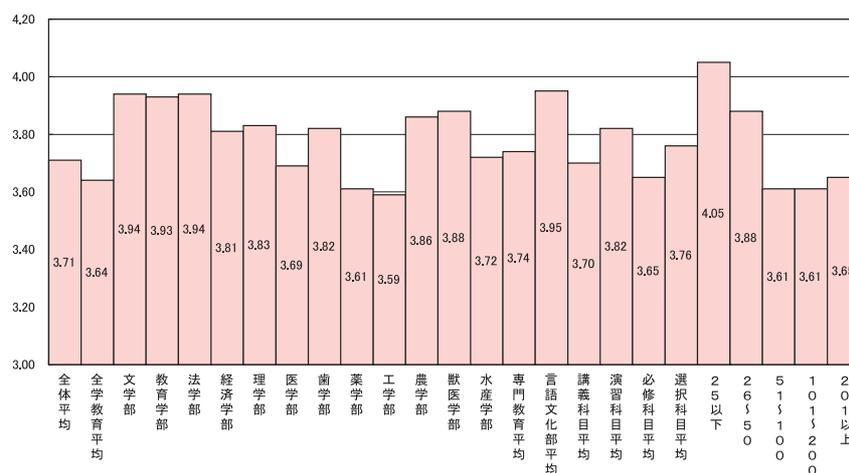


学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.56	3.35	3.67	3.65	3.23	3.36	3.10	3.21	3.03	3.25	3.25	3.20
平成12年前期	3.81	3.38	3.63	3.61	3.16	3.42	3.62	3.26	3.34	3.64	3.65	3.41
平成12年後期・13年前期	3.81	3.75	3.65	3.57	3.40	3.55	3.68	3.51	3.32	3.67	3.70	3.56
平成13年後期・14年前期	3.82	3.62	3.92	3.74	3.52	3.53	3.67	3.34	3.31	3.66	3.83	3.54
平成14年後期・15年前期	3.70	3.52	3.75	3.48	3.55	3.45	3.56	3.36	3.32	3.66	3.61	3.47

この項目も減少が0.05と落ち込みが大きい。特に、文系学部が一斉に大きく減少している。しかし、理系もやや減少した学部が多いので、全体的には文系学部の評価が高い、やはり、全学教育の落ち込みが、専門教育を上まわっている。ここでも、全体的に下がっている中で、26～50人サイズの授業の評価は上がっている。

・ B1項目全体の平均



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.81	3.66	3.95	3.91	3.52	3.56	3.31	3.56	3.38	3.47	3.46	3.45
平成12年前期	4.11	3.85	3.83	3.83	3.51	3.57	3.77	3.61	3.62	3.87	3.77	3.62
平成12年後期・13年前期	4.11	4.02	3.94	3.86	3.67	3.74	3.80	3.76	3.63	3.92	3.88	3.81
平成13年後期・14年前期	4.08	3.94	4.12	3.94	3.81	3.67	3.84	3.67	3.60	3.88	4.04	3.78
平成14年後期・15年前期	3.94	3.93	3.94	3.81	3.83	3.69	3.82	3.61	3.59	3.86	3.88	3.72

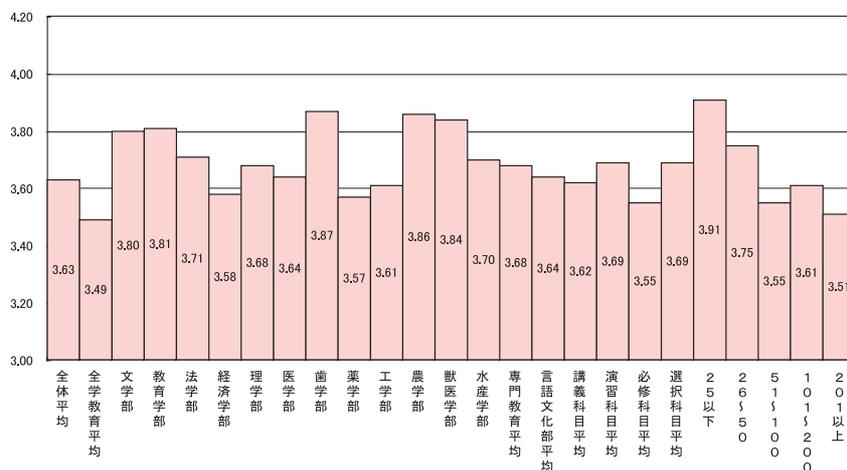
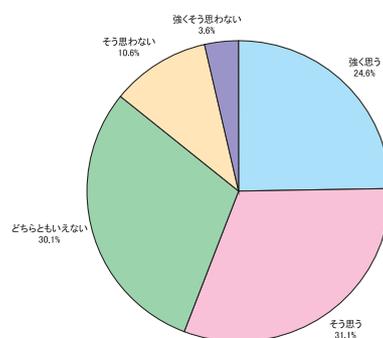
教員の授業法に関する全体で見ても、評価の後退がはっきりしており、特に全学教育平均の落ち込みがめだっている。学部別では、大きく後退した学部が何学部もあり、全体の引き下げ要因となったと思われる。

B 2 メディア（教育媒体）

・黒板,スライド,OHP,ビデオ,教科書,プリント等の使われ方が理解の促進に効果的だった。

授業は、教授者から学習者への情報伝達により成り立つ。広い意味では、話しことばも授業の媒体（メディア）である。ここでは、授業に用いられる話しことば以外のメディアについて質問した。一般に、メディアについては、とくに近代的情報テクノロジーによる機器、視聴覚機器について尋ねている。しかし、とすればこれらを駆使することがよい授業であるような錯覚に陥っている傾向がある。ここでは、重要なことは効果であるという視点でとらえることにした。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	44.2%	48.5%	53.2%	55.0%	55.7%	21.4%	17.9%	14.5%	13.5%	14.2%
全学教育	42.7%	44.7%	50.9%	51.5%	50.8%	22.7%	22.1%	17.6%	16.9%	18.7%
専門	45.1%	50.7%	54.3%	56.5%	57.9%	20.6%	15.5%	13.0%	12.1%	12.3%
言語	49.0%	49.9%	56.9%	58.3%	54.8%	16.1%	17.7%	12.4%	10.1%	12.8%
講義	43.8%	47.9%	52.5%	54.7%	55.6%	21.9%	18.4%	14.8%	13.8%	14.3%
演習	49.8%	53.9%	62.0%	58.6%	57.6%	15.6%	13.5%	11.1%	10.8%	12.8%
必修		44.5%	50.4%	51.7%	52.8%		19.5%	15.0%	15.1%	15.7%
選択		53.4%	55.8%	58.5%	58.2%		16.1%	14.1%	11.9%	13.0%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.45	3.39	3.36	3.62	3.42	3.57	3.11	3.40	3.13	3.31	3.61	3.42
平成12年前期	3.66	3.69	3.46	3.63	3.36	3.58	3.61	3.44	3.41	3.79	3.90	3.50
平成12年後期・13年前期	3.78	3.89	3.49	3.52	3.46	3.73	3.76	3.62	3.46	3.79	3.90	3.74
平成13年後期・14年前期	3.79	3.73	3.80	3.56	3.65	3.56	3.85	3.56	3.50	3.86	4.09	3.72
平成14年後期・15年前期	3.80	3.81	3.71	3.58	3.68	3.64	3.87	3.57	3.61	3.86	3.84	3.70

わずかではあるが改善されているとの評価である。しかしこの場合も全学教育の評価は減少しており、全体の上昇は専門教育に支えられている。学部別では、特に医学部、工学部、教育学部の評価が上昇している。全体に文系、理系の差は小さく、学部間の評価は平均化している。

B3「負担」

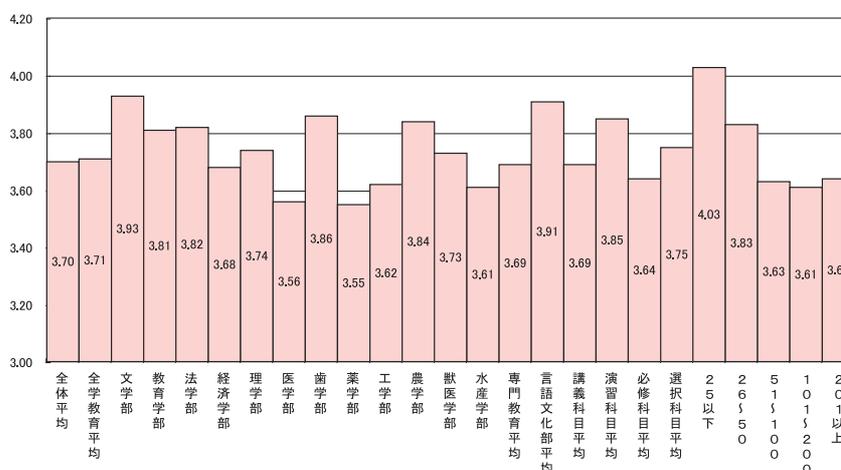
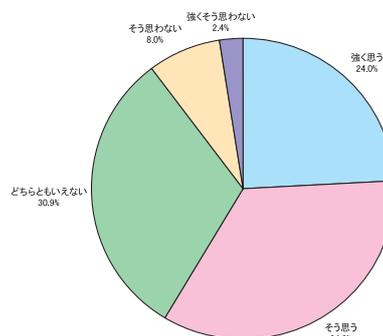
作業量・負担

・授業の進行速度は適切であった。

一方的知識伝授，教員中心授業は授業の進行が早くなる傾向がある。

自由意見欄でも，これに関して学生による多くの指摘があった。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	52.8%	44.2%	57.3%	58.4%	58.7%	14.4%	12.8%	10.1%	10.2%	10.4%
全学教育	54.1%	55.3%	59.8%	61.4%	59.7%	14.0%	13.7%	10.3%	10.5%	11.0%
専門	51.9%	53.7%	56.0%	57.2%	58.2%	14.7%	12.2%	10.0%	10.1%	10.1%
言語	67.0%	62.1%	68.9%	68.1%	67.4%	10.4%	13.8%	8.8%	8.6%	9.3%
講義	51.8%	53.3%	56.4%	57.8%	58.3%	14.7%	13.0%	10.4%	10.3%	10.5%
演習	65.6%	63.5%	69.5%	66.3%	64.0%	10.1%	10.5%	6.5%	8.9%	9.3%
必修		51.5%	56.4%	55.5%	56.1%		14.0%	10.7%	11.9%	11.7%
選択		57.4%	58.2%	61.6%	60.8%		11.3%	9.6%	8.4%	9.3%



学部別評点平均

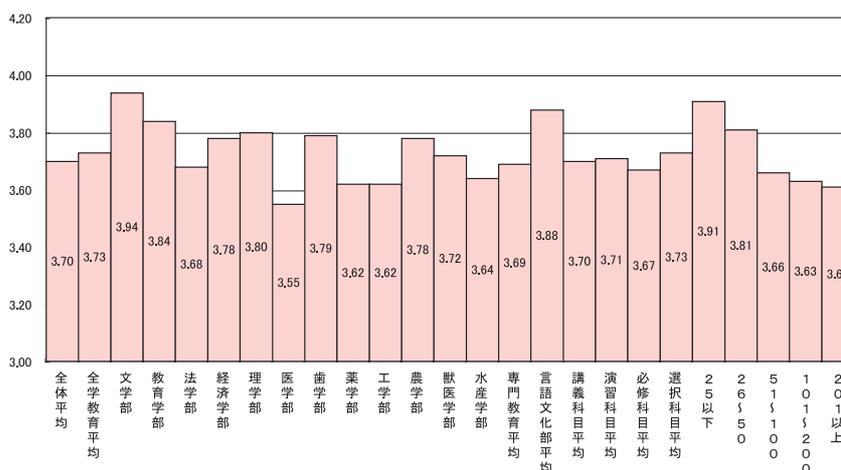
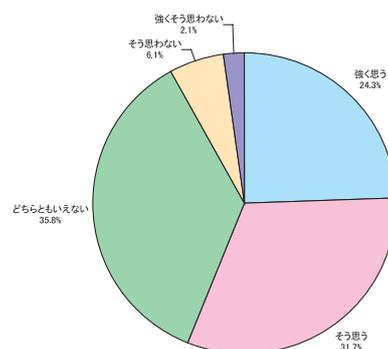
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.79	3.73	3.60	3.70	3.42	3.50	3.51	3.54	3.33	3.46	3.41	3.47
平成12年前期	3.83	3.84	3.69	3.76	3.46	3.61	3.78	3.23	3.49	3.75	3.81	3.54
平成12年後期・13年前期	3.90	3.98	3.64	3.67	3.61	3.61	3.81	3.60	3.49	3.82	3.76	3.74
平成13年後期・14年前期	3.98	3.81	3.86	3.76	3.65	3.61	3.82	3.43	3.55	3.78	3.78	3.67
平成14年後期・15年前期	3.93	3.81	3.82	3.68	3.74	3.56	3.86	3.55	3.62	3.84	3.73	3.61

全体の評価はわずかに上がっているが，全学教育はここでも評価を下げ，専門教育が上昇している。学部別では，理系学部の上昇が目立つ。クラスサイズでは，26～100人のサイズのクラスでの評価が上がっている。

・授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。

科目における単位があらわす学習時間では、授業時間以外に相当量の予習、復習が要求されている。単位の上限の設定は、授業時間外での学習時間を確保するためのもので、授業は宿題を出すことが前提となる。しかし、日本の学生の自習時間は一般に極端に少ない。ここでは、自習量の適切さよりは、自習を課せられることに対する学生の満足度と関連しているのかもしれない。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全 体	47.6%	50.8%	53.5%	54.9%	56.0%	9.8%	8.9%	7.4%	8.1%	8.2%
全学教育	51.2%	53.4%	57.0%	58.5%	58.0%	8.9%	9.4%	8.7%	8.5%	9.4%
専 門	45.5%	49.5%	51.7%	53.3%	55.2%	10.3%	8.5%	6.8%	7.9%	7.6%
言 語	63.3%	62.6%	64.4%	67.8%	66.2%	7.9%	8.6%	9.0%	7.3%	9.2%
講 義	46.7%	49.8%	52.5%	54.4%	55.8%	9.6%	8.6%	7.5%	7.8%	7.8%
演 習	59.5%	60.6%	67.1%	61.3%	59.2%	11.5%	8.7%	6.7%	12.2%	13.0%
必 修		49.5%	53.1%	52.3%	54.7%		9.2%	8.0%	9.5%	9.1%
選 択		52.3%	53.9%	57.6%	57.1%		8.5%	6.9%	6.6%	7.4%

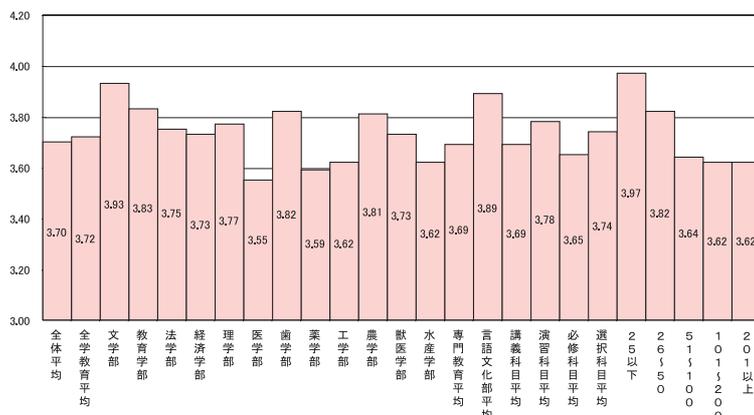


学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.73	3.62	3.53	3.59	3.51	3.36	3.54	3.44	3.36	3.39	3.63	3.47
平成12年前期	3.88	3.96	3.59	3.71	3.55	3.43	3.68	3.40	3.55	3.68	3.77	3.48
平成12年後期・13年前期	3.85	3.91	3.63	3.68	3.68	3.50	3.76	3.53	3.56	3.71	3.87	3.64
平成13年後期・14年前期	3.97	3.89	3.74	3.63	3.72	3.47	3.73	3.54	3.57	3.72	3.88	3.60
平成14年後期・15年前期	3.94	3.84	3.68	3.78	3.80	3.55	3.79	3.62	3.62	3.78	3.72	3.64

全体平均の評価は前年に続き上がっている。しかしこの場合でも、上昇の要因は専門教育にあり、全学教育はわずかながら評価を下げた。学部別でも全体に評価を上げている中で獣医学部や一部文系学部が評価を下げている。全体的に学部間の差は小さい。クラス別でも26～100人のサイズのクラスでの評価が上昇している。

・ B3項目全体の平均



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.73	3.62	3.72	3.77	3.49	3.52	3.35	3.51	3.33	3.43	3.50	3.45
平成12年前期	3.86	3.90	3.64	3.73	3.51	3.52	3.73	3.31	3.52	3.71	3.79	3.51
平成12年後期・13年前期	3.97	3.97	3.76	3.74	3.62	3.68	3.79	3.67	3.57	3.85	3.86	3.76
平成13年後期・14年前期	4.00	3.88	3.96	3.79	3.74	3.61	3.82	3.59	3.57	3.83	3.98	3.72
平成14年後期・15年前期	3.93	3.83	3.75	3.73	3.77	3.55	3.82	3.59	3.62	3.81	3.73	3.62

教員の教授法に関するアンケート項目が評価を下げているのに対し，メディア，負担，進行速度などの項目はわずかながら改善されたとの評価であった。しかし，専門教育が評価を上げているのに対し，全学教育の評価はここでも沈滞しているのは気にかかる。これらの項目では学部間の差も比較的小さい。クラスサイズによる評価の違いもはっきりしている。

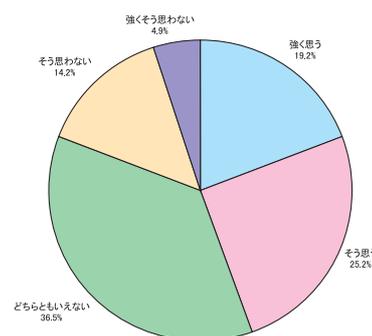
C 「学生参加」

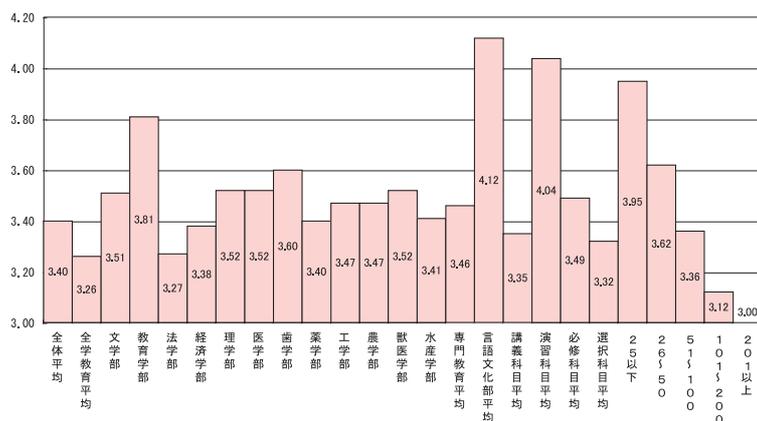
学生との相互反応

課題探求能力の育成など，教員と学生との相互反応，学生同志の相互反応を重視し，学生を効果的に参加させる学生中心授業が奨励されている。ここでは授業が学生参加型になっているかを問う。

・ 教官は効果的に学生の参加（発言，自主的学習，作業など）を促した。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	32.8%	39.2%	44.4%	45.1%	44.4%	30.7%	23.0%	19.1%	18.9%	19.1%
全学教育	34.5%	38.4%	46.4%	44.5%	41.6%	33.7%	28.4%	23.3%	24.7%	26.7%
専門	31.8%	39.6%	43.3%	45.4%	45.7%	29.1%	20.2%	16.9%	16.3%	15.9%
言語	67.5%	67.1%	77.4%	76.2%	75.8%	10.3%	10.2%	4.1%	5.5%	6.1%
講義	29.9%	36.3%	42.1%	42.9%	42.3%	32.5%	24.5%	20.1%	19.8%	20.0%
演習	68.5%	70.2%	75.3%	74.8%	71.3%	10.1%	7.3%	5.3%	6.8%	8.3%
必修		40.8%	48.1%	47.9%	48.2%		21.5%	15.8%	17.0%	16.5%
選択		37.2%	40.9%	42.1%	41.4%		24.8%	22.1%	20.9%	21.2%





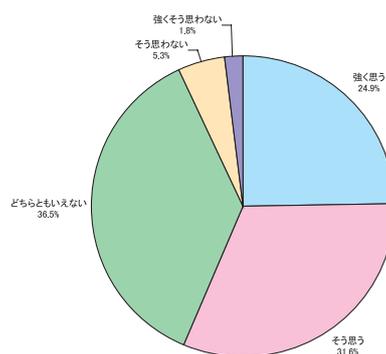
学部別評点平均

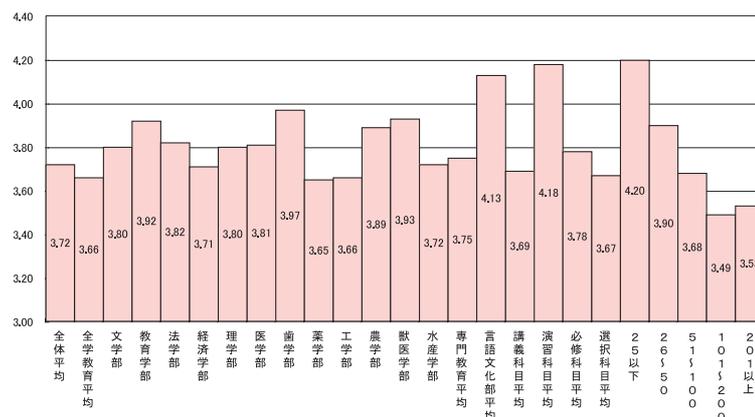
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.08	3.21	3.02	3.42	2.94	2.94	3.01	3.19	2.97	2.97	2.89	2.89
平成12年前期	3.47	3.43	3.19	3.39	3.19	3.39	3.43	3.32	3.29	3.40	3.57	3.14
平成12年後期・13年前期	3.45	3.60	3.27	3.42	3.33	3.56	3.57	3.46	3.36	3.51	3.52	3.38
平成13年後期・14年前期	3.45	3.46	3.39	3.47	3.55	3.48	3.57	3.40	3.43	3.49	3.68	3.36
平成14年後期・15年前期	3.51	3.81	3.27	3.38	3.52	3.52	3.60	3.40	3.47	3.47	3.52	3.41

全体的に評価は高くなく、評価もほぼ横這いである。この項目でも、全学教育のかなりの評価減（0.08）が、専門教育の上昇で帳消しされている。項目の性格上、演習科目、少人数クラスの評価が高い。また、言語文化部の評価も極めて高い。学部間の評価の変動はまちまちであるが、教育学部が大きく評価を上げている。

・教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	47.3%	51.9%	56.7%	57.4%	56.4%	10.4%	8.2%	6.6%	6.3%	7.1%
全学教育	46.0%	52.3%	59.2%	58.5%	54.2%	12.5%	10.2%	8.1%	7.7%	9.3%
専門	47.7%	51.8%	55.4%	57.0%	57.4%	9.2%	7.2%	5.8%	5.8%	6.1%
言語	73.3%	69.3%	77.3%	76.9%	76.2%	3.6%	5.2%	3.0%	3.2%	3.5%
講義	44.5%	49.6%	54.8%	55.8%	54.7%	11.0%	8.6%	6.9%	6.6%	7.3%
演習	80.5%	76.2%	81.2%	79.1%	77.5%	3.0%	3.7%	2.4%	3.8%	5.0%
必修		52.5%	59.9%	59.0%	59.9%		8.1%	6.0%	6.6%	6.6%
選択		50.9%	53.7%	55.7%	53.6%		8.5%	7.2%	6.1%	7.5%



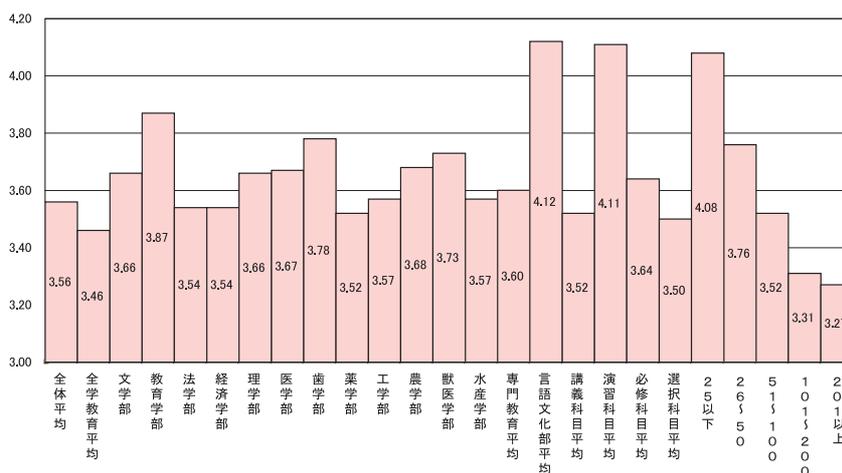


学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.61	3.48	3.71	3.76	3.53	3.74	3.51	3.64	3.40	3.41	3.46	3.43
平成12年前期	3.89	3.84	3.76	3.71	3.59	3.75	3.82	3.45	3.54	3.77	3.90	3.46
平成12年後期・13年前期	3.88	3.83	3.78	3.77	3.66	3.79	3.87	3.65	3.59	3.87	4.03	3.65
平成13年後期・14年前期	3.88	3.90	3.95	3.77	3.81	3.81	3.94	3.60	3.63	3.83	4.16	3.65
平成14年後期・15年前期	3.80	3.92	3.82	3.71	3.80	3.81	3.97	3.65	3.66	3.89	3.93	3.72

今年度は全体評価を下げた。なかでも全学教育の評価減は見捨てられない傾向である。専門教育はわずかながら評価を上げた。ここでも、質問項目の性格上、演習クラス、少人数クラスの評価が、言語文化部の評価とともに高い。

・C項目全体の平均



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.34	3.35	3.36	3.59	3.23	3.56	3.26	3.41	3.19	3.19	3.18	3.16
平成12年前期	3.68	3.63	3.47	3.55	3.39	3.57	3.62	3.39	3.41	3.58	3.74	3.30
平成12年後期・13年前期	3.67	3.71	3.52	3.59	3.50	3.68	3.72	3.55	3.48	3.69	3.77	3.52
平成13年後期・14年前期	3.67	3.68	3.67	3.62	3.68	3.65	3.76	3.50	3.53	3.66	3.92	3.50
平成14年後期・15年前期	3.66	3.87	3.54	3.54	3.66	3.67	3.78	3.52	3.57	3.68	3.73	3.57

学生参加に関わる項目の評価は、学部間の差が小さく、授業の形態による差が大きい。全体では評価は沈滞し、全学教育の評価減を専門教育がカバーしたといえる。

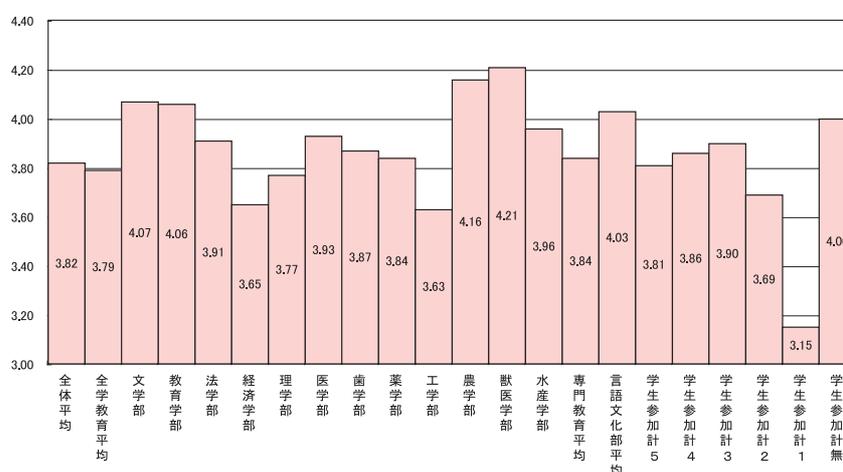
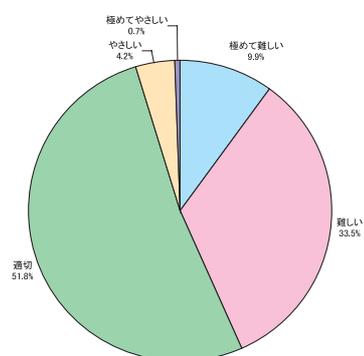
D 「難易度」

・授業内容の難易度は適切であった。

授業の難易度は、学生が理解できない、ついていけないほど難しいのは問題がある。「極めて難しい」は、一方通行、教員中心で教授錯覚に陥っていることが多い。しかし、適度に難しいのもよいとされている。

全 体

	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
極めて難しい	6.6%	9.4%	9.2%	9.3%	9.9%
難しい	26.6%	32.6%	34.0%	32.7%	33.5%
適切	63.8%	53.5%	52.3%	53.3%	51.8%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	4.24	4.32	4.42	4.24	4.19	4.34	4.22	4.19	3.95	4.37	4.24	4.24
平成12年前期	4.00	3.81	3.96	4.04	3.62	4.33	4.14	3.67	3.74	4.24	4.29	4.00
平成12年後期・13年前期	3.97	4.15	3.96	3.77	3.76	4.25	4.13	3.77	3.64	4.25	4.17	4.10
平成13年後期・14年前期	4.08	4.07	4.03	3.88	3.85	4.26	3.91	3.65	3.63	4.09	4.15	3.98
平成14年後期・15年前期	4.07	4.06	3.91	3.65	3.77	3.93	3.87	3.84	3.63	4.16	4.21	3.96

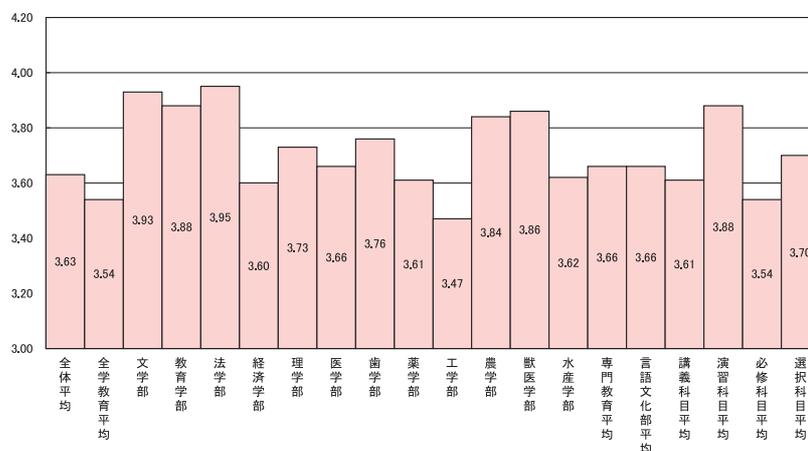
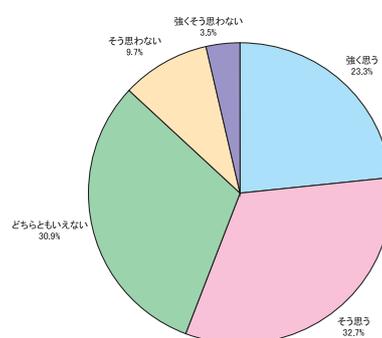
全体的にみれば難易度の評価は適切と判断されているとみてよいであろう。しかし、今年度は全体評価が0.05減少し、全学教育、専門教育のいずれも評価を下げている。学部間の評価の上昇、減少の変化はかなり目立つが、文系、理系にかかわらずまちまちである。

E 「学生の満足度・達成度」

学生の満足度は、それ自体が総体的授業評価をあらわす。ここでは、第三者が観察でき、客観的に評価が可能であるという原則にはあてはまらないが、学生の主観を質問している。

・授業により知的に刺激された。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	47.3%	51.5%	56.1%	57.4%	56.0%	19.0%	15.9%	12.2%	12.2%	13.1%
全学教育	48.1%	49.8%	54.6%	56.3%	53.5%	19.3%	19.1%	14.8%	14.3%	16.1%
専門	46.8%	52.5%	56.9%	57.9%	57.0%	18.8%	13.9%	10.9%	11.3%	11.9%
言語	56.2%	55.5%	61.5%	61.0%	57.7%	13.6%	15.7%	9.2%	9.9%	11.2%
講義	45.8%	50.2%	54.9%	56.5%	55.1%	19.8%	16.4%	12.7%	12.5%	13.4%
演習	66.9%	64.7%	72.2%	69.9%	67.4%	9.4%	9.8%	5.8%	7.8%	10.2%
必修		48.6%	53.1%	53.3%	52.5%		17.2%	13.2%	14.0%	15.0%
選択		55.0%	58.9%	61.8%	58.8%		14.1%	11.3%	10.2%	11.6%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.75	3.58	3.79	3.71	3.37	3.45	3.23	3.52	3.12	3.40	3.45	3.29
平成12年前期	4.09	3.90	3.70	3.66	3.43	3.49	3.71	3.58	3.42	3.75	3.89	3.47
平成12年後期・13年前期	4.02	4.02	3.87	3.61	3.58	3.64	3.77	3.71	3.45	3.80	3.93	3.67
平成13年後期・14年前期	3.97	3.84	4.16	3.76	3.73	3.65	3.77	3.59	3.47	3.78	4.07	3.62
平成14年後期・15年前期	3.93	3.88	3.95	3.60	3.73	3.66	3.76	3.61	3.47	3.84	3.86	3.62

知的に刺激されたとの評価が昨年度に比べ減少した。特に全学教育での減少が目立ち、気になる。

授業法との関連

授業法がよいと答えた学生が、知的刺激も多く受けている傾向ははっきりしている。

学生参加との関連

学生参加を高く評価している学生は、高く評価している。

難易度との関連

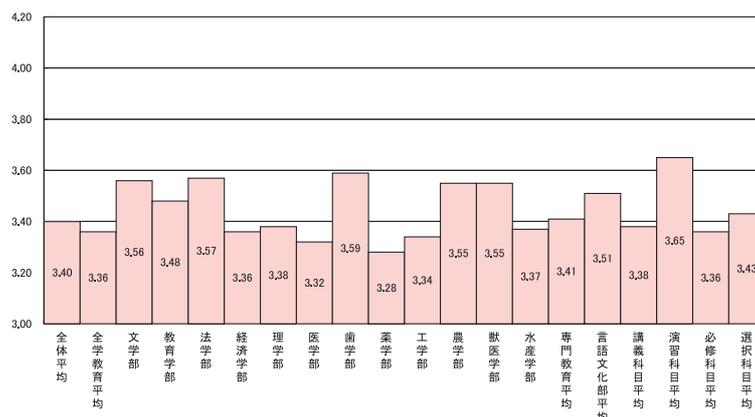
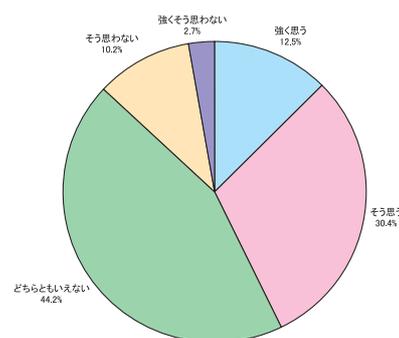
難易度が普通からやや易しいと答えた学生が、知的刺激を受けた程度が高いことがわかる。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいほどよい傾向がみられる。

- ・ 授業の履修目標を達成できた。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全 体	34.9%	39.9%	43.2%	44.4%	42.8%	17.5%	14.3%	12.2%	11.6%	12.9%
全学教育	37.5%	40.1%	43.5%	44.1%	41.6%	17.1%	15.6%	13.5%	12.5%	14.6%
専 門	33.3%	39.7%	43.0%	44.6%	43.4%	17.7%	13.5%	11.6%	11.3%	12.2%
言 語	44.9%	49.9%	52.5%	52.1%	50.1%	13.7%	11.7%	8.4%	9.7%	11.5%
講 義	33.5%	38.4%	42.1%	43.5%	41.8%	18.0%	14.7%	12.6%	11.9%	13.2%
演 習	52.5%	53.4%	57.5%	56.3%	55.9%	11.4%	10.5%	8.0%	8.4%	9.5%
必 修		37.9%	41.9%	41.8%	41.2%		15.3%	12.6%	13.0%	14.0%
選 択		42.1%	44.4%	47.2%	44.2%		13.1%	11.9%	10.2%	12.1%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.39	3.17	3.43	3.45	3.16	3.16	3.27	3.02	3.10	3.18	3.23	3.18
平成12年前期	3.52	3.66	3.39	3.39	3.12	3.25	3.57	3.14	3.33	3.46	3.60	3.33
平成12年後期・13年前期	3.57	3.65	3.49	3.40	3.34	3.34	3.62	3.34	3.32	3.54	3.61	3.48
平成13年後期・14年前期	3.59	3.56	3.70	3.46	3.47	3.34	3.61	3.25	3.35	3.55	3.68	3.42
平成14年後期・15年前期	3.56	3.48	3.57	3.36	3.38	3.32	3.59	3.28	3.34	3.55	3.55	3.37

授業の達成感に対する評価は元々あまり高くないが、今年度は前年度に比べ評価を下げた。全学教育、専門教育ともに評価を下げており、薬学部がわずかに評価を上げた以外は、全面的に評価を下げており、理学部、経済学部、法学部は0.1前後の評価減である。講義形態別では、演習が評価が高く、必修に比べ選択科目の評価が低い。

授業法との関連

授業法が良いとした学生は、達成感も高いことが分かる。

難易度との関連

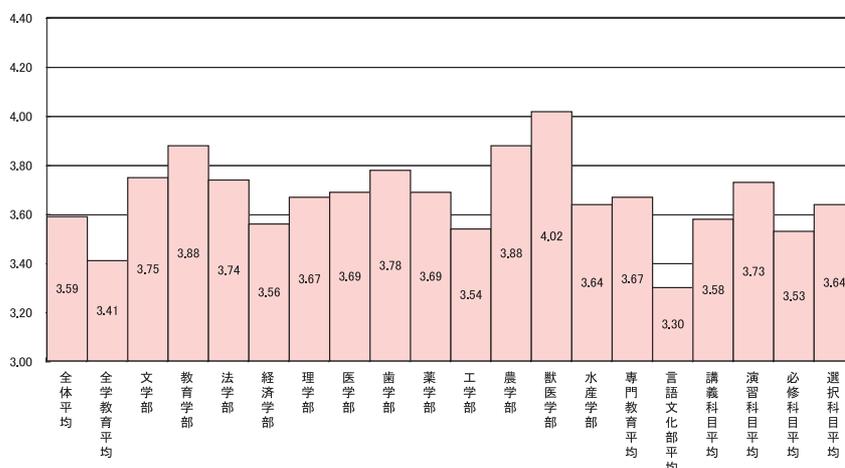
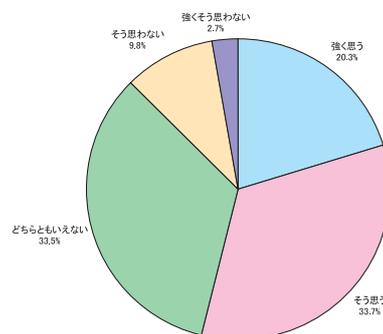
授業の履修目標を達成できたとする学生には、授業内容が易しいと答えた学生が多い。難易度が難しい、極めて難しいと答えた学生は、達成感はどちらともいえないと答えたものが多い。

クラスサイズとの関連

クラスサイズと授業の達成感とのあいだにはあまり明瞭な相関関係はないようである。

- ・ 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	37.7%	48.6%	52.7%	54.8%	54.0%	21.4%	15.0%	11.9%	11.5%	12.5%
全学教育	33.3%	42.8%	47.3%	48.2%	46.6%	23.6%	19.7%	16.2%	16.0%	17.6%
専門	40.3%	51.7%	55.5%	57.8%	57.1%	20.0%	12.3%	9.6%	9.6%	10.4%
言語	32.4%	40.5%	43.0%	41.0%	38.7%	21.7%	18.8%	14.5%	15.9%	18.2%
講義	36.9%	48.0%	52.1%	54.3%	53.4%	21.9%	15.3%	12.1%	11.7%	12.6%
演習	48.7%	55.4%	61.3%	62.1%	60.5%	14.6%	11.6%	9.0%	8.8%	11.4%
必修		44.7%	49.8%	51.9%	51.3%		15.7%	13.0%	13.1%	13.7%
選択		50.9%	55.4%	58.1%	56.1%		13.8%	10.8%	9.8%	11.6%



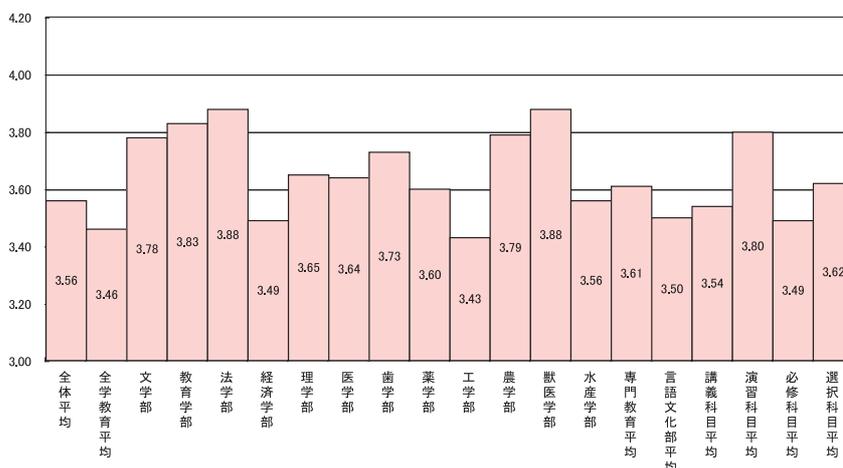
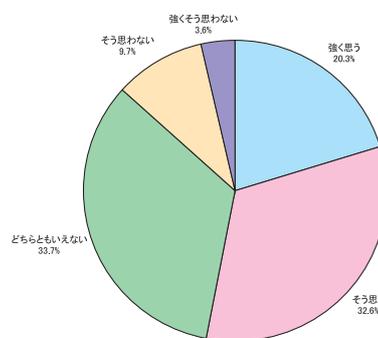
学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.29	3.35	3.48	3.44	3.20	3.38	3.16	3.30	3.11	3.29	3.50	3.23
平成12年前期	3.78	3.88	3.53	3.59	3.35	3.51	3.62	3.57	3.46	3.71	3.90	3.51
平成12年後期・13年前期	3.76	3.87	3.69	3.59	3.52	3.62	3.78	3.71	3.49	3.82	3.99	3.71
平成13年後期・14年前期	3.72	3.84	3.92	3.72	3.68	3.63	3.81	3.71	3.54	3.83	4.21	3.63
平成14年後期・15年前期	3.75	3.88	3.74	3.56	3.67	3.69	3.78	3.69	3.54	3.88	4.02	3.64

この項目もわずかに評価を下げている。全体にわたって評価を下げているという印象であるが、全学教育の評価減が専門教育に比べ大きい。全体の変化は大きくないが学部毎の評価の変動はかなり大きい。

- ・授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そうは思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全 体	44.2%	48.6%	52.7%	54.5%	52.9%	9.4%	16.0%	12.6%	11.8%	13.4%
全学教育	43.9%	47.6%	51.6%	53.1%	49.6%	20.5%	19.3%	15.8%	14.5%	17.1%
専 門	44.4%	49.0%	53.3%	55.2%	54.4%	18.7%	14.2%	11.0%	10.7%	11.8%
言 語	47.6%	51.9%	54.4%	55.9%	54.4%	17.4%	16.0%	11.7%	11.7%	14.4%
講 義	42.9%	47.1%	51.5%	53.6%	52.0%	20.0%	16.6%	13.1%	12.2%	13.6%
演 習	62.6%	62.5%	68.9%	67.2%	64.7%	10.8%	11.5%	7.1%	7.4%	10.3%
必 修		45.6%	49.6%	51.1%	49.4%		17.2%	13.3%	13.6%	14.7%
選 択		51.9%	55.6%	58.2%	55.8%		14.5%	12.0%	10.0%	12.3%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.60	3.49	3.70	3.61	3.35	3.40	3.26	3.45	3.09	3.38	3.57	3.29
平成12年前期	3.92	3.84	3.64	3.52	3.37	3.41	3.67	3.52	3.35	3.66	3.85	3.40
平成12年後期・13年前期	3.84	3.90	3.79	3.50	3.53	3.57	3.70	3.61	3.40	3.75	3.89	3.63
平成13年後期・14年前期	3.80	3.81	4.02	3.75	3.67	3.62	3.73	3.62	3.45	3.73	4.00	3.56
平成14年後期・15年前期	3.78	3.83	3.88	3.49	3.65	3.64	3.73	3.60	3.43	3.79	3.88	3.56

この項目も評価が減少しており、特に全学教育の減少が大きい(0.08)。学部別では、獣医学部、法学部など昨年の評価が高かった学部が評価をかなり下げている。講義形態、必修選択の別に関わらず前年度から評価を下げた。

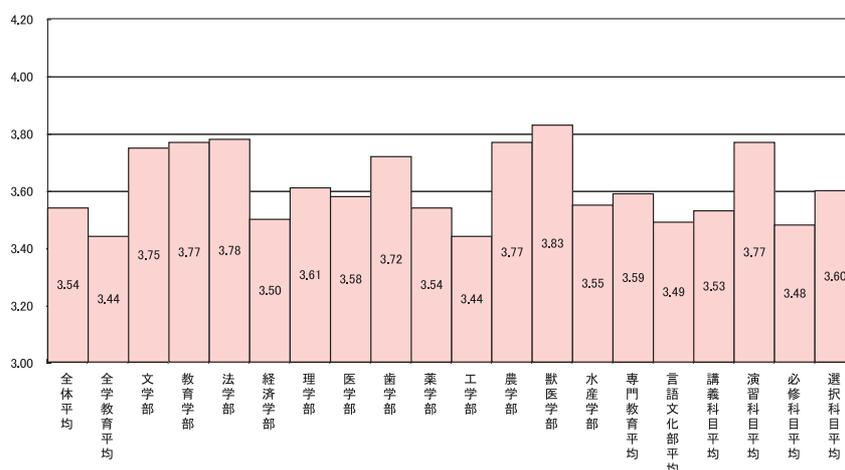
授業法、学生参加、授業の難易度との関連

予想されるように授業法が良い、積極的に授業に参加したと答えた学生に勉学意欲が湧いた傾向が大きいことが見てとれる。一方、授業の難易度とは明瞭な相関関係はないようである。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいほどよいが、顕著な傾向ではない。

・ D項目全体の平均



学部別評点平均

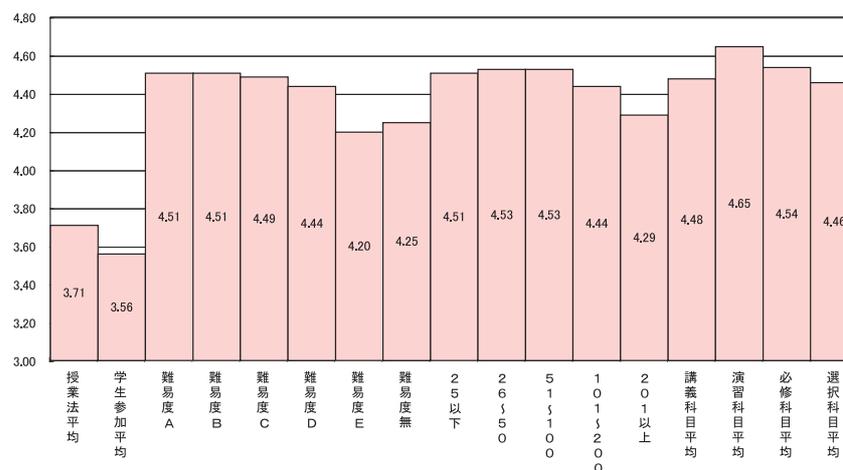
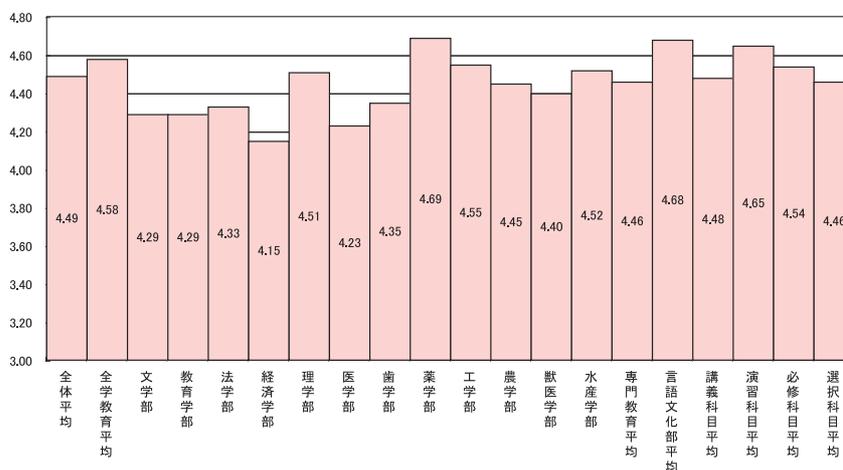
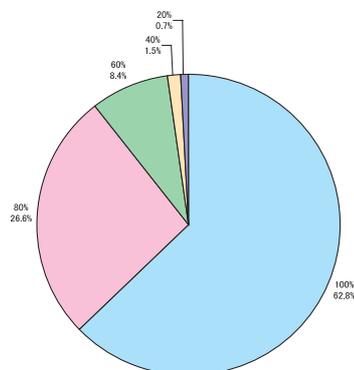
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.51	3.40	3.60	3.55	3.27	3.35	3.23	3.32	3.11	3.31	3.44	3.25
平成12年前期	3.83	3.82	3.57	3.54	3.32	3.42	3.64	3.45	3.39	3.65	3.81	3.62
平成12年後期・13年前期	3.73	3.87	3.70	3.51	3.41	3.55	3.69	3.60	3.40	3.72	3.85	3.62
平成13年後期・14年前期	3.77	3.76	3.95	3.68	3.64	3.56	3.73	3.55	3.45	3.72	3.99	3.56
平成14年後期・15年前期	3.75	3.77	3.78	3.50	3.61	3.58	3.72	3.54	3.44	3.77	3.83	3.55

全体的に見ても授業の効果を示す項目は一斉に前年度より評価を下げ、特に全学教育の評価減が目立つ傾向は注視しておく必要がある。

F 「出席・態度」

・この授業の自分の出席率は()%程度であった。

	80と100%の合計					20,40と60%の合計				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全体	86.0%	87.5%	88.8%	89.4%	89.4%	14.0%	12.5%	11.2%	10.6%	10.6%
全学教育	89.6%	90.4%	91.8%	92.2%	91.5%	10.4%	9.6%	8.2%	7.8%	8.5%
専門	83.6%	85.6%	87.3%	88.2%	88.5%	16.4%	14.4%	12.7%	11.9%	11.5%
言語	93.7%	94.4%	95.9%	95.6%	96.4%	6.3%	5.6%	4.1%	4.4%	3.6%
講義	85.4%	86.8%	88.4%	89.0%	89.0%	14.6%	13.2%	11.6%	11.0%	11.0%
演習	91.3%	93.2%	94.8%	94.5%	94.1%	8.7%	6.8%	5.2%	5.5%	5.9%
必修		87.9%	90.1%	90.5%	90.6%		12.1%	9.9%	9.5%	9.4%
選択		86.7%	87.7%	88.2%	88.5%		13.3%	12.3%	11.8%	11.6%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	4.14	4.11	4.14	3.98	4.40	4.06	4.47	4.59	4.38	4.38	4.44	4.38
平成12年前期	4.18	4.48	4.31	4.09	4.40	3.92	4.48	4.60	4.45	4.45	4.44	4.42
平成12年後期・13年前期	4.18	4.21	4.31	4.10	4.52	4.19	4.40	4.58	4.48	4.47	4.35	4.57
平成13年後期・14年前期	4.12	4.17	4.20	4.25	4.54	4.22	4.52	4.69	4.55	4.50	4.43	4.51
平成14年後期・15年前期	4.29	4.29	4.33	4.15	4.51	4.23	4.35	4.69	4.55	4.45	4.40	4.52

全体に学生の出席率に大きな変化はない。授業形態や必修・選択の別でも昨年度と比べ大きな変化はない。学部毎の変化はかなり出入りが見られるが、平均化した場合の変化は小さい。

難易度との関連

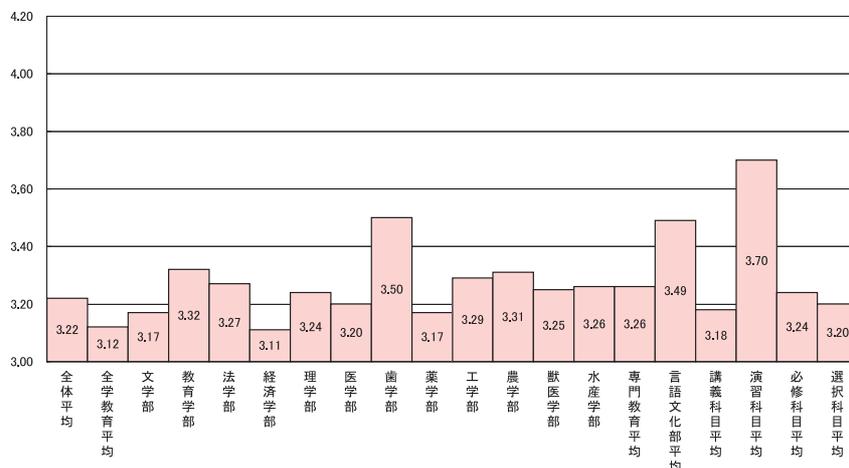
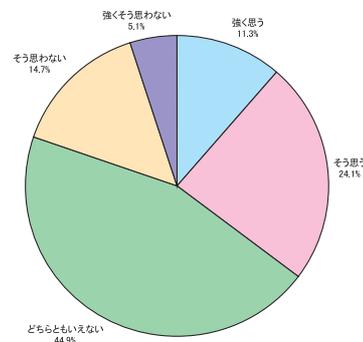
難易度と出席率の間に顕著な差があるようにはみられない。

クラスサイズとの関連

このアンケートによれば、クラスサイズが201人以上となると出席率が悪くなる傾向があるが、それ以下では顕著に出席率が違ってくるようにはみえない。

・質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。

	そう思う (評点の4と5の合計)					そう思わない (評点の1と2の合計)				
	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前	平成11前	12前	12後・13前	13後・14前	14後・15前
全 体	23.9%	30.1%	33.7%	35.6%	35.4%	31.0%	23.3%	20.1%	18.8%	19.7%
全学教育	26.7%	31.1%	35.1%	35.0%	32.8%	29.7%	25.7%	22.3%	22.5%	24.5%
専 門	22.1%	29.4%	32.9%	35.9%	36.5%	31.7%	22.0%	19.0%	17.1%	17.7%
言 語	41.0%	45.2%	53.8%	51.2%	48.5%	18.6%	16.0%	10.8%	12.5%	13.4%
講 義	21.8%	27.8%	31.9%	33.9%	33.5%	32.2%	24.3%	20.9%	19.5%	20.5%
演 習	49.0%	51.7%	57.1%	59.0%	59.0%	15.4%	12.1%	9.6%	8.5%	10.6%
必 修		30.7%	35.7%	36.3%	36.3%		22.6%	18.4%	17.9%	18.8%
選 択		29.1%	31.8%	34.9%	34.6%		24.0%	21.7%	19.8%	20.5%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	2.86	2.85	2.95	3.07	2.86	2.93	2.98	3.01	2.82	2.84	2.70	2.82
平成12年前期	3.06	3.11	3.01	3.02	2.98	2.96	3.48	3.03	3.14	3.21	3.26	3.08
平成12年後期・13年前期	3.11	3.24	3.17	3.09	3.20	3.15	3.49	3.20	3.16	3.24	3.36	3.26
平成13年後期・14年前期	3.11	3.19	3.34	3.20	3.34	3.22	3.54	3.21	3.27	3.32	3.33	3.24
平成14年後期・15年前期	3.17	3.32	3.27	3.11	3.24	3.20	3.50	3.17	3.29	3.31	3.25	3.26

全体的に数字が高いとはいえない。前年度に比べやや評価が下がった，すなわち，積極的に参加したという意識が減少している。全学教育での落ち込みが大きく，専門教育ではほぼ横這いであった。言語文化部の値も高い。学部別では，教育学部の上昇と，理学部，経済学部の減少が目立つ。

難易度との関連

講義内容がちょうど良いと判断するとき積極的に参加し，極めて難しくてもやさしくても消極的参加となる傾向が見られる。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいものや，演習科目では積極的参加が多い。

各教官あて通知内容

集計表

フィードバック用の集計表では、各教員は、自分の授業の各項目の学生による評点を各評価項目評点平均と総合評価指数で、全体平均・全学教育平均・専門教育平均・当該部局専門教育平均・講義科目平均・演習科目平均・必修科目平均・選択科目平均と比較することになる。

「平成15年度(平成14年度後期及び平成15年度前期実施分)授業アンケート」集計表

部局名: 氏名: 提出枚数/登録学生数(提出率)
 授業の形態:講義 科目区分: 必修・選択:選択 科目名: 32/32(100.00%)

設問内容	5 (%)	4 (%)	3 (%)	2 (%)	1 (%)	無回答 (%)	全体平均	全学教育平均	専門教育平均	専門教育平均(当該部局)	講義科目平均	演習科目平均	必修科目平均	選択科目平均	
1. シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。	19.35	45.16	35.48	0.00	0.00	3.13	3.84	3.71	3.68	3.73	3.73	3.70	3.85	3.64	3.79
2. 授業は体系的に行われていた。	28.13	59.38	9.38	3.13	0.00	0.00	4.13	3.92	3.86	3.94	4.36	3.91	4.03	3.86	3.98
3. 教官の熱意が伝わってきた。	56.25	37.50	6.25	0.00	0.00	0.00	4.50	3.98	3.96	3.99	4.64	3.97	4.13	3.92	4.05
4. 教官の話し方は聞き取りやすかった。	68.75	31.25	0.00	0.00	0.00	0.00	4.69	3.79	3.77	3.80	3.36	3.77	4.03	3.73	3.85
5. 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。	46.88	40.63	12.50	0.00	0.00	0.00	4.34	3.49	3.42	3.52	4.00	3.47	3.67	3.43	3.55
6. 授業により知的に刺激された。	28.13	43.75	21.88	6.25	0.00	0.00	3.94	3.66	3.61	3.68	4.55	3.63	3.97	3.56	3.76
7. 黒板、スライド、OHP、ビデオ、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的であった。	25.00	37.50	25.00	12.50	0.00	0.00	3.75	3.62	3.53	3.65	3.64	3.61	3.73	3.54	3.70
8. 教官は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。	59.38	28.13	12.50	0.00	0.00	0.00	4.47	3.41	3.34	3.44	4.27	3.36	4.14	3.48	3.34
9. 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。	50.00	37.50	12.50	0.00	0.00	0.00	4.38	3.75	3.75	3.74	4.64	3.71	4.25	3.77	3.72
10. 授業の進行速度は適切であった。	50.00	31.25	15.63	3.13	0.00	0.00	4.26	3.69	3.74	3.67	4.82	3.67	3.91	3.63	3.76
11. 授業で要求される作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。	48.39	35.48	12.90	3.23	0.00	3.13	4.29	3.68	3.74	3.65	4.18	3.67	3.77	3.62	3.74
12. 授業内容の難易度は適切であった。	0.00	3.13	84.38	12.50	0.00	0.00	4.69	3.87	3.85	3.88	3.91	3.87	3.80	3.81	3.93
13. 授業の履修目標を達成できた。	12.50	53.13	28.13	3.13	3.13	0.00	3.69	3.43	3.41	3.44	3.82	3.41	3.67	3.38	3.49
14. 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。	12.50	37.50	37.50	6.25	6.25	0.00	3.44	3.61	3.46	3.68	3.91	3.60	3.79	3.54	3.68
15. 授業により、新しい知識、考え方、技能を修得でき、さらに深く勉強したくなった。	18.75	53.13	25.00	0.00	3.13	0.00	3.84	3.60	3.54	3.62	4.18	3.58	3.89	3.51	3.69
平均値	34.94	38.28	22.59	3.35	0.84	0.42	4.03	3.68	3.64	3.70	4.13	3.66	3.91	3.63	3.74
16. この授業の自分の出席率は()%程度であった。	81.25	18.75	0.00	0.00	0.00	0.00	4.81	4.49	4.58	4.45	4.73	4.48	4.63	4.53	4.45
17. 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	18.75	34.38	34.38	9.38	3.13	0.00	3.56	3.24	3.17	3.27	3.55	3.20	3.73	3.26	3.21
平均値							4.19	3.86	3.88	3.86	4.14	3.84	4.18	3.90	3.83

評点については次のとおりとする。

設問1～11、13～15、17:「5・4・3・2・1」は、「強く思う・思う・どちらともいえない・そう思わない・強く思うわない」を意味する。

設問12:「5・4・3・2・1」は、「A極めて難しい・B難しい・C適切・Dやさしい・E極めてやさしい」を意味する。
 なお、各教官の設問1～15の平均値を算出するために「C 5・BD 3・AE 1」として計算した。

設問16:「5・4・3・2・1」は、ほぼ「100%-80%-60%-40%-20%」を意味する。

評定平均の度数分布

教員各自の総合評価指数の位置づけを知るために、度数分布と順位を示した。すなわち、評価を受けた科目全体、全学教育科目、専門科目、当該部局専門科目の総合評点度数分布、最高値と最低値、該当科目数のうちの順位、たとえば、評価を受けた科目全体の数 中 位として、位置づけを明確にしている。これにより各教員は、自らの位置づけを明確に把握できる。

度数の幅は評点平均 0.1でグラフとしている。幅の取り方と関連して、多少の凹凸があるが、全体的には正規分布のグラフとなっている。各部局の専門科目のグラフは、科目数が多かったり少なかったりするので、度数分布としては形が悪いが、それでも全体での位置づけを見るには十分であろう。また、各部局の専門教育科目に対する評価も、平均点のみで提示するよりは含まれる情報が多い。

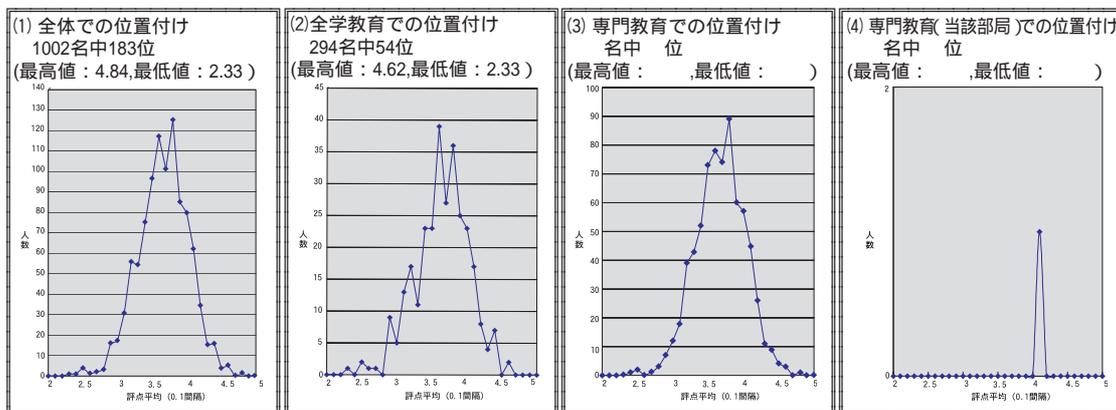
「平成15年度(平成14年度後期及び平成15年度前期実施分)授業アンケート」

評点平均の度数分布図

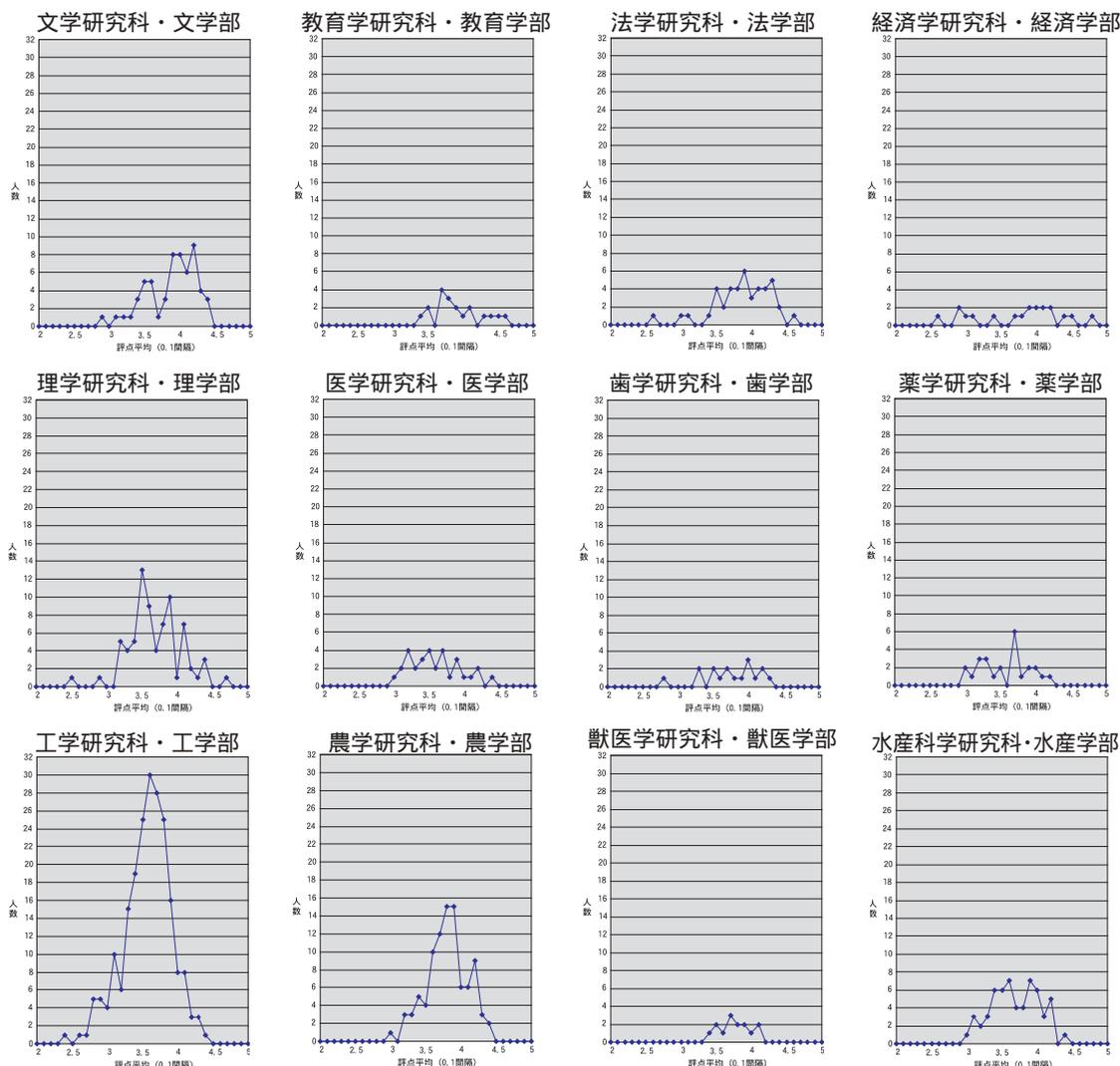
部局名: _____ 氏名: _____ 提出枚数/登録学生数 (提出率): _____
 授業の形態: _____ 科目区分: _____ 必修・選択: _____ 科目名: _____ 32/32(100%)

1. あなたの評点平均: 4.03

2. 評点平均の順位



部局ごとの専門教育科目の度数分布図



自由意見の解析

自由意見の解析は、各年度ごとに、前年度の解析方法・内容をふまえて、新しい観点のもとで実行されている。平成11年度は、学生の自由意見を一般化できる点にしぼり、授業の種類の違いなしに羅列した。翌12年度は、授業別に意見を区分けしてまとめた。13年度には、各授業別の意見をできるだけ3つのキーセンテンスでまとめ、それをアンケートのカテゴリー（A.シラバスとその内容、B1.教員の授業法・・・）と関連させて分類した。さらに、アンケートに対する教員の自由意見をまとめ、指摘された改善点や問題点で参考になるものを羅列した。14年度は、特筆すべき事項（たとえば前回にはなく、今回はじめて出てきた事項）を含む意見をアンケートのカテゴリーに沿って列挙した。また教官の自由意見も、アンケートのカテゴリー分けを用いて分類し、特筆すべき事項をあげた。さらに、学生、教官双方の意見の中に見られる授業についての改善提言を紹介した。

以上のように、自由意見の解析はこれまでに十分きめ細かく行われてきたと見なすことができ、また意見自体もほぼ出つくしていると思われる。そこで、今年度については形式を変えて解析を行った。自由意見の中で学生が何らかの面で特に優れていると判断している意見が多い授業を抽出し、その自由意見を紹介することにより、授業を評価する学生の視点や、高い評価を受ける授業の特性を明らかにする、というのが今回とった方法である。

抽出した意見を検討して明らかになったのは、学生は教員の総合的授業実行方法（授業への熱意、教育媒体・負担の適正さ）と授業への満足感・授業における達成感を特に重視しているということである。抽出した意見の多くがこれらの点を指摘し、評価していた。授業は学生と教師との相互関係で成り立っているのであるから、これらの点は授業実施におけるまさに基本的な事項と言えるが、現実にはこの基本的な事柄の効果的な遂行は意外に困難なのかもしれない。このほかにも、授業への学生参加や授業の難易度の適切さを評価する観点もあった。これらも、新しい時代の授業のあり方として考慮すべき事項であろう。このように抽出した意見は非常に示唆に富むものであった。

以下に、抽出した自由意見の実例を示すことにする。

全学教育科目・講義

社会の認識「環境と地域社会」（文学研究科・文学部・宮内 泰介）

「自然とは何か」という問題を皆で、議論することから始まり、難しいと感じていたが、他の人の多様な考えを聞くことで自分の視野も広がった。教官は毎回難しい問題を熱心にわかりやすく伝えて下さったと思う。自分の興味が自然そのものから「自然を守るとはどういうことか」「人間と人間の紛争を解決するためにはどういった方法が考えられるか」ということへ変化していくのを強く感じた。問題発見・解決能力が身についたように思う。ディスカッションの楽しさも知った。

他の人とあるテーマにそって、討論しあうことで、いろいろな考え方があることがわかった。また、自分の中でも新しい考え方ができるようになったりし、とても勉強になって良かったです。ただ話を聞くだけの授業より、この授業の方が、自分の意見を出しあったり、

積極的に参加できて楽しかったです。

自分の興味のある分野であったこともあるが、ディベートや新しい考え方や知識を毎回得られるような授業内容だったので毎週おもしろかった。それと同時に自分の無知さと今までの受け身すぎた学習態度を痛感した。自分で疑問をもち、考え、動くことの大切さを教えられた気がする。知識や自分で考える能力をもっとつけてから、また同じ(ような)授業を受けてみたいと思った。

他の人との話し合いの仕方やレポートの書き方など、どの分野にも関係することも学べてよかったです。特に他の人との話し合いのすすめ方は、回数を経ることでなれてきたので、これからそういう場で役に立つと思います。授業の内容は、もともと興味があったことだったので楽しく参加できました。テーマとしては難しいことで、これからは勉強が必要ですが、やる気が出るような授業でよかったです。

"田んぼは自然か"というタイトルにひかれて授業に参加しました。答えのなさそうなものに対して、自分の意見を明確に示すことの難しさを実感しました。ディスカッションが多いということで初めは不安(あまり得意でないと考えていた)でしたが、4人グループでのディスカッションだったので、とてもやりやすかったです。意見を交換し合うことで新しい考えが自分の中に入ってくるのもわかりました。多方面から情報を得ることの大切さも知ることができました。

自分は、この講義を受講することができて、本当によかったです。自分は環境問題に興味があり、その分野の勉強をしたくて、大学に入りました。しかし、今まで自分が考えてきた環境問題の解決策は、ただ木を植えればいいのか、森を切らなきゃいいなどといったものでした。この講義では環境問題は、人と自然の間関係によって生じるのみならず、人と人、人と地域のより複雑な関係が絡みあって生じているということを知り理解することができました。また、ディスカッションを通じて、多くの人の多くの意見を聞くことができ、とても面白く有意義な時間をすごせました。

今までは、環境問題を、データの中からしか考えていなかったもので、解決する方法といわれても、具体的方法がわからず、環境問題を人と人との関わりの中から解決にもっていく方法を学んだ。授業の初めに言った「地球規模で考え、地域で活動する」という方法で現在の深刻な問題にどこまで対応できるかわからないが、やってみる価値はあるなど、ポジティブに考えられるようになった。

自分は環境問題に興味があり、授業の内容は、自分が学びたかったものであり、毎回様々な題材を取り上げ、ディスカッションをしたりと、考えるという意味では、大変だったけどためになる授業でした。配られるプリントが多く復習しやすく、分かりやすかったのが良かったです。

ディベート形式の授業は新鮮で面白かった。授業を通して、様々な環境問題を知ることができ、良かった。また、ゲストのNGOの方が来られたのも面白かった。

社会の認識「日本国憲法」(法学研究科・法学部・笹田 栄司)

板書もわかりやすくて、法律や憲法に興味があつても良い授業だったと思います。本来難解な法律も、わかりやすく、また身近な問題として考えることができ、この授業がとれてよかった。

日本国憲法の理論を抽象的に学ぶのではなく、実際に起こった出来事から話が進んでゆくことで、飽きずに最後まで取り組むことができた。

現在工学部の博士課程に在籍しており、いわゆる「文系」の授業は久しぶりでとても新鮮でした。特に私は、計算機でのシミュレーションが研究の課題なので、数値的な処理におわれているが「解釈」が主体のこの分野は刺激になりました。

先生の授業に対する熱意がとても好きでした。

授業が分かり易く、重要事項を板書されるので、復習やテスト勉強がやりやすいと思った。リラックスしてうけることができたので、良かったと思います。私語の注意をして、静かな授業環境を作っていたので、好感がもてました。

大変わかり易く、また雰囲気も重すぎず、良い授業でした。

とても理解し易かったです。身近に感じました。

テキストも授業もわかりやすかったです。

科学技術の世界（理学研究科・理学部・杉山 滋郎）

クローンについて真剣に考える人たちが集まり意見をたたかわせることでより考えが深まった。思いもよらない意見も沢山出てとても楽しかった。

今回が初めてのケースだと聞いたが、非常に面白い授業だった。むしろ、何故今までこのような形式が行われていなかったのが不思議なくらいだ。出席も全く苦痛ではなかったし、内容も良かった。もっと長期に渡って続けたいとも思った。唯一の心残りとは言えば、話し足りなかったことぐらいだろう。先生と大学院生の方々、そして学生たちに感謝したい。この授業は全ての中でも特に好きでした。説明もわかりやすく理解できたし、興味・関心を持って授業に臨むことができました。

大変興味深く、得るものが多い授業でした。日曜日などを用い、長い時間をかけて討論し合う機会をもたせてもらったのも、大変良いと感じています。また、専門家として、多くの人を招いてくれたのも、いろいろな側面から、学ぶことができ、様々な考え方を学べたことから、とてもすばらしい授業方法だったと感じています。これからも、この方法を続けて行ってほしいです。

本当にいい授業でこれぞ大学の授業だと思いました。このような授業があればまた受けてみたいです。

生物学（理学研究科・理学部・栃内 新）

このように知識量でなく考える力をつける講義がふえるとよいと思った。

課題は大変であるが、とても力になるし、勉強の方法をはだで理解できたから、次につながると思う。ためになった。

とにかく毎週楽しみにしてた位この授業は面白かったです。今まであまり生物学に興味なかったのにこの授業で興味がわきました。知的に刺激されました。

面白い授業（内容的に）だった。興味ある分野だったからかもしれないが、前期の授業で一番自分の身になったと思う。

先端の医療はどのようなもので、どんな原理がもとになっているのか、ということが少しでもわかったし、とても興味深く思えた。すごくおもしろい授業だった。

英語（言語文化部・奥 聡）

先生の言っていることが聞きとりやすく、とてもよかったです。宿題も毎回出されることで英語を適度にやる機会ができました。

毎回のテストの準備・予習が大変だった。先生の熱意がすごいので、生徒の側もそれにひっぱられていたと思う。プリントが多いのでわかりやすい。

安楽死の話題など、印象に残る授業が多くて良かった。知的好奇心を刺激された。

課題や小テストがひんぱんにあったので、わずかな時間ではあっても英語に取り組むことができた。

要領の良い読み方が学べて、わかりやすかったです。

「聞きたくなる授業」でした。

先生の授業は普段からの努力をけっこう評価してくれて、最後のテストで一発勝負などということがないので有難い。

今までうけた英語の先生の中では最も良かったです。何がいかと言えませんが 授業がわかりやすい 読解のテクニックを教えてくれる 宿題が適度にあり、知的好奇心を刺激されるなど、さまざまなことが上げられますが、何よりも先生の熱意が尋常ではありませんでした。

この授業は宿題等があり負担は若干重かったが、それによって授業に参加する意欲が増したので結果的にはよかったと思う。電子メールでの質問はとてもためになるものでしたが、ほとんど利用することがなかったので残念です。

先生の熱意が伝わってきた。

全学教育科目・演習

一般教育演習「蛙学への招待（高等教育機能開発総合センター・鈴木 誠）

このような授業は他にないと思う。これから研究していく上で必要な能力をみがくことができ本当に良かった。班の人とも仲良くなれ、人間関係が広がったと思う。また、パソコンの使い方や資料の集め方なども授業準備をしているうちに学ぶことができ、という表現は適切ではないかもしれないが、+ として身につけ、本当に満足している。しかし、これで満足し、その場で止まることのないよう、この授業を生かしてこれからも自分の夢に向かってがんばりたい。

最初はすごい倍率を突破できて嬉しかったけど、授業を聞いているうちに、これはすごいがんばらなあかんと思うようになった。本当にキツイ作業が続く授業で私が今まで取った授業の中でもとび抜けて苦しかったけど、授業が終わったらというか自分の班の発表が終わった時の達成感がとても大きかった。終わるのがとても寂しいくらい好きな授業だった。これから大学生を送る上でとても大切な事を教えてもらったと思う。先生のやる気がとてもあって、班の人とても良い人達だった。本当に、本当にとって良かったです。

発表までの間は、すごく忙しくて大変で、やっと発表が終わって、爽快に授業受けてたのに、レポートがあるって聞いてかなりショックでした…。でも、この授業で、他の人に比べて自分がいかに世の中とか 学問について甘っちょろく考えていたのかがわかりました。高校までの勉強じゃ絶対に学べなかった、自分で新しく創造するってことができるように

なっただと思います。

今まで受けてきた授業の中で一番おもしろかったです。発表の前はほんとに時間が全然なかったし、こんなに情報収集することはもうないんじゃないかって思うくらい色々調べて大変でした。でも、今はこの授業をうけて本当に良かったと思っています。先生に最後に言われたことを忘れないで、これからがんばっていきたいです。

やる事も多く大変だったが、最も興味を持ち続けて取り組むことが出来た。内容は自分にとってためになったと強く思う。この授業をとって良かった。

外での課外学習や生徒が授業をするといった他の授業ではできないことがたくさん体験できて本当に楽しかったし、知識も増えた。いろいろなこと(授業以外のことも)が学べて、私自身とても成長できたので、これからも、このやり方で続けていってほしい。出席カードを毎回提出することで、先生と対話ができよかった。

最初は先生は「つめたい人」だと思ったけど、今にして思えば自分が甘えすぎただけだったと思う。先生には大学では人に頼りすぎず、自分の力であらゆることをこなさなければならないということを教わりました。ここまで学生が自主的に勉強する授業は他には絶対ないはずなので、これからもずっと続けて欲しいと思います。一学期にとった授業の中で最高の授業でした。

「自ら参加する」ということを考えてみれば、この授業は最高だ。教官が嫌でも積極的にさせてくれる。内容も知的におもしろく、とにかく楽しかった。大変だったのに楽しかった。先生が与えてくださるものを十二分に堪能できたと思う。またこの授業を受けたい。でも全ての授業にこの授業に対するくらい熱入れて臨んだら、物凄いことになってしまう…。やる気のある教官でついていくのが大変だった。やることの多さと授業の密度は他のどの授業にも負けないくらいのものであった。忙しさの中に楽しさもあった。

専門科目・講義

心理システム科学概論(文学研究科・文学部・瀧川 哲夫)

興味深い話題がいくつも盛り込まれており、また簡単に行えるような実験も何度か行われたことで、講義の内容を身近に感じることができました。

授業の中で実験をしたことが印象的でした。自分も被験者となってみることで、文献からは感じられない実験の偉大さを肌で感じることができ、とても楽しかったです。

心理学の授業は初めだったが非常にわかりやすくていねいな授業であった。基本的なことを中心にしていたので、よかった。講義中には実際に心理学の実験をしたりと、あきることなく楽しんで授業をうけることができた。

心理学の実験を何例か授業の中で提示し、実際にやってみたことがおもしろかった。

今までほとんど触れたことのない学問だったので色々知識が深まりました。

概論なのでもっと面白くない講義かと覚悟していましたがゲームやクイズを取り入れた楽しい授業でした。

おもしろい実験結果を基に授業が行われ、興味深かった。

基礎的なことや歴史、過去の理論が分かってよかった。丁寧な授業でわかりやすかった。

心理実験の色々な事例や歴史を知ることができて、とても楽しい授業でした。

日本政治史（法学研究科・法学部・松浦 正孝）

今まで受けた講義の中で最も「ちゃんとした」講義でした。テキストを読むだけではないオリジナリティーのある内容，OHPを多用したただ話すだけではない講義，学生の質問にいていねいに答える点など，他の先生にもぜひ見習ってほしい。講義の準備にとっても時間をかけ，よりよいものにしようとする先生ご自身の気持ちが伝わってくる講義でした。面白かった。このような講義だと，私学生の側も勉強する気がわいてきます。

ありきたりでなく新しいことが学べて大変楽しかった。質問票があるので，自分の疑問も解決できてよかった。

おもしろかった。新聞がおもしろく読めるようになった。日本の政治がいろいろ見えてよかった。

左右対立にとらわれない視野の広さを身につけた。

教官の熱意を非常に感じた。これほどの講義はなかなかないと思う。最高だった。

有機化学（理学研究科・理学部・鈴木 孝紀）

授業は他のどんな授業よりも分かりやすかったです。大学の先生の板書はあまり考えられていない思いつきで書かれるものが多いのですが，先生の板書はよく考えられていて後で自分のノートを見て復習し易いものでした。

毎回出席テストを実施していましたが，良かったと思います。また章ごとに課されたレポート課題も復習に役立ちました。自分では中々復習しないので，理解を深めることができたと思います。

レポート，毎時間の設問により，学力がついたように思う。毎回毎回なので辛かったが，結果としては良かったと思う。

授業内容の説明はいつも丁寧でわかりやすかったです。また，活気のある授業だった（先生が一生懸命にやっておられるのが伝わってくる）ので，眠くならずに聞けた。

薬物代謝学（薬学研究科・薬学部・鎌滝 哲也）

先生が熱心に教えて下さるので，しっかり前回までの復習をしてから講義に臨むようにしました。今まであまり生物学系は得意ではなかったのですが，とても興味をもって聞けました。（板書＋口頭説明＋演習問題）の形式をととても良いと思います。

わかり易い説明と興味をそそる余談？などおもしろい授業だった。集中して聞くことができた。黒板を使ってくれるのもうれしい。また要点を問題にしたプリントも，ポイントがわかるので良いと思う。他の講義よりも進行速度が遅い気がするが，その分1つ1つの説明がわかり易かった。

5分間セミナーは面白かったです。演習問題のプリントも理解の促進に役立っていると思います。

日常生活に役立ちそうな話を沢山してくれるので，大変興味深くて，面白かった。

先生の授業は聞きとりやすいので，メモが取り易いのが嬉しいです。それから今回，演習問題を作って下さいましたが，ポイントの把握にはとても嬉しいです。5分間セミナー楽しいです。

素晴らしい講義でした。クイズ形式で前回の講義の復習ができるのはよい。五分間セミナ

—も興味深い話ばかりで素晴らしい。最も講義がうまい教授の一人だと思う。
臨床から雑学まで、講義にまぜて色々な話を聞かせてもらえたので、とても興味深く講義を受けることができ良かったと思います。

電子物性工学（工学研究科・工学部・武笠 幸一）

講義はとても素晴らしいものでした。知的に興奮させられました。浅かった量子力学の知識、理解度が深いものになり、工学に対する不安の一部も取り除くことができました。時に私達学生の態度が悪くご迷惑をおかけする場面もありましたが、先生の熱意とその規律正しい接し方に、こちらも姿勢の正される思いでした。このように授業の内容以外にも学ぶものがあり、これからの生活の指針とすることによって、我々学生はより高みへ成長できると良いと思いました。

授業は難しい内容もあったが、きちんと段階をふんで展開されていたので、理解しやすかったと思う。また、授業の始めには、前回の復習から入ってくれたためすんなりと、授業に入っていけるような気がした。また、毎回の小テストは最初は恐れていたが、授業をきちんと理解していれば、十分解ける内容だったのでその日の授業を理解する1つの良い目標になっていたと思う。量子力学で理解できていなかったことも、少しは理解できるようになり、中身の濃い授業だった。あと、授業中に私語を徹底的に注意してくれていたのがよかった。

この講義では毎週小テストを行うという形式であったが、これは従来のような期末テストのみを行う講義よりも、講義内容を深く理解でき、良いと思う。また、こういう形式を取ることは学生の参加を促すといった意味でも効果的である。講義内容に関して言うと、基本的な内容から詳しい説明があり今まであやふやだったものも理解することができ、とにかく内容の濃い講義であったと感じる。小テストも授業をしっかりと聞いていれば解けるもので難易度も適切であった。

量子力学はあまり理解できていなかったのですが、今回の電子物性工学の講義がわかりやすかったので、少しつかめてきたような気がします。自分の中では難しく感じ、根本的な理解をしたかといえ、そうではないかもしれませんが、基礎と思われる部分を繰り返し教えてもらったので、とても為になりました。小テストはしっかりと講義を聴いていれば、解けるレベルの問題なので、これからも続けると、理解の促進に役立つと思います。

授業に緊張感があり、毎回充実感が残りました。とにかくやる気や、興味をもつという面で刺激をたくさん受けた気がします。前回の授業の内容のテストではなく、その回のテストをやるという方法は今まで、やったことなかったですが、正直、最初はとてもつらく思いましたが、慣れてくると生徒の授業参加をこれほどうながすものはないかもと感じました。これからも、この方法が良いと思います。

なかなか難しい授業でした。毎回小テストなので気がぬけなくて厳しかったです。毎回小テストというのは学生に危機感をつのらせるので、授業に集中せざるをえなくなるのでよいと思います。内容自体は興味がわいてきたのでよかったと思います。量子力学でいまいち理解していなかった部分もこの授業を聞いてわかりました。

すばらしい授業でした。定期テストの方式だと、テスト直前につめこむ勉強になり、苦痛な上に、すぐ忘れてしまって次学期の授業に生かせませんが、授業ごとにテストをするこ

とによって、きちんと出席している人が正しく評価されると思います。最初の授業でスクリーンを使って授業をされましたが、最後の授業でもう一回見たかったです。授業で習ったことが、世の中で具体的にどういうことに使われているかを知りたいですね。そうすることによって、勉強をしている意義が理解でき、次学期の学習意欲も向上すると思います。大変わかりやすい授業で量子力学などの他分野を深く理解できた。小テストで評価するという方法も、日々の努力が強く反映されるのでとてもよいことだと思う。これから電子デバイス工学などのさまざまな授業をうけるにあたって大きな糧になったと感じる。また、同時期に行われている半導体物性工学を理解するうえで大変役に立つものであった。良かったです。タメになりました。内容にも、文句はないです。研究のことを話されるよりも、基礎における講義で授業が構成されていたし、授業は終わったけれど、まだ全てのことを話したわけではない。先の領域があるというのが感じられたので、内容的な不満はないというのが感想です。

作物生理学（農学研究科・農学部・幸田泰則）

板書がしっかりされていること、授業の最後にその中から小テストすることで、授業にしっかり集中することができた、私にとっては理想的な授業構成だった。先生が「教える、伝える」ことに熱心なのがよく分かった。そういうのは生徒側にしっかり伝わるものだと思う。感動しました。

毎回の授業において小テストを課することは、授業内容の復習をも兼ねているので、非常によいと思った。また、授業の進め方が、のっぺりとした、つまらないやり方でなく、板書を急いで写す時間と、余談的な内容を教官が話す時間が設けられた、緩急のある非常によい進め方だと思った。ただし学習量が多かったので復習を毎授業ごとにしても忘れてしまう内容が多く、期末試験を実施してもらってよかったと思っている。

授業速度は早かったが、体系的に非常に良くまとまっていて、ノートがとりやすかった。また小さな資料を配る、最初に全体の流れを説明してから進める、など学生にとってあとで見直して勉強しやすいようになっていると思い、感心した。まだ未開の分野ということで広く浅くというのがやや物足りなかった。身近な事にも答えてくれ、分からないことは分からないときちんと言ったのには好感が持てた。

講義は興味深かったし、話はおもしろいのでもう少しゆったり授業をうけられればよかった。「授業後の小テストで評価が決まる」ということだったので、毎回出席し、かなり頑張って授業に臨みました。このやり方は生徒を授業に集中させるためには良いと思います。図が小さい紙に書かれていてノートに貼ることができたので良かったです。章番号をつけながら説明してくださってわかりやすかったです。ノートをとる(図をかく)ことで、自分なりの理解を深めることができました。体系的な授業でとても良かった。

講義の内容はもちろん、先生の話し方がとても面白かった。毎回興味をもって聞くことができたのでよかったと思う。前期の講義の中で、いい講義トップ3に入る講義だと思う。教官の熱意も伝わり、よかったと思う。先生がとても魅力的でした。植物への愛が伝わってきて、先生の講座に入ってみたくになりました。

物理化学（農学研究科・農学部・中原 治）

授業で扱ったマテリアルは難しいものであったが、教官の教え方が大変上手で易しく理解することができた。真剣に聞けば身につく授業だったと思います。パワーポイントの準備おつかれ様でした。すばらしかったです。先生に負担のかかりすぎない形で、もっとやって欲しかった。授業自体はとても面白かったです。もっとたくさん授業をききたかったです。この授業で終わりにするのではなく、自発的に勉強しようと思った。

先生の授業はとてもわかりやすく、きっと準備はすごく大変だったのですが受ける側としてはとても楽しく学ぶことができました。1年生のときよくわからなかったエントロピーの考え方や緩衝平衡がおこる理由について、教えていただいたときは本当に「あ！わかる！」と思ってとてもうれしかったです。私は確率が好きなので後半の授業は特におもしろかったです。

とても好きな授業でした。物理化学、と聞いて身がまえていたのですが、嘘の様です。先生が一所懸命に「わかりやすい様に...わかりやすい様に...」と考えて下さっていたのが伝わってきました。他の機会に「ああ、これ、物理化学で教わったなあ...」という分野が出てきてうれしかったです。

先生の授業に対する熱意がすごい伝わってくる授業でした。僕たちのことを考慮してくれたためかもしれませんが例題のような問を解く機会がなかったことが理解を深めることができなかつた原因だと思いました。（もちろん、個人でやるべき問題であるのですが...）

先生が、いかに説明したらより分かりやすいかを本当に一生懸命考えながら、HPやプリントを作ったり授業を進めたりしてくれているというのが本当に伝わる授業で、おもしろくてたまりませんでした。一年の時化学で習って分からなかった部分なども、先生のまた違った議論の仕方でああ、そうか！と納得することも多くて、毎回本当に興味深くてももしろい授業でした。もっともっと受けたかったです！

この大学に入って始めて授業らしい授業を受けることができたと感じました。特に農学部の他の教授の話には見られなかったような考え方がいいと思いました。理系らしいというか物理的数学的というか...。そんな視点で考えることが非常に大切なんだと感じました。一番印象に残っているのは川の水の汚染の話を数式で表わしていたやつです。

すごくわかりやすかったです。エントロピーとか今まではただそういうものなのだと莫然としか理解していなかった概念が、実際に動く粒子のレベルで見っていくうちに生き生きとしたものになりました。物理は苦手だったけど、わりと好きになり、興味もわいてきました。あやふやでなく、100%が理解できる分野なのだとわかりました。どの分野においてもそのように考えていく考え方を身につけたいと思います。

熱意伝わりました。完全に理解したとは、とても言えないけど、物理化学に興味はもてました。自然現象は平等な確率にしたがっている、という概念を得ることができた。

先生の授業はとてもおもしろいしわかりやすく、聞いてて楽しかったです。今までとは違った視点で化学の現象をとらえることができたと思います。プリント、スライドを使った授業はすごくキレイに作られていてよかったです。いつも熱心に教えていただいて感謝しました。熱意がとてもよく伝わってきました。

言葉による説明だけでなくスライドによるアニメーションがあったので、とても分かりやすかったです。物理化学というと始めはとっつきにくいイメージだったけれど、この授業

は毎日とても楽しみでした。当たり前だと思って深く考えなかったことに疑問をもってみようという気にさせられました。

ベントス学（水産科学研究科・水産学部・五嶋 聖治）

非常に体系的な講義でわかりやすかったと思います。毎回丁寧に質問に答えてくれて理解が深まりました。

ノート（板書）がとてもわかりやすかった。実習でやったことが、この授業で詳しくわかった。

出席のカードに質問を書き、それに対して、次の授業で答えてくれるという形式はよかった。

分かりやすい！具体的な話のはさんであって面白かった。

全ての講義を通して、とてもおもしろく、興味深いものでした。実験の手法やそれがどのように生かされていくかという将来への期待がもてます。ベントスを題材としながら、幅広い範囲を学んだ気がします。

とても授業に流れができていて、聞きやすかったです。質問もしやすく、先生もその回答を毎回されていて、授業がより興味深いものになりました。

今まで受けた授業で一番わかりやすくて、おもしろかったです。先生の丁寧な説明は聞きやすくて、よかったと思いました。

今まで受けてきた授業の中で一番興味が持てる、面白い講義でした。知的にも刺激されたい楽しく勉強できました。

どの話しも興味深く、また、板書やOHPなどもわかりやすくて、楽しい授業でした。

先生の授業は質問にいてないに答えてくれて、他の人の意見もきけるのでよかった。

比較生化学（水産科学研究科・水産学部・埜澤 尚範）

最初はどんな授業なのか不安な面もありましたが、授業は丁寧にわかりやすく、かつおもしろかったのと、毎回質問に答えてくれたことで理解が深まりました。これからもこのような授業を続けてほしいと思います。

基本的なことから丁寧にやってくれたので、とてもわかりやすくてよかった。また、毎回質問にも答えてくれたことがほかの授業にはないことだったので、すごくよかったと思った。毎回、授業の質問をきいて、次の回で、それに、全てこたえてくれたので、よくわかってよかった。

講義内容への質問をしやすい面で良かった。

毎回のQ & Aプリントと解説があったのがとてもよかったです。

質問をとって紙に書いて提出させ、次の授業に答えを説明するやり方はとてもよかったです。他の授業でもやってもらえたらうれしいです。

毎回質問に対していてないに答えてくださったので、理解が深まり、より生化学について知りたくなりました。

様々な分野をいっきに学んだので大変だったが、大切なことが多く、復習をがんばろうと思えた。

Q & Aプリントはありがたかった。板書もわかりやすかった。僕的には、パソコン等で授

業を進めてもらうより、板書やプリントの方が勉強しやすかった。
毎回、生徒の出した質問に、次の講義で答えてくれるのは、すごく良かったと思います。
他の人が、こんなにいろいろ考えているんだ、ということも知ることができました。
授業のプログラムがしっかり決められていたため、全体の流れが読めた。

専門科目・演習

演習（法学研究科・法学部・池田 清治）

とてもわかりやすくおもしろい授業だった。講義よりもたくさんの事例問題が解けたし、自分で考える機会が多かった。

扱う問題自体はすごく難しいものもあったが、それをすごく分かりやすく説明してくれたので、大変実のある授業だった。

難しい所もあっさりポイントを教えてくれたので良かったと思います。毎回レポートを提出するシステムも、絶対勉強しなきゃなくなるので、良かったと思います。

すばらしきゼミ。参考になることこの上ない。このゼミを受けるのが待ちどおしいくらいであった。問題文からも教官の熱意が伝わってくる。逆にこれほど親切でわかりやすくよいのであろうかと思うくらい。

本当にわかり易かった。民法の授業で理解が浅かったところも、解答を書かねばならないので、自分で調べるようになり、自然と理解が深まった。解説、板書もていねいで、この授業で得られたものはかなり大きい。

ゼミはとてもおもしろかったです。やはりゼミの前に自分で1度問題を解き、質問を出すことでゼミで分からなかったことを理解しようとしたので良かったです。ただ1度に問題が少し多すぎる気がしました。1,2問で論点が複数ある問題とかにしてほしいと思います。説明をしてから問題の解答をするというのも問題を理解しやすくなっていたので良かったです。やはり先生の説明は分かりやすく、おもしろいので飽きることなく聞くことができました。

抽象的な知識として自分の頭にあったものが、この講義の問題により、どんな場面でどのように使うのかを学ぶことができました。まさに、法学部に入ってやりたかったことがやっと叶ったという実感が得られました。いろいろな話題に基づいて、民法の問題を作ることができる先生は、様々な情報に精通しているなあと、何度も感心いたしました。すごいです。

授業を前半、後半に分ける方式で、より問題に対する理解が深まったように感じる。毎週問題を提出するのは大変であったが、ためになった。解説がわかりやすく、楽しく授業に臨めた。

環境と設備の演習（工学研究科・工学部・羽山 広文）

学生が積極的に活動するこの授業は、とても面白かったです。自分が発表のために資料を作成するのは、大変だったけど、すごく勉強になったし、他の班の発表も工夫がこらしてあり見ごたえがありました。また、同じ学生という立場の仲間の発表は、先生の講義をきくのと違う視点で見ることができるので楽しかったです。みんなのがんばりが見えてよ

かったです。

授業を企画し実施する点で、今まで受講してきたものと、大きく異なり新鮮だった。私たち学生が、この機会を最大限に利用し、中身の濃いプレゼンテーションができればよかったが、他の授業との兼ね合いもあり、その場しのぎの発表になってしまった。さらに受講者を限定し、高い意識のある者を募って開講した方がよいように思う。

今までになかった授業のスタイルで刺激的だった。こういう授業がもっとあればと思いました。

自分で授業を作るのはおもしろかった。

学生主体の授業だったので、各班の工夫が様々でおもしろかったです。

自分達の班の発表前夜は、非常につらかった。しかし、それ以上に、班の発表が終わった後でも、他の班から何かしら質問されて、それに答えることができたことの喜びを感じることができた。こういった経験は、他の授業で感じることがなかった。学生の自主的活動をうながす講義ならではのものであった。

自分の中で、3年後期、一番がんばって、思い出深い物が、この環境の発表になりました。こういう機会を与えてくれて、ありがとうございました。

アンケート結果の公表について

学生による「授業アンケート」の実施当初から、社会に対する説明責任を果たすために、また授業改善の1方策として、アンケート結果を公表することが検討されてきた。アンケートの公表には、むろんプラスの面とマイナスの面が考えられる。それについて、平成12年度北海道大学年次報告書では、横並びの公表で同時に多くの授業の内容を知ることが出来、他と比較することで授業改善の方向付けが明確になるというメリットとともに、アンケートの数値（データ）が一人歩きしてしまうデメリット（数値は、そのみでは授業の質や教官の授業能力を示すものではない）が指摘されている。したがって、公表は、大学として行うべきことではあるが、その実施方法については慎重に検討を重ね、アンケート数値についての誤解を与えないような手段を講じなければならない、というのが点検評価委員会の基本的な認識であった。

この認識をふまえて、毎年、公表についての議論が進められてきた。平成12年度には、公表の可能性検討の一環として、アンケート結果が各教員の所属部局長に送付された。公表するか否かを含めてその扱いは部局長に任せられたが、アンケート結果をさらに解析し、教育改善の指針を得た部局もあった。

平成13年度には、前期授業のアンケート回答者に対して公表について意見を求めたが、「担当者名、科目名をいれて公表してもよい」という回答が54.6%、「科目名のみをいれて公表してもよい」が27%、「公表に反対である」が18.4%であった。公表自体に賛成の回答が81.6%という高率にのぼっている。この結果や、回答の付帯意見も考慮した上で、北海道大学年次報告書では、公表の1方法として、「評点が上位のものを授業内容と評価点を吟味して公表する」ことや、「公表に際して、教員は授業の内容、目標、工夫、所見などの説明をそえ、評点を解釈する際の参考とする」ことが提案されている。

こうした検討は、平成14年度においてもさらに継続され、平成15年度に引き継がれた。平成16年度からの国立大学法人化を間近に控え、評価システムの抜本的な変更に備えるために、今年度は、これまでのアンケート結果公表についての議論をまとめあげ、可能であればその結果を何らかの形で実行に移すことを検討事項とした。検討は、主に点検評価委員会教員業績専門委員会の中に設置された授業評価WGにおいてなされた。

平成15年度第1回の「授業評価WG」では、アンケート結果の公表の仕方や教員のランク付けについて検討するために、授業アンケート結果の活用状況等を各部局長に照会することが合意された。照会文書案は第2回「授業評価WG」に提示され、種々の意見交換を経て、教員業績評価専門委員会委員長の確認の後、各部局に送付された。

各部局からの回答は、第2回教員業績評価専門委員会での内容が紹介され、意見交換がなされた後、公表の是非も含めた更なる検討が「授業評価WG」に委ねられた。

各部局からの回答内容は次の通りである。

回答を寄せた15部局のうち、何らかの形でアンケート結果を「活用している」、または「活用を予定・検討している」部局は11部局あった。またアンケート結果の公表については、8部局が公表について肯定的な意見を表明していた。ただし、その場合でも、ただちに教員全員に対する評価結果を公表するのではなく、「評価の高い教員」について結果を公表すべきであるという付帯条件が付くケースが多く、また教員の授業方針・授業方法等も同時に公表すべきであるという条件を付けた回答も複数件あった（公表に慎重な態度をとる1部局も「公表に際して、教員本人の意見を付する」という条件下での公表可能性に触れている）。

第3回「授業評価WG」においてこの回答を詳細かつ慎重に検討した結果、WGは、各部局からの意見を見ると、上位の教員名を公表することは問題がないようである。ただし、公表の際には、その教官の意見等も載せるべきである。公表に際しては、授業形態別、クラスサイズ別にわけのべきである。公表方法として、学生も含めてより広い範囲に公表するため、年次報告書ではなく、別に冊子を刊行するなどの方法を考えるべきである、という判断を下した。

第4回「授業評価WG」では、さらに公表方法についての細部を詰め、公表に際しては、まず文系・理系部局の2グループに分け、それぞれのグループを、さらにクラスサイズ（10～24名以下、25～49名、50名以上）に従って3分割すること、そして計6グループの上位者を対象として、氏名に加えて、授業内容・授業実施上の工夫等についての報告も紹介することとした。

学生による「授業アンケート」の公表についての、これまでの検討経過と検討結果は以上の通りである。「授業評価WG」は、慎重・詳細に検討を重ねた結果、上に記したような公表案を得た。この案に従って、近日中に学生による「授業アンケート」結果の上位教官が公表される予定である。

授業実態アンケート調査結果の概要

はじめに

北海道大学では1996年から「新任教官研修会」、1998年からは「全学FD」を開催し、教育の

仕組みやシラバスの書き方の伝達や多彩な授業方法の伝達に勤めてきた。また、1999年からは教育業績を含む教員の総合業績評価が実施され、2000年からは全シラバスがホームページ上に記載されるようになった。これらの努力の成果を確認するために、2002年に授業実態のアンケートを実施した。

全回答数は396で、表の項目毎の回答数は以下ようになった。

全体(396)、全学教育科目(102)、専門教育：文(21)、法(25)、理(32)、工(101)、農(31)、水産(28)、専門教育科目(294)、言語文化部(24)、講義(353)、演習(43)、必修(157)、選択(239)、クラスサイズ(順に68,155,131,27,15)。

なお、学部別専門教育のうち、教育(9)、経済(8)、医(6)、歯(8)、薬(7)、獣医(4)は、()内に表示した回答総数が10よりも小さいので、評価の対象とはしなかった。

設問別の回答の傾向

『1.発言を促すための工夫』では、全体で65%の教員が何らかの工夫をしている。学部毎では水産(75%)と言語文化部(87%)が平均よりもたくさんの教員が工夫をしている。また、講義よりも演習の、選択よりも必修の教員が発言を促す努力をしている。クラスサイズは小さくなるほど多くの教員が工夫をしている。『2.その形態』をたずねた質問では、6割の教官が学生への質問をあげ、以下、プレゼンテーション、討論、ディベートと続くが、後3例はいずれも1割前後である。学部毎に見ると、学生への質問は7割近くになるところが多い。法学部でプレゼンテーションが3割をしめるのが特徴的である。また、クラスサイズが100を超えると、プレゼンテーションやディベートはほとんど試みられていない。

『3.宿題』はおよそ6割の教員が与えており、学部別では農学部が比較的少なく工学部、言語文化部では7割を超えている。演習では9割の教官が宿題を課している。また、クラスサイズが25以下になると多い。『4.宿題の内容』では、全体の6割がレポートとしているが、その3分の1が返却していないのは問題である。学生へのフィードバックがきちんに行われているとは言い難い。学部別で返却していない比率が高いのは農学部と水産学部である。言語文化部はすべて返却している。2番目に多い課題は、23%の演習問題で、読書指定は6%と少ない。『5.宿題の回数』は数回44%、1・2回31%、毎回26%の順であった。学部別で法学部、文学部、言語文化部ではほぼ4割の教官が毎回宿題を出している。また演習でも4割が毎回宿題を課している。

『6.試験』は77%の教員が実施している。試験の比率が際だって低いのは、文学部33%であり、演習科目でも30%と少ない。宿題を多く課している学部や科目に試験が少ないわけではないところが興味深い。『7.試験の回数』は、1回が6割で2回以上が4割である。学部別では、理学部、工学部、農学部、水産学部がともに1回だけが75%を超えており、理系の専門教育では試験は1回だけという場合が多いようである。

『8.成績評価の方法』は、期末試験(44%)、レポート(23%)の順である。法学部、農学部、水産学部では半分以上が期末試験で評価している。期末試験で評価する方法は、演習(14%)よりも講義(48%)で、選択(40%)よりも必修(56%)で多く採用されている。

まとめ

全体の65%の教員が発言を促すための工夫をしており、そのうち2割の教員が学生によるプレゼンテーションやディベートを採用している。全学FDや、医学部、歯学部、水産学部のFD

の効果が現れ始めているものと推測される。

宿題や試験はクラスサイズによらず多くのクラスで行われており、44%の授業では期末試験により成績が評価されている。23%がレポートで評価され、残りの3割は多くの試験やレポートの組み合わせで評価されている。評価の方法も多様になってきていることが読みとれる。宿題が試験の代わりになっているわけではなく、宿題も出すが試験も出するか、あるいはそのいずれもあまりしないという2つの類型にわけられる。

レポートを返却しない授業がレポートを課す授業の3分の1にのぼるのは問題である。学生の立場に立てば、どこが良いのか悪いかの評価を知らなければ、学習できるわけがない。早急に改めるべきであろう。

授業実態（教官）アンケート集計（平成14年度後期実施）

* 数値は全て%、-はサンプル数不足のため表示せず

全回答数： 396件

1 発言を促すための工夫

		全体		各学部ごとの専門教育													専 門 教 育 科 目	言 語 文 化 部	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目	ク ラ ス サ イ ズ (人)				
		文	教 育	法	経 済	理	医	歯	薬	工	農	獣 医	水 産	25 以下	26 ~50	51 ~100							101 ~200	201 以上			
		全 学 教 育 科 目	全 学 教 育 科 目	文	教 育	法	経 済	理	医	歯	薬	工	農	獣 医	水 産	専 門 教 育 科 目							言 語 文 化 部	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目
授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか。	はい	64.96	67.00	66.67	-	45.83	-	56.25	-	-	-	63.92	70.00	-	75.00	64.24	86.96	61.27	95.24	71.24	60.85	80.88	68.42	57.03	50.00	-	
	いいえ	35.05	33.00	33.33	-	54.17	-	43.75	-	-	-	36.08	30.00	-	25.00	35.76	13.04	38.73	4.76	28.76	39.15	19.12	31.58	42.97	50.00	-	
	無回答	2.02	1.96	0.00	-	4.00	-	0.00	-	-	-	3.96	3.23	-	0.00	2.04	4.17	1.98	2.33	2.55	1.67	0.00	1.94	2.29	3.70	-	

2 工夫内容（1で『はい』と答えた者： 252件）

		全体		各学部ごとの専門教育													専 門 教 育 科 目	言 語 文 化 部	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目	ク ラ ス サ イ ズ (人)				
		文	教 育	法	経 済	理	医	歯	薬	工	農	獣 医	水 産	25 以下	26 ~50	51 ~100							101 ~200	201 以上			
		全 学 教 育 科 目	全 学 教 育 科 目	文	教 育	法	経 済	理	医	歯	薬	工	農	獣 医	水 産	専 門 教 育 科 目							言 語 文 化 部	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目
どのような形で発言を促していますか。(主として採用している方法を2つ以内)	(1)学生への頻繁な質問	58.23	50.55	55.56	-	35.29	-	69.57	-	-	-	66.67	66.67	-	51.85	61.33	62.07	62.65	38.98	59.56	57.22	48.00	64.34	58.06	61.54	-	
	(2)講義中・後の討論	9.18	5.49	5.56	-	5.88	-	8.70	-	-	-	11.11	0.00	-	25.93	10.67	6.90	9.73	6.78	10.29	8.33	4.00	7.75	16.13	7.69	-	
	(3)学生によるプレゼンテーション	10.76	13.19	22.22	-	29.41	-	8.70	-	-	-	4.17	12.50	-	7.41	9.78	3.45	6.23	30.51	8.09	12.78	25.33	6.98	6.45	0.00	-	
	(4)小グループ討論、ディベート	7.28	10.99	5.56	-	17.65	-	0.00	-	-	-	2.78	8.33	-	3.70	5.78	17.24	5.06	16.95	7.35	7.22	14.67	6.98	3.23	0.00	-	
	(5)その他	14.56	19.78	11.11	-	11.76	-	13.04	-	-	-	15.28	12.50	-	11.11	12.44	10.34	16.34	6.78	14.71	14.44	8.00	13.95	16.13	30.77	-	
	(6)無回答	1.26	1.96	0.00	-	0.00	-	0.00	-	-	-	0.00	0.00	-	3.57	1.02	0.00	0.85	4.65	1.27	1.26	2.94	0.00	0.76	0.00	-	

3 宿題

		全体		各学部ごとの専門教育													専 門 教 育 科 目	言 語 文 化 部	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目	ク ラ ス サ イ ズ (人)				
		文	教 育	法	経 済	理	医	歯	薬	工	農	獣 医	水 産	25 以下	26 ~50	51 ~100							101 ~200	201 以上			
		全 学 教 育 科 目	全 学 教 育 科 目	文	教 育	法	経 済	理	医	歯	薬	工	農	獣 医	水 産	専 門 教 育 科 目							言 語 文 化 部	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目
宿題を与えていますか。	はい	61.17	60.78	66.67	-	60.00	-	68.75	-	-	-	70.00	48.39	-	64.29	61.30	75.00	57.83	88.37	60.51	61.60	72.06	61.44	56.49	59.26	-	
	いいえ	38.83	39.22	33.33	-	40.00	-	31.25	-	-	-	30.00	51.61	-	35.71	38.70	25.00	42.17	11.63	39.49	38.40	27.94	38.56	43.51	40.74	-	
	無回答	0.51	0.00	0.00	-	0.00	-	0.00	-	-	-	0.99	0.00	-	0.00	0.68	0.00	0.57	0.00	0.00	0.84	0.00	1.29	0.00	0.00	-	

4 宿題内容（3で『はい』と答えた者： 241件）

		全体	全学 教育 科目	各学部ごとの専門教育													専門 教育 科目	言語 文化 科目	講義 科目	演習 科目	必修 科目	選択 科目	ク ラ ス サ イ ズ(人)				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下							26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	
				どのような宿題を課していますか(主なものを1つ)	(1)レポート(返却あり)	39.42	33.87	42.86	-	26.67	-	50.00	-	-	-	-							51.43	33.33	-	38.89	41.34
	(2)レポート(返却なし)	23.65	17.74	14.29	-	13.33	-	31.82	-	-	-	-	18.57	40.00	-	44.44	25.70	0.00	25.12	15.79	26.32	21.92	22.45	15.96	32.43	43.75	-
	(3)読書指定	6.22	11.29	14.29	-	20.00	-	0.00	-	-	-	-	1.43	6.67	-	0.00	4.47	11.11	5.42	10.53	3.16	8.22	8.16	6.38	2.70	12.50	-
	(4)演習問題	23.24	27.42	21.43	-	6.67	-	18.18	-	-	-	-	25.71	13.33	-	11.11	21.79	50.00	24.14	18.42	28.42	19.86	22.45	25.53	21.62	18.75	-
	(5)その他	7.47	9.68	7.14	-	33.33	-	0.00	-	-	-	-	2.86	6.67	-	5.56	6.70	16.67	6.40	13.16	5.26	8.90	10.20	8.51	1.35	6.25	-
	(6)無回答	0.00	0.00	0.00	-	0.00	-	0.00	-	-	-	-	0.00	0.00	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-

5 宿題回数

		全体	全学 教育 科目	各学部ごとの専門教育													専門 教育 科目	言語 文化 科目	講義 科目	演習 科目	必修 科目	選択 科目	ク ラ ス サ イ ズ(人)				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下							26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	
				宿題を何回課していますか。	(1)1, 2回	30.54	21.31	28.57	-	13.33	-	18.18	-	-	-	-							30.43	66.67	-	55.56	33.71
	(2)数回	43.51	49.18	28.57	-	40.00	-	72.73	-	-	-	-	44.93	20.00	-	16.67	41.57	38.89	43.28	44.74	41.49	44.83	44.90	41.49	47.22	31.25	-
	(3)毎回	25.94	29.51	42.86	-	46.67	-	9.09	-	-	-	-	24.64	13.33	-	27.78	24.72	44.44	22.89	42.11	30.85	22.76	28.57	26.60	22.22	25.00	-
	(4)無回答	0.51	0.98	0.00	-	0.00	-	0.00	-	-	-	-	0.99	0.00	-	0.00	0.34	0.00	0.57	0.00	0.64	0.42	0.00	0.00	1.53	0.00	-

6 試験

		全体	全学 教育 科目	各学部ごとの専門教育													専門 教育 科目	言語 文化 科目	講義 科目	演習 科目	必修 科目	選択 科目	ク ラ ス サ イ ズ(人)				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下							26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	
				試験は行っていますか。	はい	76.96	75.49	33.33	-	64.00	-	78.13	-	-	-	-							89.11	80.65	-	100.00	77.47
	いいえ	23.04	24.51	66.67	-	36.00	-	21.88	-	-	-	-	10.89	19.35	-	0.00	22.53	4.17	17.33	69.77	7.64	33.19	63.24	16.88	9.92	22.22	-
	無回答	0.25	0.00	0.00	-	0.00	-	0.00	-	-	-	-	0.00	0.00	-	0.00	0.34	0.00	0.28	0.00	0.00	0.42	0.00	0.65	0.00	0.00	-

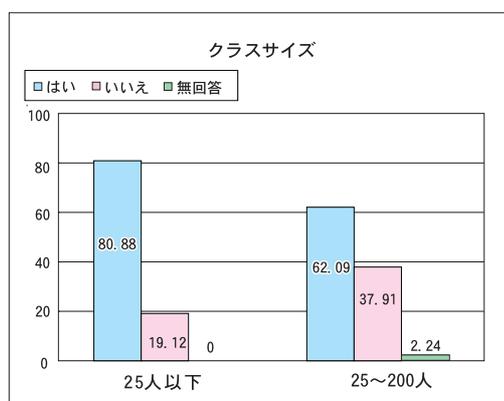
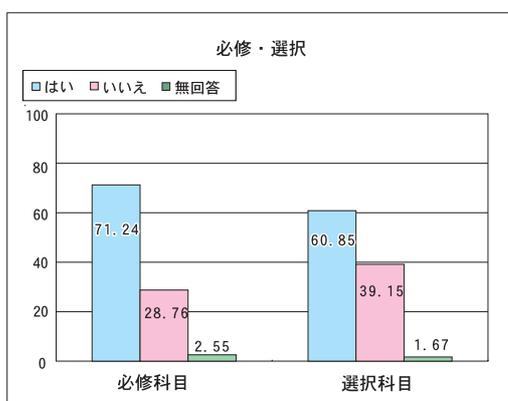
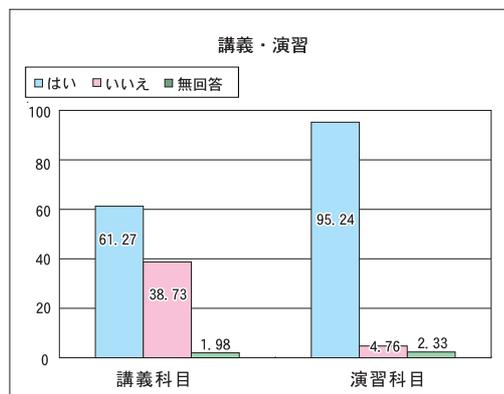
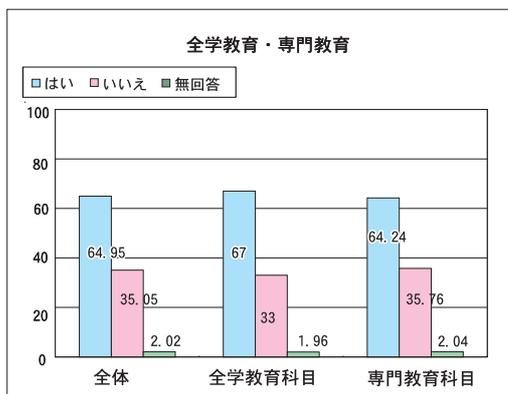
7 試験回数（6で『はい』と答えた者： 304件）

		全体	全学 教育 科目	各学部ごとの専門教育													専門 教育 科目	言語 文化 科目	講義 科目	演習 科目	必修 科目	選択 科目	ク ラ ス サ イ ズ(人)				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下							26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	
				学期のうちに何回行っていますか。	(1)1回	63.42	32.00	42.86	-	68.75	-	80.00	-	-	-	-							76.14	80.00	-	88.89	73.99
	(2)2回以上	36.58	68.00	57.14	-	31.25	-	20.00	-	-	-	-	23.86	20.00	-	11.11	26.01	95.45	36.14	46.15	43.75	29.87	29.17	39.52	33.05	30.00	-
	(3)無回答	1.52	1.96	0.00	-	0.00	-	0.00	-	-	-	-	1.98	0.00	-	3.57	1.36	4.17	1.70	0.00	0.64	2.09	1.47	2.58	0.00	3.70	-

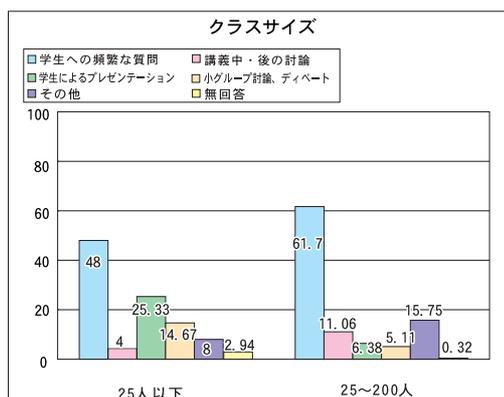
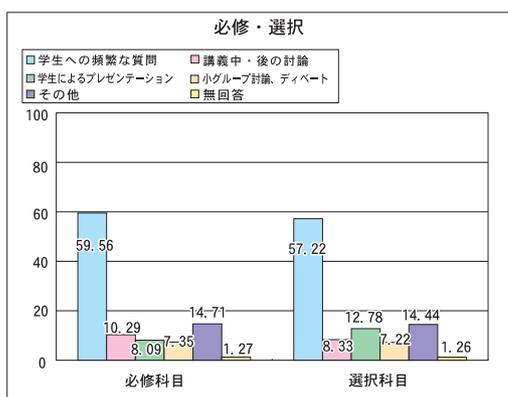
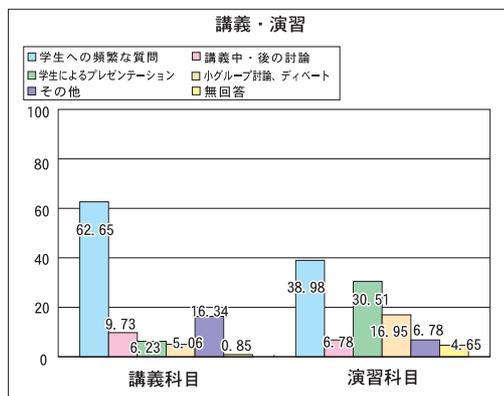
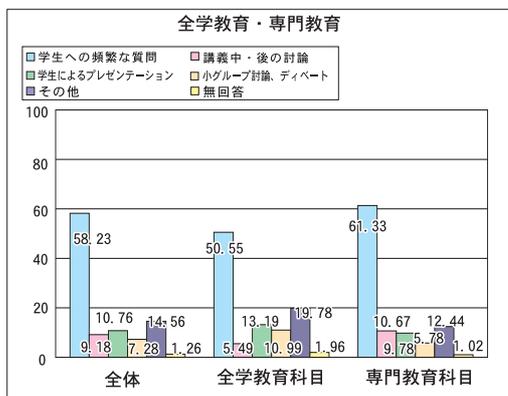
8 成績評価の方法

		全体	全学 教育 科目	各学部ごとの専門教育													専門 教育 科目	言語 文化 科目	講義 科目	演習 科目	必修 科目	選択 科目	ク ラ ス サ イ ズ(人)				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下							26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	
				どのような方法で成績を評価していますか(比重の重いものを2つ以内)	(1)期末試験	44.38	37.72	17.24	-	54.84	-	49.06	-	-	-	-							47.54	52.00	-	58.70	46.68
	(2)レポート	23.27	17.37	31.03	-	25.81	-	28.30	-	-	-	-	24.59	24.00	-	21.74	25.31	2.17	22.24	31.88	16.79	27.82	35.92	17.60	24.66	25.00	-
	(3)頻回の小試験	12.02	20.96	6.90	-	0.00	-	7.55	-	-	-	-	10.93	6.00	-	4.35	8.92	34.78	12.41	8.70	16.42	8.92	5.83	14.98	11.42	12.50	-
	(4)頻回のレポート	5.70	7.19	13.79	-	3.23	-	5.66	-	-	-	-	5.46	6.00	-	0.00	5.19	0.00	5.17	10.14	3.36	7.35	11.65	5.99	2.74	7.50	-
	(5)その他	14.64	16.77	31.03	-	16.13	-	9.43	-	-	-	-	11.48	12.00	-	15.22	13.90	23.91	12.24	34.78	12.69	16.01	23.30	16.10	9.59	7.50	-
	(6)無回答	0.00	0.00	0.00	-	0.00	-	0.00	-	-	-	-	0.00	0.00	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-

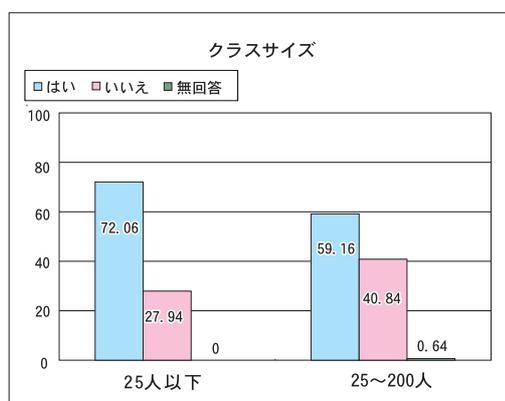
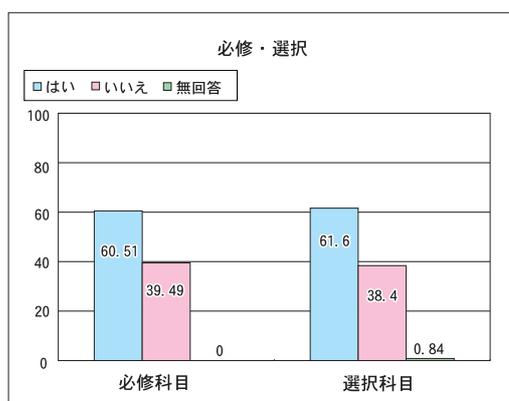
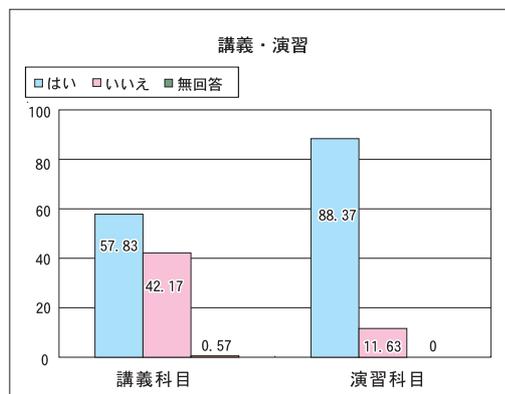
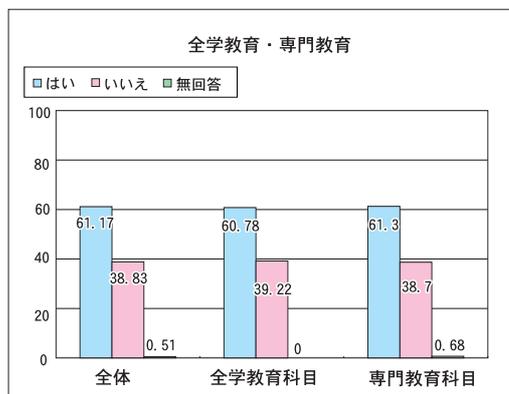
1. 授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか。



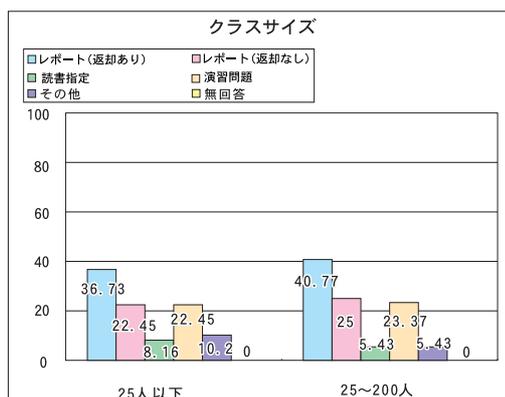
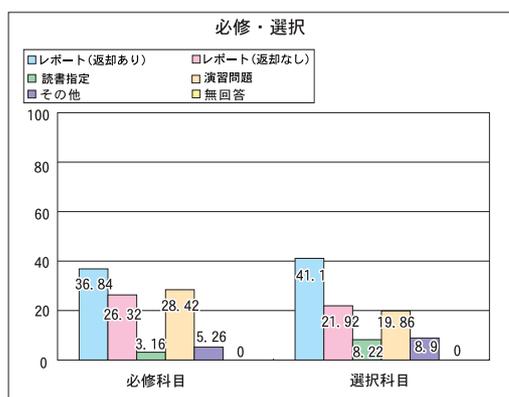
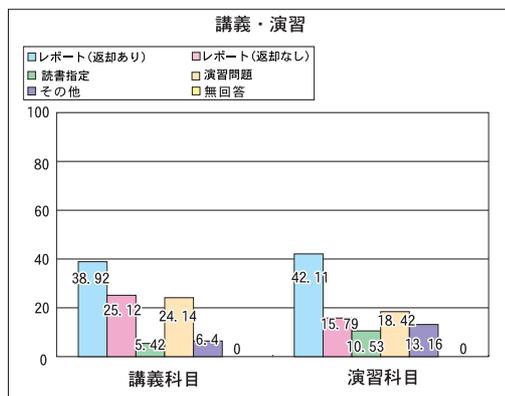
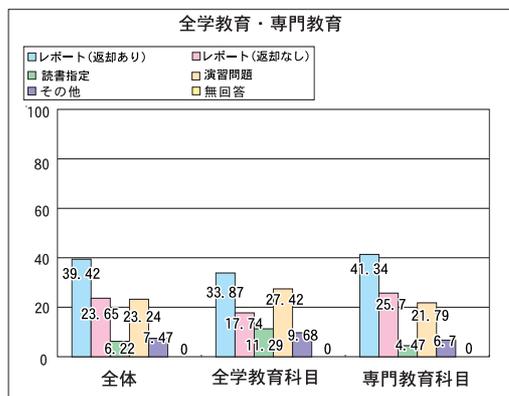
2. どのような形で発言を促していますか。



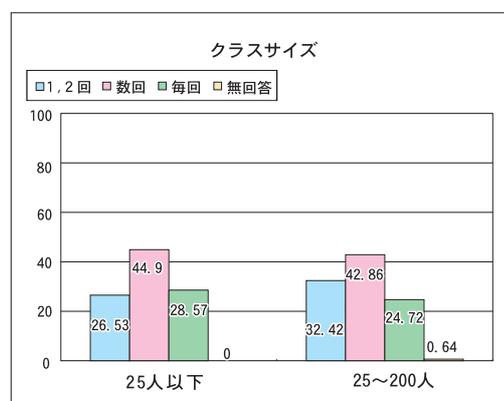
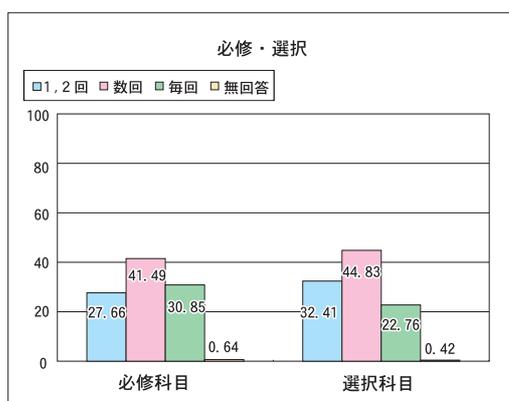
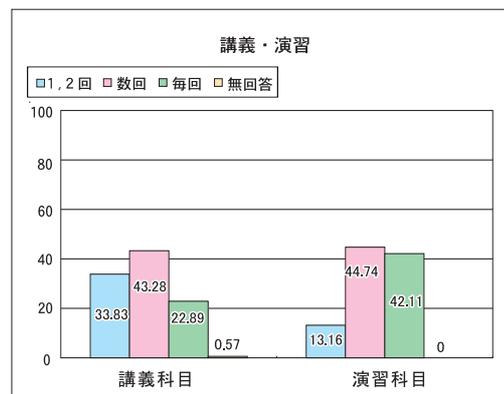
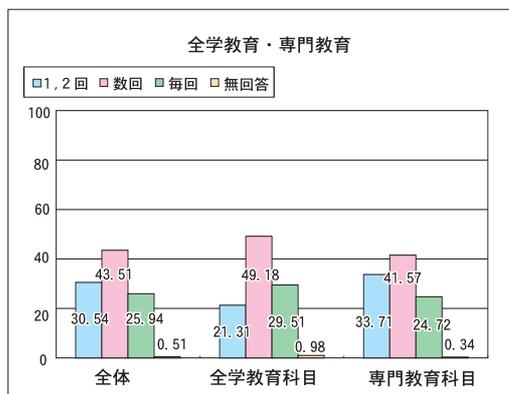
3. 宿題を与えていますか。



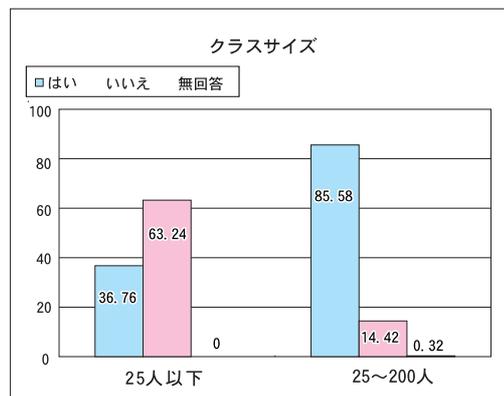
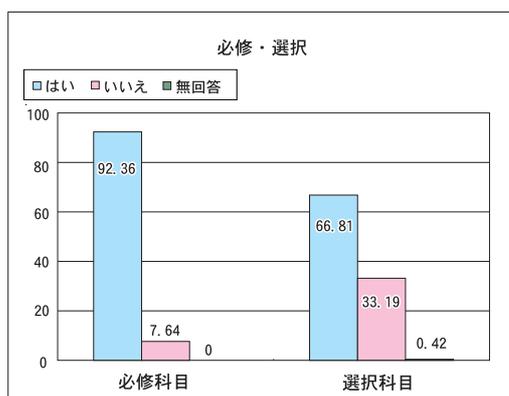
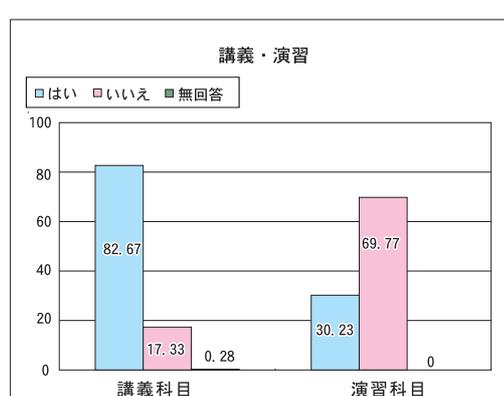
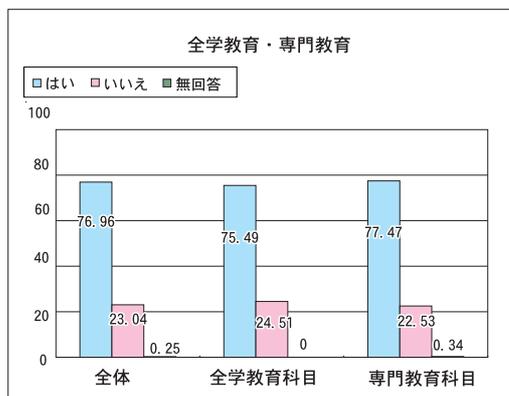
4. どのような宿題を課していますか。



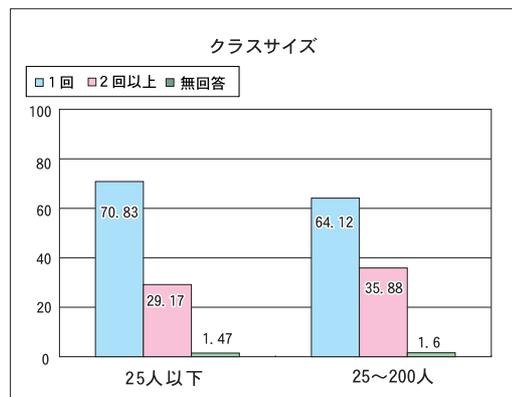
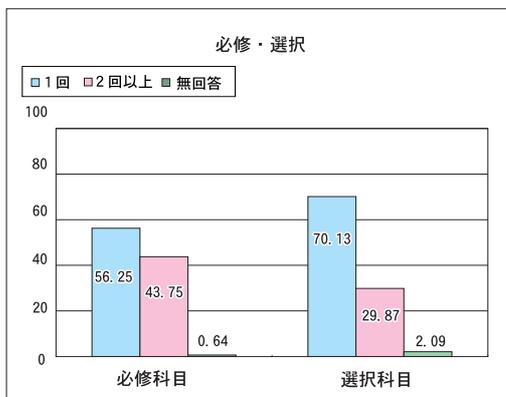
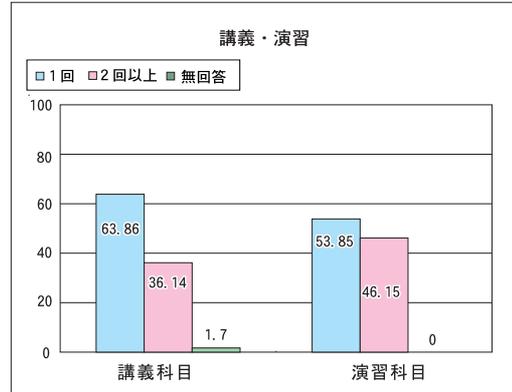
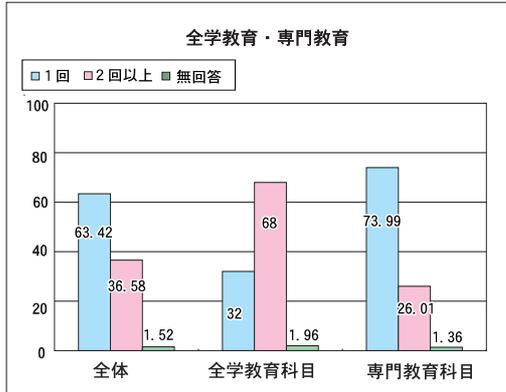
5. 宿題を何回課していますか。



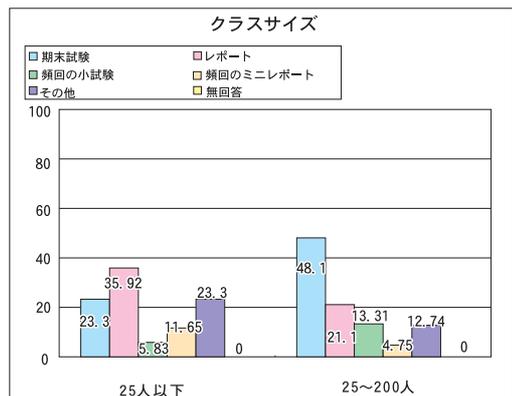
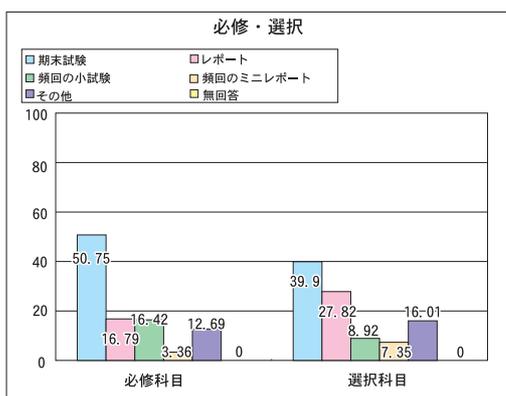
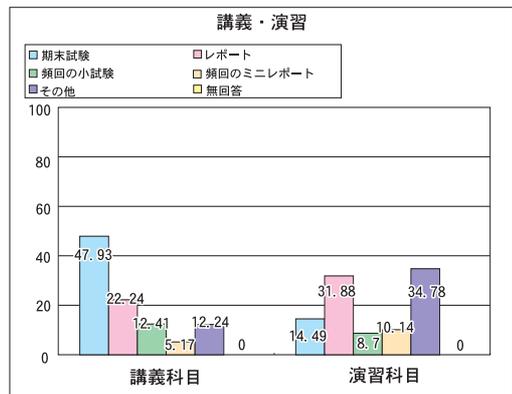
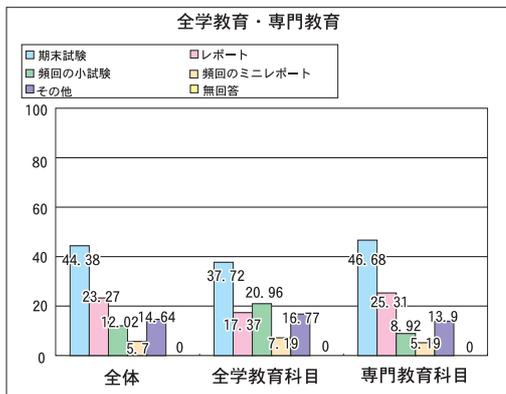
6. 試験は行っていますか。



7. 学期のうちは何回行っていますか。



8. どのような方法で成績を評価していますか。



授業実態（教官）アンケート

このアンケート調査は、本学においてどのような授業法が採用されているかを明らかにするためのものです。調査結果は、個人名を消去したうえで統計的に処理して全体的な解析を行い、学生による授業評価の統計値とともに公表します。授業の改善に役立てるための指針を得るために行われるもので、教官個人の授業内容を評価するためのものではありません。ご協力をお願いします。

設問 1 授業の中で学生の発言を促すための工夫をしていますか。

(1)はい (2)いいえ（該当する番号に 印を付けてください。）

設問 2 設問 1 で「はい」と答えた方に

.....どのような形で発言を促していますか。

主として採用している方法を以下から 2 つ以内選んで該当する番号に 印を付けてください。

(1)講義中に頻繁に学生に質問する (2)講義中あるいは講義後の討論に力をいれる
(3)学生によるプレゼンテーション (4)小グループ討論, ディベート (5)その他

設問 3 宿題を与えていますか。

(1)はい (2)いいえ（該当する番号に 印を付けてください。）

設問 4 設問 3 で「はい」と答えた方に

.....どのような宿題を課していますか。主なものを以下から 1 つ選んで該当する番号に 印を付けてください。

(1)レポート（学生に返却している場合）(2)レポート（学生に返却していない場合）
(3)読書指定 (4)演習問題 (5)その他

設問 5 設問 3 で「はい」と答えた方に

.....宿題を何回課していますか。(該当する番号に 印を付けてください。)

(1)1, 2 回 (2)数回 (3)毎回

設問 6 試験は行っていますか。

(1)はい (2)いいえ（該当する番号に 印を付けてください。）

設問 7 設問 6 で「はい」と答えた方に

.....学期のうちに何回行っていますか。(該当する番号に 印を付けてください。)

(1)1 回 (2)2 回以上

設問 8 どのような方法で成績を評価していますか。

比重の重いものを以下から 2 つ以内選んで該当する番号に 印を付けてください。

(1)期末試験 (2)レポート (3)頻回の小試験 (4)頻回のミニレポート (5)その他

ご協力ありがとうございました。

まとめ

今回の授業アンケート（平成14年度後期および平成15年度前期）で行ったのは、以下の事柄である。

- 1) アンケートの各設問の回答結果について逐一解析を行い、前年度の結果と比較することにより本年度の特徴を明らかにした。
- 2) 従来通りに、評点を度数分布で表現し、その分布内での位置づけがわかるようにした。
- 3) 「自由意見の解析」については、学生から見た「優れた授業」を分析することとし、授業の内容や工夫等について積極的に肯定している意見が多い授業を選び出し、その意見を紹介した。

これらは、基本的にこれまでのアンケートの利点を生かした上で、さらなる改良を目指すという意図のもとに、昨年度の年次報告書における今年度への提言もふまえて行われたものである。

昨年度の年次報告書においては、今年度の集計・解析の枠組みとして、アンケートの内容は基本的には平成14年度と同様のものとし、1年分（平成14年度後期分と平成15年度前期分）を集計・比較することが提言されているが、今年度のアンケートはこの提言を忠実に実行した。

アンケート結果に関して言えば、設問の総合点ならびにほとんどの設問に対する評点が、授業アンケートを開始してからはじめて低下している。低下の主な部分は全学教育の部分であり、専門教育の低下は小さい。その原因としては、アンケート結果に対する教員の反応の慢性化や、学生のアンケート慣れによる対応の慢性化等が想像できる。しかし、一方ではこの低下現象は、評価がピークを迎えた後に来る一定水準保持の期間の開始と見ることもできるかもしれない。いずれにしても、正確な解釈は、来年度以降の評点の推移を見てから下されることになる。

自由意見の解析は、学生が何らかの面で特に優れていると判断している意見が多い授業を抽出し、その授業についての意見を紹介することにより、授業を評価する学生の視点や、高い評価を受ける授業の特性を明らかにするという形式で行った。抽出した意見が伝えているのは、学生は教員の総合的授業実行方法（授業への熱意、教育媒体・負担の適正さ）と授業への満足感・授業における達成感を特に重視しているということである。抽出した意見の多くがこれらの点を指摘し、評価していた。「アンケート結果と解析」の項でも指摘しているが、総合的授業実行方法と授業への満足感・授業における達成感との間には密接な相関関係がある。授業法がよいと答えた学生は、知的刺激も多く受けている傾向がはっきりしており、また達成感も高いという結果が示されているのである。ということは（これも「自由意見の解析」の項で述べたように）、優れた授業であるか否かの決め手は、まさに授業の効果的な遂行力の有無にかかっていると看做しても過言ではなさそうである。一見きわめて当たり前のような事実が、アンケートの解析を通じて改めて確認されたわけである。教員は、効果的な授業法に最大の関心を払うべきなのであろう。

平成14年度後期には、教員を対象に「授業実態（教官）アンケート」も実施した。これは教員の授業改善の努力を確認するために行ったもので、回答結果は「学生の授業参加」や「効果的な授業法」等について、全体的に教員の意識が高まっていることを伝えている。北海道大学

がこれまでに行ってきた様々な教員の意識改善を目指す取組が功を奏してきたものと考えられよう。

以上が、平成14年度後期および平成15年度前期の「学生による授業アンケート」についてのまとめである。

次に、今年度後期から実施される新方式のアンケートについて報告する。従来より、アンケートの方式そのものの内包する問題点を指摘する学生および教員の自由意見が多かった。その中の1つが、現行授業評価アンケートが全授業形態、全授業科目共通の設問ならびに共通の回答選択肢であることの是非を問うものであった。昨年度の年次報告書においても、この点についての議論の必要性が述べられている。そこで、今年度はそれをふまえて、後期分のアンケートから、通常のアンケートのほかに、各教員が任意に自身の授業についてアンケートをとれるような方策を考えた。その授業に固有の項目に関して教員個人が設定した質問に学生が答えるという形式のアンケートを、通常のアンケートに付加したのである。設問は10問まで設定できるものとし、回答方式は、通常の授業アンケートと同じ5段階方式とした。集計処理は点検評価委員会で行い、結果の判断・利用は各教員に委ねるという方式をとった。この方式に対する学生や各教員の反応は、本報告書作成段階ではまだ点検評価委員会には届いていないが、授業評価アンケートの改良に向けて一歩前進したと捉えられることを望んでいる。

平成16年度から、北海道大学は法人化し、評価システムそのものが従前とは違ったものになる。しかしその中で「学生による授業アンケート」については、中期目標・中期計画（素案）において、「引き続き実施するとともに、その結果への教員の対応を学生に公開する」ことが明文化されている。授業アンケートの実施に関するノウハウは、すでに十分な蓄積があるものと考えられる。したがって今後は「教員の対応」をどのように収集し、いかなる方法で学生に公開するかというのが1つの重要な検討事項になるものと考えられる。

法人化後は、様々な面で「評価」が重要な役割を果たすことになる。新システムにおける学生による授業評価の位置づけも当然低いものではありえないだろうが、評価の1根拠となる「学生による授業アンケート」については、昨年度の年次報告書でも指摘されているように、その重要性を鑑みて、設計や解析に関してより高い専門性が要求されることが予想される。このことを考慮した場合、各年度ごとに編成される委員会で点検評価に関する事項を扱うという従来方式の限界は明らかであろう。その意味で、法人化後に設置が想定されている「評価室」には、この点における高度の専門性が備わっていることを期待するものである。

分析のための全体集計：平成15年度(平成14年度後期及び平成15年度前期実施分)

1 「シラバスとその内容」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均														専門 教育 平均	言語 文化部 平均
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産				
1 シラバスは、授業の目標、内容、 評価方法を明快に示していた。	5	20.06	19.18	35.17	22.87	33.15	25.70	18.72	14.20	27.35	15.47	16.35	21.31	28.71	20.15	20.45	22.82		
	4	36.59	36.88	42.66	42.83	39.91	38.20	34.18	34.95	37.94	37.52	34.39	35.56	31.33	41.29	36.46	39.47		
	3	39.09	37.94	19.61	32.94	24.60	31.60	44.04	44.13	31.74	45.19	45.45	40.47	38.65	35.86	39.60	33.91		
	2	3.16	4.42	2.44	1.37	1.54	3.37	2.26	5.03	2.06	1.34	2.82	2.08	0.56	2.03	2.61	2.78		
	1	1.09	1.59	0.12	0.00	0.80	1.12	0.80	1.69	0.90	0.49	0.99	0.58	0.75	0.68	0.88	1.02		
	無回答	1.03	0.76	0.62	1.01	0.91	0.97	3.06	0.52	0.77	1.32	0.92	1.44	1.11	0.50	1.14	0.83		
	平均値	3.71	3.68	4.10	3.87	4.03	3.84	3.68	3.55	3.89	3.66	3.62	3.75	3.87	3.78	3.73	3.80		
2 授業は体系的に行われていた。	5	30.24	27.83	38.57	36.15	50.03	37.19	33.81	21.00	38.59	31.97	26.23	34.60	49.72	28.03	31.30	36.44		
	4	39.25	39.57	40.81	40.71	34.21	41.50	40.03	34.61	33.59	39.45	39.77	39.38	30.06	41.76	39.10	42.26		
	3	23.94	24.97	16.52	20.61	11.79	16.30	22.10	30.08	23.08	22.80	27.09	21.24	16.88	25.16	23.48	17.69		
	2	5.11	5.79	3.66	2.53	3.18	3.62	3.25	10.88	2.69	4.70	5.18	4.02	2.78	4.21	4.81	2.96		
	1	1.47	1.85	0.43	0.00	0.79	1.39	0.82	3.43	2.05	1.09	1.74	0.75	0.56	0.85	1.31	0.65		
	無回答	0.17	0.23	0.06	0.00	0.24	0.14	0.09	0.06	0.13	0.36	0.22	0.07	0.00	0.07	0.14	0.41		
	平均値	3.92	3.86	4.13	4.10	4.30	4.09	4.03	3.59	4.04	3.97	3.84	4.03	4.26	3.92	3.94	4.11		
設問1、2の合計	5	25.17	23.51	36.87	29.54	41.62	31.47	26.38	17.61	32.99	23.76	21.30	28.00	39.27	24.10	25.90	29.65		
	4	37.92	38.23	41.73	41.77	37.05	39.86	37.15	34.78	35.76	38.48	37.09	37.48	30.69	41.52	37.79	40.87		
	3	31.48	31.44	18.06	26.74	18.17	23.92	32.90	37.08	27.40	33.94	36.24	30.79	27.71	30.50	31.50	25.78		
	2	4.14	5.11	3.05	1.95	2.36	3.50	2.76	7.96	2.38	3.03	4.00	3.06	1.68	3.12	3.71	2.87		
	1	1.28	1.72	0.28	0.00	0.80	1.26	0.81	2.57	1.48	0.79	1.37	0.67	0.65	0.76	1.09	0.83		
	無回答	0.60	0.50	0.34	0.51	0.58	0.56	1.58	0.29	0.45	0.84	0.57	0.75	0.56	0.28	0.64	0.62		
	平均値	3.82	3.77	4.12	3.99	4.16	3.97	3.86	3.57	3.96	3.81	3.73	3.89	4.06	3.85	3.84	3.96		

2 「教官の授業法」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均														専門 教育 平均	言語 文化部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下	26 ~50							51 ~100	101 ~200	201 以上	20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~80	81 ~100		
3 教官の 熱意が伝わ ってきた。	5	35.57	35.85	47.76	51.69	53.91	45.34	35.45	25.22	41.54	34.62	28.94	39.50	47.68	32.31	35.45	45.40	34.85	45.16	34.36	36.83	46.37	38.16	31.38	36.00	41.36	32.57	38.10	33.91	32.30	38.25		
	4	35.68	34.36	37.13	34.46	31.56	31.29	38.11	38.44	31.28	34.74	36.44	35.33	32.65	39.42	36.26	35.77	36.02	31.16	34.21	37.28	34.27	35.84	36.07	35.69	33.42	36.90	33.66	35.08	37.20	35.11		
	3	21.95	21.81	13.06	10.98	12.15	15.99	22.37	27.49	22.31	25.60	25.44	19.91	17.44	23.07	22.01	15.24	22.30	17.21	23.19	20.62	15.77	20.73	24.46	20.95	18.27	23.16	21.07	23.16	23.10	20.76		
	2	5.16	5.95	1.55	2.53	1.95	5.70	3.43	7.63	3.33	3.61	6.67	4.35	1.86	3.96	4.82	2.85	5.23	4.27	5.95	4.32	2.66	4.22	6.07	5.65	4.60	6.36	5.71	5.86	5.53	4.49		
	1	1.64	2.04	0.50	0.34	0.43	1.67	0.64	1.22	1.54	1.44	2.51	0.90	0.37	1.24	1.47	0.74	1.60	2.19	2.28	0.95	0.93	1.05	2.03	1.71	2.35	1.02	1.45	1.98	1.87	1.39		
	無回答	0.09	0.06	0.19	0.00	0.18	0.00	0.09	0.17	0.13	0.00	0.09	0.11	0.00	0.07	0.10	0.09	0.09	0.08	0.08	0.09	0.04	0.10	0.08	0.11	0.09	0.00	0.18	0.13	0.05	0.09		
	平均値	3.98	3.96	4.30	4.35	4.37	4.13	4.04	3.79	4.08	3.97	3.83	4.08	4.25	3.98	3.99	4.22	3.97	4.13	3.92	4.05	4.23	4.06	3.89	3.99	4.07	3.94	4.01	3.93	3.93	4.04		
4 教官の 話し方は聞 き取りやす かった。	5	31.27	31.17	43.35	35.87	42.92	41.78	33.04	24.53	35.51	25.96	26.70	33.96	42.86	28.99	31.32	43.18	30.41	42.77	30.02	32.54	46.77	35.24	27.72	26.92	31.36	22.90	28.54	28.05	29.27	34.71		
	4	32.37	31.84	34.04	29.10	27.99	33.09	34.24	25.90	34.01	31.48	33.24	29.87	36.18	32.60	32.60	33.78	32.62	28.86	31.31	33.54	32.10	32.02	32.27	32.92	33.84	29.52	32.69	31.89	32.12	32.77		
	3	23.71	23.11	16.02	22.17	17.34	17.13	23.34	30.52	23.33	26.80	26.56	23.07	17.81	24.64	23.98	16.18	24.02	19.55	24.43	22.94	16.09	22.08	25.32	25.99	22.74	29.01	24.59	25.79	24.87	21.73		
	2	9.46	10.33	5.22	11.51	6.72	9.19	8.70	7.97	11.79	10.58	10.87	7.55	7.24	7.58	9.09	5.44	9.72	6.14	10.17	8.73	3.91	8.29	10.85	10.50	8.57	14.25	10.41	10.49	10.07	8.34		
	1	3.19	3.55	1.37	1.35	1.53	3.90	1.83	2.73	3.46	2.64	4.39	2.19	2.23	2.62	3.02	1.43	3.22	2.69	4.07	2.26	1.13	2.38	3.83	3.66	3.47	4.33	3.77	3.79	3.67	2.45		
	無回答	0.13	0.15	0.06	0.17	0.18	0.14	0.14	0.00	0.13	0.00	0.18	0.07	0.00	0.11	0.12	0.18	0.12	0.23	0.14	0.12	0.04	0.14	0.12	0.17	0.14	0.00	0.35	0.14	0.10	0.11		
	平均値	3.79	3.77	4.13	3.87	4.08	3.95	3.87	3.70	3.78	3.70	3.65	3.89	4.04	3.81	3.80	4.12	3.77	4.03	3.73	3.85	4.19	3.89	3.69	3.69	3.81	3.52	3.72	3.70	3.73	3.89		
5 授業は、 難解な概 念、理論が あっても、 わかりやす かった。	5	19.05	18.33	26.55	21.45	32.62	27.68	20.31	16.74	26.63	10.94	14.55	22.48	28.01	17.91	19.36	26.50	18.53	25.89	17.89	20.25	28.56	21.77	15.95	16.69	23.89	17.81	17.81	17.16	17.43	21.25		
	4	31.67	30.21	38.62	33.61	37.39	32.68	30.19	33.49	30.09	29.81	28.88	34.03	37.48	35.88	32.30	37.42	31.58	32.82	30.55	32.91	35.86	33.19	29.97	31.32	33.02	31.30	31.32	30.86	31.41	32.26		
	3	32.45	32.00	26.49	31.93	21.08	28.37	34.03	37.21	29.96	44.47	35.23	31.65	25.79	32.09	32.65	28.20	32.79	27.78	33.14	31.71	26.74	30.99	34.53	32.78	29.58	25.95	32.53	32.68	33.33	31.81		
	2	12.70	14.13	7.21	11.49	7.64	8.48	11.85	10.70	10.12	11.78	15.82	10.18	7.42	10.23	12.07	6.62	12.93	9.73	13.44	11.89	7.54	11.11	14.32	14.48	9.89	18.32	13.62	14.12	13.44	11.29		
	1	4.14	5.32	1.12	1.52	1.28	2.78	3.61	1.86	3.20	3.00	5.52	1.65	1.30	3.89	3.62	1.06	4.16	3.79	4.98	3.24	1.29	2.94	5.23	4.73	3.61	6.62	4.72	5.19	4.39	3.78		
	無回答	0.13	0.16	0.19	0.00	0.24	0.00	0.09	0.00	0.00	0.00	0.18	0.18	0.00	0.07	0.13	0.18	0.13	0.15	0.14	0.13	0.08	0.14	0.12	0.15	0.23	0.00	0.18	0.13	0.16	0.12		
	平均値	3.49	3.42	3.82	3.62	3.92	3.74	3.52	3.53	3.67	3.34	3.31	3.66	3.83	3.54	3.52	3.81	3.47	3.67	3.43	3.55	3.83	3.60	3.37	3.41	3.64	3.35	3.44	3.41	3.44	3.57		
設問3、 4、5の 合計	5	28.63	28.45	39.23	36.34	43.15	38.27	29.60	22.16	34.56	23.84	23.40	31.98	39.52	26.40	28.71	38.36	27.93	37.94	27.43	29.88	40.57	31.72	25.02	26.54	32.21	24.43	28.15	26.37	26.33	31.40		
	4	33.24	32.14	36.59	32.39	33.48	30.66	33.80	35.39	29.09	32.85	32.27	34.20	33.33	37.16	33.72	35.66	33.41	30.95	32.02	34.58	34.0											

7-1 「学生満足度・達成度」について

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均												専門 教育 平均	言語 文化部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産							
6 授業により知的に刺激された。	5	23.68	23.63	33.73	29.27	44.28	28.83	24.46	18.80	29.32	17.79	17.04	26.76	38.96	21.47	23.71	24.84	22.62	37.84	20.70	26.79
	4	33.74	32.70	37.09	34.52	32.78	32.73	35.39	39.29	31.50	36.90	31.63	35.94	37.29	34.89	34.19	36.18	33.86	32.05	32.63	34.98
	3	30.39	29.36	22.65	28.43	18.17	27.72	31.18	32.60	28.68	34.25	36.25	28.09	17.07	31.63	30.84	29.12	31.00	22.32	32.64	28.04
	2	9.03	10.07	5.35	6.60	4.16	7.38	7.04	7.22	8.07	8.53	11.31	7.41	4.82	8.57	8.58	7.14	9.32	5.22	9.92	8.08
	1	3.16	4.25	1.18	1.18	0.61	3.34	1.92	2.10	2.43	2.52	3.76	1.80	1.86	3.44	2.68	2.72	3.20	2.57	4.12	2.11
	無回答	0.16	0.15	0.25	0.17	0.37	0.14	0.05	0.12	0.00	0.00	0.21	0.18	0.00	0.18	0.17	0.18	0.17	0.11	0.17	0.16
	平均値	3.66	3.61	3.97	3.84	4.16	3.73	3.65	3.77	3.59	3.47	3.78	4.07	3.62	3.68	3.73	3.63	3.63	3.56	3.56	3.76
13 授業の履修目標を達成できた。	5	12.87	12.30	15.31	13.85	20.50	15.20	13.62	10.66	19.26	6.39	10.90	16.21	21.56	11.70	13.11	14.67	12.28	20.69	12.28	13.47
	4	31.57	31.79	38.58	37.50	37.94	30.13	32.61	26.81	34.15	27.62	28.69	33.07	35.13	32.06	31.48	37.43	31.26	35.58	29.52	33.77
	3	43.93	43.44	37.21	40.20	33.72	42.68	42.94	50.29	37.87	53.20	47.59	41.14	34.76	45.18	44.14	38.16	44.59	35.59	45.19	42.59
	2	9.24	9.56	7.78	7.77	7.04	9.90	9.27	10.49	6.16	10.62	9.93	8.25	7.25	8.19	9.19	8.03	9.35	6.35	9.91	8.52
	1	2.40	2.90	1.12	0.68	0.80	2.09	1.56	1.75	2.57	2.17	2.89	1.33	1.30	2.87	2.17	1.71	2.44	1.78	3.11	1.64
	無回答	0.34	0.37	0.25	0.00	0.43	0.28	0.37	0.23	0.26	0.36	0.34	0.32	0.19	0.28	0.32	0.32	0.34	0.26	0.34	0.33
	平均値	3.43	3.41	3.59	3.56	3.70	3.46	3.47	3.34	3.61	3.25	3.35	3.55	3.68	3.42	3.44	3.55	3.41	3.67	3.38	3.49
14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。	5	20.08	17.41	22.76	26.52	30.38	24.76	20.29	17.74	27.03	20.12	16.92	26.66	42.75	19.47	21.25	13.06	19.47	28.23	18.66	21.57
	4	34.76	30.77	37.44	39.70	37.22	33.99	38.11	38.16	36.16	39.28	34.35	38.51	38.66	36.96	36.51	27.96	34.83	33.88	33.19	36.51
	3	33.63	35.78	30.29	26.35	27.02	31.89	32.57	35.01	29.34	33.98	36.92	27.63	15.99	33.56	32.69	43.05	33.98	29.06	35.07	32.10
	2	9.16	12.59	8.02	6.42	4.83	7.55	7.79	7.23	5.28	5.06	9.40	5.62	2.23	7.59	7.65	13.38	9.34	6.67	10.07	8.13
	1	2.37	3.45	1.49	1.01	0.55	1.82	1.24	1.87	2.19	1.57	2.41	1.59	0.37	2.41	1.90	2.54	2.39	2.16	3.01	1.69
	無回答	0.30	0.30	0.19	0.00	0.30	0.56	0.23	0.35	0.51	0.24	0.32	0.32	0.19	0.32	0.30	0.32	0.30	0.26	0.34	0.26
	平均値	3.61	3.46	3.72	3.84	3.92	3.72	3.68	3.63	3.81	3.71	3.54	3.83	4.21	3.63	3.68	3.36	3.60	3.79	3.54	3.68
15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。	5	20.56	20.25	26.70	27.36	35.33	25.80	21.89	17.38	25.16	19.42	14.99	24.21	33.21	19.06	20.69	20.41	19.74	31.50	17.97	23.26
	4	33.98	32.85	36.53	35.81	37.47	35.43	34.80	36.50	35.43	35.46	31.76	35.81	41.74	34.05	34.47	34.50	33.84	35.67	33.10	34.96
	3	33.64	32.39	27.50	28.21	22.49	29.57	33.87	38.66	29.65	35.22	39.86	30.55	18.55	34.73	34.19	33.44	34.27	25.40	35.38	31.82
	2	8.55	10.03	8.15	7.43	3.61	6.69	7.57	5.66	6.29	7.96	9.63	7.42	5.19	8.47	7.89	8.52	8.83	4.81	9.30	7.75
	1	3.28	4.47	1.12	1.18	1.10	2.51	2.07	1.81	3.47	1.93	3.77	2.02	1.30	3.69	2.76	3.13	3.33	2.62	4.25	2.22
	無回答	0.30	0.30	0.25	0.00	0.30	0.28	0.41	0.29	0.26	0.36	0.36	0.32	0.00	0.21	0.30	0.14	0.30	0.30	0.30	0.31
	平均値	3.60	3.54	3.80	3.81	4.02	3.75	3.67	3.62	3.73	3.62	3.45	3.73	4.00	3.56	3.62	3.61	3.58	3.89	3.51	3.69
設問6、13、14、15の合計	5	19.30	18.40	24.62	24.25	32.62	23.65	20.07	16.14	25.19	15.93	14.96	23.46	34.12	17.93	19.69	18.25	18.53	29.57	17.40	21.27
	4	33.51	32.03	37.41	36.88	36.36	33.07	35.18	35.19	34.31	34.82	31.61	35.83	38.21	34.49	34.16	34.02	33.45	34.29	32.11	35.06
	3	35.40	35.24	29.41	30.80	25.35	32.96	35.14	39.14	31.39	39.16	40.15	31.85	21.59	36.27	35.46	35.94	35.96	28.03	37.07	33.63
	2	8.99	10.56	7.33	7.06	4.91	7.88	7.92	7.65	6.45	8.04	10.07	7.18	4.87	8.21	8.31	9.27	9.23	5.82	9.80	8.12
	1	2.80	3.77	1.23	1.01	0.76	2.44	1.70	1.88	2.66	2.05	3.21	1.68	1.21	3.10	2.38	2.52	2.84	2.28	3.62	1.91
	無回答	0.28	0.28	0.23	0.04	0.35	0.31	0.26	0.25	0.26	0.24	0.31	0.29	0.09	0.25	0.27	0.24	0.28	0.24	0.29	0.27
	平均値	3.58	3.51	3.77	3.76	3.95	3.68	3.64	3.56	3.73	3.55	3.45	3.72	3.99	3.56	3.60	3.56	3.56	3.83	3.50	3.66

7-2 「学生満足度・達成度」について

	授業 法 平均	学生 参加 平均	難易度							クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
			A	B	C	D	E	無回答	25	26	51	101	201	20	41	61	81		
									以下	~50	~100	~200	以上	以下	40	60	80	100	
6 授業により知的に刺激された。	5	4.54	4.19	25.10	18.61	26.50	24.34	28.71	13.68	39.53	25.34	19.78	21.76	31.78	28.75	26.61	22.62	22.46	24.37
	4	3.92	3.67	17.48	35.65	35.78	31.45	17.82	29.06	34.45	34.33	32.78	35.85	32.19	32.82	33.89	33.64	33.53	33.92
	3	3.40	3.31	26.52	32.39	30.24	26.27	22.28	31.62	19.69	29.80	33.34	28.95	26.36	25.19	27.25	30.63	31.37	30.24
	2	2.82	2.92	17.08	10.77	6.01	14.67	13.37	18.80	4.76	8.00	10.39	9.85	6.74	11.45	8.53	9.58	9.49	8.51
	1	2.10	2.42	13.82	2.59	1.46	3.27	17.82	6.84	1.57	2.52	3.71	3.59	2.94	1.78	3.73	3.54	3.15	2.96
	無回答	0.08	0.17	0.06	0.17	0.12	0.00	0.00	11.36	0.08	0.14	0.17	0.17	0.32	0.00	0.32	0.21	0.12	0.15
	平均値	3.42	3.31	23.51	24.25	25.35	23.65	21.89	17.38	15.93	33.51	29.41	26.53	24.25	23.65	28.75	27.25	28.75	28.75
13 授業の履修目標を達成できた。	5	4.57	4.32	19.53	7.89	14.27	16.83	31.19	10.78	20.02	14.40	10.92	11.29	15.75	15.82	12.73	11.48	12.07	13.96
	4	4.06	3.80	14.31	30.96	35.37	29.29	14.36	21.57	37.20	33.09	29.67	30.45	34.71	27.55	30.11	29.19	31.53	32.85
	3	3.52	3.37	35.07	48.58	43.05	40.53	27.23	47.06	34.74	42.19	46.58	45.12	40.00	43.62	44.33	46.27	44.84	42.30
	2	3.03	3.05	18.14	11.03	6.41	10.53	12.38	15.69	6.63	8.54	9.94	10.21	8.01	9.95	9.95	9.99	9.23	8.81
	1	2.40	2.61	12.95	1.54	0.90	2.83	14.85	4.90	1.42	1.79	2.89	2.93	1.54	3.06	2.88	3.07	2.33	2.08
	無回答	0.08	0.14	0.28	0.28	0.24	0.26	0.00	22.73	0.32	0.31	0.37	0.28	0.41	0.25	0.39	0.45	0.35	0.28
	平均値	3.42	3.31	23.51	24.25	25.35	23.65	21.89	17.38	15.93	33.51	29.41	26.53	24.25	23.65	28.75	27.25	28.75	28.75
14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。	5	4.42	4.15	24.99	16.75	21.37	18.64	23.27	13.21	30.27	20.72	17.84	19.67	23.36	24.49	21.17	19.62	19.08	20.71
	4	3.90	3.67	19.94	37.13	36.31	32.46	17.33	26.42	36.40	33.74	34.47	36.44	36.26	35.20	36.30	35.71	34.98	33.98
	3	3.50	3.37	29.18	34.28	34.20	31.62	31.19	33.96	26.03	34.46	35.02	32.11	31.15	32.14	31.71	32.79	34.56	33.61
	2	3.04	3.02	15.12	10.09	7.05	14.46	11.39											

8 - 1 「学生の出席・態度」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産							
16 この授業の自分の出席率は()%程度であった。	100%	62.40	68.58	42.58	41.53	46.60	46.93	66.00	47.67	59.77	74.25	65.06	62.03	54.00	63.92	59.68	72.18	61.88	69.22	65.05	59.53	
	80%	26.99	23.62	35.79	38.14	32.82	35.61	23.71	31.97	33.03	21.06	26.06	28.30	36.50	25.43	28.47	23.40	27.11	25.29	25.47	28.63	
	60%	8.72	6.13	15.65	16.78	16.17	13.97	8.74	16.69	6.56	4.21	7.80	8.20	8.57	9.09	9.85	4.05	9.02	4.81	7.86	9.64	
	40%	1.19	0.97	3.49	2.71	2.88	2.23	1.28	2.51	0.51	0.24	0.72	0.83	0.56	0.85	1.29	0.32	1.25	0.45	1.06	1.34	
	20%	0.71	0.69	2.49	0.85	1.53	1.26	0.27	1.17	0.13	0.24	0.36	0.65	0.37	0.71	0.71	0.05	0.74	0.23	0.57	0.86	
	無回答	0.24	0.23	0.43	0.34	0.49	0.42	0.14	0.35	0.26	0.12	0.18	0.14	0.37	0.04	0.24	0.14	0.25	0.15	0.21	0.27	
平均値	4.49	4.58	4.12	4.17	4.20	4.25	4.54	4.22	4.52	4.69	4.55	4.50	4.43	4.51	4.45	4.67	4.48	4.63	4.53	4.45		
17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	5	11.56	10.86	9.01	8.95	14.97	12.26	13.05	9.97	17.97	6.14	11.39	14.27	13.57	12.68	11.87	18.14	10.56	24.87	12.00	11.05	
	4	24.06	24.16	21.75	24.16	25.60	23.54	26.88	22.84	30.55	27.23	23.84	23.09	26.58	21.95	24.01	33.01	23.30	34.14	24.32	23.81	
	3	45.61	42.46	46.67	47.13	41.66	42.06	44.41	50.35	41.72	50.48	48.60	47.01	43.87	47.17	46.99	36.33	46.60	32.48	45.83	45.39	
	2	14.07	16.46	16.66	16.89	13.56	16.16	12.64	12.47	7.19	13.98	12.31	12.14	11.34	12.96	13.02	9.67	14.65	6.36	13.17	15.01	
	1	4.70	6.06	5.90	2.87	4.22	5.99	3.02	4.37	2.57	2.17	3.86	3.49	4.65	5.24	4.11	2.85	4.89	2.16	4.68	4.74	
	無回答	0.23	0.22	0.12	0.00	0.24	0.14	0.18	0.23	0.26	0.24	0.28	0.32	0.19	0.14	0.24	0.09	0.24	0.15	0.24	0.23	
	平均値	3.24	3.17	3.11	3.19	3.34	3.20	3.34	3.22	3.54	3.21	3.27	3.32	3.33	3.24	3.27	3.54	3.20	3.73	3.26	3.21	

8 - 2 「学生の出席・態度」について

	授業 法 平均	学生 参加 平均	難易度							クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)					講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
			A	B	C	D	E	無回答	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	20 以下	21~ 40	41~ 60	61~ 80	81~ 100					
			16 この授業の自分の出席率は()%程度であった。	3.80	3.65	67.18	62.51	61.80	59.20	54.27	65.66	60.48	63.17	64.53	57.83	55.37	54.08	47.48	56.25				
80%	3.74	3.53	23.30	28.74	26.43	28.83	28.14	22.22	29.75	27.73	25.31	28.66	29.00	28.06	31.98	29.70	27.32	24.78	27.11	25.29	25.47	28.63	
60%	3.54	3.32	6.94	7.13	10.07	8.30	8.04	3.03	8.36	7.65	8.45	10.54	12.10	15.31	15.74	11.23	8.40	6.61	9.02	4.81	7.86	9.64	
40%	3.36	3.15	1.30	1.13	1.09	2.38	1.51	6.06	0.97	0.97	1.14	1.52	2.13	1.53	2.95	1.68	1.09	0.76	1.25	0.45	1.06	1.34	
20%	3.29	3.02	1.28	0.49	0.61	1.29	8.04	3.03	0.44	0.48	0.57	1.44	1.40	1.02	1.85	1.14	0.56	0.45	0.74	0.23	0.57	0.86	
無回答	0.09	0.18	0.11	0.15	0.14	0.45	1.49	25.00	0.16	0.23	0.23	0.21	0.54	0.25	0.35	0.34	0.16	0.24	0.25	0.15	0.21	0.27	
平均値	3.75	3.58	4.54	4.52	4.48	4.42	4.19	4.41	4.49	4.52	4.52	4.40	4.35	4.33	4.20	4.38	4.50	4.58	4.48	4.63	4.53	4.45	

8 - 3 「学生の出席・態度」について

	授業 法 平均	学生 参加 平均	難易度							クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)					講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
			A	B	C	D	E	無回答	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	20 以下	21~ 40	41~ 60	61~ 80	81~ 100					
			17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	4.42	4.40	19.93	8.76	11.59	13.14	20.90	13.21	20.06	13.55	10.11	8.64	10.08	10.43	9.80	9.99				
4	4.04	3.93	15.19	25.84	24.81	21.99	15.42	15.09	30.27	25.12	23.54	20.60	23.92	18.58	22.58	21.48	24.22	25.30	23.30	34.14	24.32	23.81	
3	3.64	3.42	36.56	45.64	47.95	38.59	29.85	32.08	37.29	44.53	47.25	47.09	44.30	44.78	45.01	47.06	46.18	44.76	46.60	32.48	45.83	45.39	
2	3.34	3.09	16.83	15.56	12.22	19.42	12.44	22.64	10.01	12.94	14.34	16.84	15.55	17.81	16.15	15.80	14.12	12.92	14.65	6.36	13.17	15.01	
1	3.02	2.74	11.50	4.20	3.42	6.86	21.39	16.98	2.38	3.85	4.76	6.82	6.15	8.40	6.46	5.67	4.64	3.99	4.89	2.16	4.68	4.74	
無回答	0.08	0.15	0.25	0.14	0.17	0.06	0.50	19.70	0.12	0.22	0.27	0.19	0.32	0.00	0.25	0.27	0.20	0.25	0.24	0.15	0.24	0.23	
平均値	3.75	3.58	3.15	3.19	3.29	3.15	3.02	2.85	3.56	3.32	3.20	3.07	3.16	3.05	3.13	3.14	3.23	3.30	3.20	3.73	3.26	3.21	

分析のための全体集計

設問	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化部 平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産			
設問 1 - 15の平均値	3.68	3.64	3.91	3.85	3.95	3.77	3.73	3.64	3.81	3.60	3.56	3.81	4.00	3.68	3.70	3.88	